千葉工業大学

# 学生生活アンケート

## 2017年

## (報 告 書)

平成30年3月

学生委員会

# ま　え　が　き

本学学生の動態を把握する資料とするために、「学生生活アンケート」調査を実施し、集計を無事に終え冊子の発刊ができました。ご協力いただきました教職員の皆様に心より御礼申し上げます。

この調査は、2001 年から実施しており、本年で 18 年目となります。当初は、学生生活の満足度を調査しておりましたが、2006 年にアンケート項目を再検討し、更に大学の自己点検・自己評価調査等の第三者評価を考慮して、新たな視点からのアンケート項目も加えて参りました。2014 年度は再度日本高等教育評価機構から第三者評価を受け、この学生生活アンケートの調査結果が、本学学生の意識や考え方を理解する貴重な資料となりました。

ここ数年は教職員の皆さまのご協力によりアンケートの回収率が約８割まで増加いたしました。このアンケート集計結果を生かし、より良い改善を行い、充実した学生生活に繋げてもらえれば幸いです。

平成 30 年 3 月

学生委員会委員長　鈴木　　進

# ＜ 目　次 ＞

まえがき

目　次

調査実施の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

回収状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

調査項目の集計とその分析結果

＜Ⅰ＞プロフィールについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

居住形態／主たる学費支弁者

＜Ⅱ＞入学、授業等について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

建学の精神の認知度／教育目標の認知度／建学の精神及び教育目標に沿った教育／在籍学科の選択理由／在籍学科の満足度／カリキュラムの満足度／カリキュラム不満の原因／時間割の満足度／時間割不満の原因／履修科目決定時の進級・卒業要件の把握／ＧＰＡ算出方法の認知／授業内容への期待／授業の出席状況／勉学意欲と授業への取組み／自習時間／熱意を持って意欲的に取り組んだ授業【2015 年度以前入学生】／熱意を持って意欲的に取り組んだ授業【2016 年度以降入学生】／担任制度の利用／オフィスアワーの利用／学習支援センターの利用／グローバルラウンジの利用／事務窓口の利用／キャンパスポータルシステムの利用／Web や電子メールによるレポートの受付／Web による講義資料の配布／Web による講義映像の配信／学内における自習の場所

＜Ⅲ＞学生生活について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45

学生生活の目的／クラブ､サークルの加入状況／クラブ､サークルを行う目的または目標／クラブ､サークルの１日の平均活動時間／ボランティア活動への参加／ボランティア活動に参加する(した)理由／海外留学／「留学したいが理由があってできない」、「留学したくない」と解答した理由／現在、抱えている悩みや問題／悩みや問題の相談／ハラスメント防止のための委員会や相談員の認知／喫煙の有無／喫煙のよる健康への影響の認識／喫煙のよる受動喫煙の認識／禁煙の意志／キャンパス内全面禁煙

＜Ⅳ＞進路について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・64

将来の進路／大学院進学理由／大学院に進学しない理由／民間企業への希望業種／民間企業への希望職種／職業選択の重視度／職業観教育(キャリア教育)科目の設置（進路を考えるきっかけとして）／キャリア支援充実への希望／自分自身によるキャリアアップの実施状況

＜Ⅴ＞アルバイトについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・75

アルバイトの有無／アルバイトをする最も大きな理由／アルバイトの１週間における日数／アルバイトを通じて得られたもの

＜Ⅵ＞図書館について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・80
図書館の利用頻度／図書館の利用目的／充実を希望する資料／図書の貸出日数及び冊数／シラバスに掲載されている参考書の利用頻度／レファレンスサービスの利用経験／日本大学生産工学部・東邦大学及び神田外語大学の図書館の利用／希望図書の購入申し込み制度／電子ジャーナルの利用経験／オンラインデータベースの利用経験／電子ブックの利用経験／1 年間に読んだ本の冊数
＜Ⅶ＞学生食堂・購買部について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・94
学生食堂の利用頻度／学生食堂の満足度／購買部の利用頻度／購買部の満足度
＜Ⅷ＞施設・設備について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・99
新習志野校舎・津田沼校舎の駐輪場／新習志野校舎・津田沼校舎の談話室／改善希望の施設・設備
＜Ⅸ＞大学への要望について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・104
教育関係への要望／福利厚生・施設への要望
＜Ⅹ＞試験種別について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・107
利用した試験種別
＜Ⅺ＞受講者数・教員との信頼について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・109
授業における受講者の人数／教員と学生との間の信頼関係
＜Ⅻ＞学生諸君の学習意欲・達成度について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・112
希望する将来の職種において必要な専門的知識／豊かで知性に満ちた人生を歩むうえで必要な教養／自ら学ぶ習慣や主体的に行動することの大切さ／正確な日本語や簡単な英語によるコミュニケーション力／社会で実際に役に立つ応用力
＜XIII ＞進級や卒業について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 118
進級や卒業に関する不安／留年の原因／留年が原因のうち最も深く関連する履修の要件

## 調査実施の概要

この調査は、平成 13 年度より実施されていた学生生活満足度アンケート調査を大幅に見直し、平成 18 年度から学生生活アンケート調査と改め学部学生を対象に実施している。今年度も全学部、全学科の 1 年生から 4 年生を対象に実施した。なお、昨年度同様、4 年生については各研究室の卒業論文指導教員に調査の実施を依頼した。

調査は、学生個人を特定出来ないように配慮し、学部、学科、学年、男女別の識別はできるようにした。

調査項目は、次の 13 項目とし、それぞれに設問を設けた。

Ⅰ　プロフィールについて
　学年、学科、性別、居住、学費支弁者等基礎的事項 5 小項目について質問した。

Ⅱ　入学、授業等について
　建学の精神の認知度、教育目標の認知度、カリキュラムの満足度、勉学意欲と授業への取組み等 27 小項目について質問した。

Ⅲ　学生生活について
　学生生活の目的、ボランティア活動への参加、海外留学に対する考え等 16 小項目について質問した。

Ⅳ　進路について
　将来の進路、民間企業の希望業種、職業選択の重視度等 9 小項目について質問した。

Ⅴ　アルバイトについて
　アルバイトに関する 4 小項目について質問した。

Ⅵ　図書館について
　利用頻度、利用目的等 12 小項目について質問した。

Ⅶ　学生食堂・購買部について
　食堂、購買に関する 4 小項目について質問した。

Ⅷ　施設・設備について
　駐輪場、談話室の 2 小項目について質問した。

Ⅸ　大学への要望について
　教育関係、福利厚生・施設関係の 2 小項目について質問した。

Ⅹ　試験種別について
　利用した試験種別の 1 小項目について質問した。

Ⅺ　受講者数・教員との信頼について
　授業における受講者の人数、教員と学生との間の信頼関係の 2 小項目について質問した。

Ⅻ　学生諸君の学習意欲・達成度について
　希望する将来の職種において必要な専門的知識等 5 小項目について質問した。

XIII　進級や卒業について
　進級や卒業に関する不安、留年の原因の 2 小項目について質問した。

この調査を通して一人でも多くの教職員の方々が、この調査結果を活かし、学部生がより良い学生生活をおくれるための一助として活用いただければ幸いです。

最後に、今回のアンケート実施にあたり、多くの教職員のご理解とご協力をいただいたことに感謝申し上げます。

## 回 収 状 況

今回の調査は、学部学生 9、170 名に対して実施し、7、234 名から回答があった。全体の回収率は、昨年度より 2%増加の 79%であった。昨年度と回収率を比較すると、1 年生 91%（1%減)、2 年生 82%（2%増)、3 年生 74%（10%増)、4 年生 67%（6%減）であった。

目標値 80%目前である回収率 79%については、1 年生回収率 90%台の安定（3 年連続）及び 2 年生回収率漸増によるところが大きい。しかし、懸案事項である 2 年生に学年進行するに伴っての大幅な回収率減少について、アンケート提出・回収に協力願う旨 2 年生及び 2 年生クラス担任に依頼したところであるが、今年度も大幅な減少（92%→82%減）が見受けられた。今後も継続してアナウンスしたい。

また、4 年生の指導教員並びに 1 年生から 3 年生のクラス担任のご理解とご協力が得られるよう努める所存である

| | | ＜1年＞ | | | ＜2年＞ | | | ＜3年＞ | | | ＜4年＞ | | | ＜全体＞ | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 回答数 | 配布数 | 回答率 | 回答数 | 配布数 | 回答率 | 回答数 | 配布数 | 回答率 | 回答数 | 配布数 | 回答率 | 回答数 | 配布数 | 回答率 |
| 工学部 | 機械工学科 | 138 | 150 | 92 % | 141 | 152 | 93 % | 0 | 0 | 0 % | 0 | 0 | 0 % | 279 | 302 | 92 % |
| | 機械電子創成工学科 | 129 | 139 | 93 % | 102 | 120 | 85 % | 0 | 0 | 0 % | 0 | 0 | 0 % | 231 | 259 | 89 % |
| | 先端材料工学科 | 127 | 134 | 95 % | 113 | 129 | 88 % | 0 | 0 | 0 % | 0 | 0 | 0 % | 240 | 263 | 91 % |
| | 電気電子工学科 | 144 | 161 | 89 % | 133 | 150 | 89 % | 0 | 0 | 0 % | 0 | 0 | 0 % | 277 | 311 | 89 % |
| | 情報通信システム工学科 | 128 | 141 | 91 % | 106 | 127 | 83 % | 0 | 0 | 0 % | 0 | 0 | 0 % | 234 | 268 | 87 % |
| | 応用化学科 | 117 | 125 | 94 % | 109 | 118 | 92 % | 0 | 0 | 0 % | 0 | 0 | 0 % | 226 | 243 | 93 % |
| | 機械サイエンス学科 | 0 | 0 | 0 % | 12 | 19 | 63 % | 292 | 383 | 76 % | 243 | 323 | 75 % | 547 | 725 | 75 % |
| | 電気電子情報工学科 | 0 | 0 | 0 % | 18 | 26 | 69 % | 294 | 351 | 84 % | 217 | 319 | 68 % | 529 | 696 | 76 % |
| | 生命環境科学科 | 0 | 0 | 0 % | 6 | 7 | 86 % | 209 | 249 | 84 % | 169 | 246 | 69 % | 384 | 502 | 76 % |
| | 建築都市環境学科 | 1 | 1 | 100 % | 16 | 20 | 80 % | 269 | 378 | 71 % | 209 | 304 | 69 % | 495 | 703 | 70 % |
| | デザイン科学科 | 0 | 0 | 0 % | 7 | 8 | 88 % | 150 | 192 | 78 % | 118 | 202 | 58 % | 275 | 402 | 68 % |
| | 未来ロボティクス学科 | 1 | 1 | 100 % | 6 | 7 | 86 % | 106 | 147 | 72 % | 70 | 131 | 53 % | 183 | 286 | 64 % |
| 創造工学部 | 建築学科 | 139 | 163 | 85 % | 120 | 162 | 74 % | 0 | 0 | 0 % | 0 | 0 | 0 % | 259 | 325 | 80 % |
| | 都市環境工学科 | 131 | 146 | 90 % | 79 | 114 | 69 % | 0 | 0 | 0 % | 0 | 0 | 0 % | 210 | 260 | 81 % |
| | デザイン科学科 | 146 | 160 | 91 % | 105 | 135 | 78 % | 0 | 0 | 0 % | 0 | 0 | 0 % | 251 | 295 | 85 % |
| 先進工学部 | 未来ロボティクス学科 | 137 | 145 | 94 % | 110 | 130 | 85 % | 0 | 0 | 0 % | 0 | 0 | 0 % | 247 | 275 | 90 % |
| | 生命科学科 | 119 | 124 | 96 % | 113 | 117 | 97 % | 0 | 0 | 0 % | 0 | 0 | 0 % | 232 | 241 | 96 % |
| | 知能メディア工学科 | 140 | 147 | 95 % | 114 | 126 | 90 % | 0 | 0 | 0 % | 0 | 0 | 0 % | 254 | 273 | 93 % |
| 情報科学部 | 情報工学科 | 147 | 157 | 94 % | 133 | 158 | 84 % | 138 | 166 | 83 % | 103 | 132 | 78 % | 521 | 613 | 85 % |
| | 情報ネットワーク学科 | 144 | 167 | 86 % | 129 | 161 | 80 % | 79 | 167 | 47 % | 121 | 148 | 82 % | 473 | 643 | 74 % |
| 社会システム科学部 | 経営情報科学科 | 120 | 136 | 88 % | 86 | 129 | 67 % | 102 | 140 | 73 % | 73 | 111 | 66 % | 381 | 516 | 74 % |
| | プロジェクトマネジメント学科 | 114 | 126 | 90 % | 93 | 123 | 76 % | 55 | 115 | 48 % | 68 | 127 | 54 % | 330 | 491 | 67 % |
| | 金融・経営リスク科学科 | 65 | 75 | 87 % | 41 | 63 | 65 % | 44 | 64 | 69 % | 26 | 76 | 34 % | 176 | 278 | 63 % |
| 回答者合計 | | 2187 | 2398 | 91 % | 1892 | 2301 | 82 % | 1738 | 2352 | 74 % | 1417 | 2119 | 67 % | 7234 | 9170 | 79 % |

# [調査項目の集計とその分析結果]

**すべての設問にお答えください。**

**回答は添付回答用紙(マークシート)に記入し、提出してください。**

## ＜Ⅰ＞プロフィールについて

**Ⅰ-① 何年次ですか。**

1. 1年次
2. 2年次
3. 3年次
4. 4年次

**Ⅰ-② 学科は、どこですか。**

【工学部】

1. 機械
2. 機電
3. 材料
4. 電電
5. 通信
6. 応化

7.機サ
8.電情
9.生環
10.建都
11.デザ
12.ロボ

【創造工学部】

13.建築
14.都市
15.デ科

【先進工学部】

16.未ロ
17.生命
18.知能

【情報科学部】

19.情報
20.NS

【社会システム科学部】

21.経情
22.PM
23.金融

**Ⅰ-③ 性別は、どちらですか。**

1. 男性
2. 女性

**Ⅰ-④ あなたは現在、どちらから通学していますか。**

1. 自宅から通学
2. 自宅外(学生寮を除く)から通学
3. 学生寮(大学が管理・運営する寮)から通学
4. その他

**Ⅰ-⑤ 学費はどのように払っていますか。**

1. 全額親から
2. 親からが主で、不足分を奨学金やアルバイトから
3. 奨学金やアルバイトからが主で、不足分を親から
4. 全額奨学金やアルバイトでまかなう
5. その他(わからないを含む)

## Ⅰ-④　居住形態

居住形態は、全体で約 71.1%の学生が「自宅から通学」しており、昨年度(2016 年度 約 73.3%)と同様に千葉県ならびに近県から通学している学生が多いことを示している。しかしながら、その割合は減少傾向にあり(2015 年度 約 74.7%)、自宅外から通学している学生が増えていることから、家賃など学費以外の負担を抱えている学生・学費支弁者が多く、増加傾向にあることに留意する必要がある。

次に学年別でみると、「自宅外（学生寮を除く）から通学」する学生の割合については、昨年度と同様に 1 年生が低く、3 年生が最も高い結果となった。また、進級に合わせて集団が移行する点を考慮して、昨年度の進級前の学年(現在の学年の 1 学年下)と比較すると、現在の 2 年次は+1.4%、3 年次は＋5.1%、4 年次は＋2.1%と、いずれも増加傾向にあることが確認された。特に 3 年次の増加率が大きく、学生寮を満期退寮した学生の多くが一人暮らしを選択したことが要因と考えられる。1 年生については、「自宅から通学」する学生の割合が低く（約 68.4%）、昨年度と比較しても-0.5%減っていることから、地方出身者の増加や、近距離でも一人暮らしを選択する学生が増えているのではと考えらえる。そして、「学生寮（大学が管理・運営する寮）」を住居とする 1・2 年生の割合は、それぞれ 12.4%、10.8%と高く、入居者の多くが地方出身者であることから、大学の認知度の高さと地方出身者に対する修学支援の充実さがうかがえる。

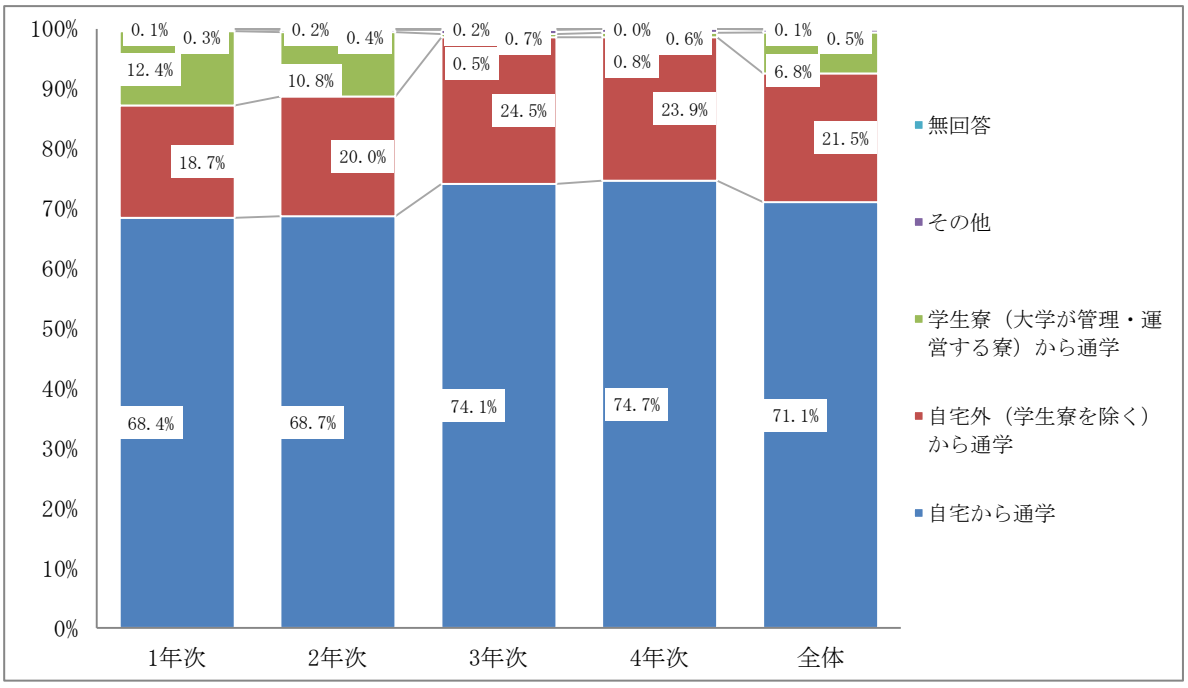


図 1.4　居住形態

(回答者数)

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 自宅から通学 | 1497 | 1300 | 1288 | 1058 | 5143 |
| 2. 自宅外（学生寮を除く）から通学 | 410 | 378 | 426 | 339 | 1553 |
| 3. 学生寮（大学が管理・運営する寮）から通学 | 271 | 204 | 9 | 11 | 495 |
| 4. その他 | 7 | 7 | 12 | 9 | 35 |
| 無回答 | 2 | 3 | 3 | 0 | 8 |

## Ⅰ-⑤　主たる学費支弁者

主たる学費支弁者は、全体で約 62.1%の学生が「全額親から」、次いで約 20.3%の学生が「親からが主で、不足分を奨学金やアルバイトから」と回答しており、昨年度(「全額親から」 約 61.3%、「親からが主」約 21.3%)と比べてほとんど差はない。しかしながら、何らかの奨学金やアルバイトによって学費の全額あるいは一部をまかなっている学生は昨年度(約 36.9%)より下がってはいるものの約 35.8%にのぼり、相当な割合を占めているといえる。特に、「全額奨学金やアルバイトでまかなう」の割合が昨年度に比べて高くなっており、負担を抱える学生が多くなっていることに留意する必要がある。

本学では日本学生支援機構などの公的機関による奨学金制度に加え、学生共済会の学生納付金貸与制度や同窓会奨学金など、一般の教育ローンよりも種々の点で優遇された本学独自の支援制度を提供している。今後も、様々な経済的事情により学業の継続が困難になる学生が現れることが予想されるため、個々の学生が置かれている状況を把握した上で、経済的な面からきめ細かい対応が必要であると思われる。また、学生相談室やクラス担任が窓口となり、学生本人やその保護者に対して、学業継続に向けた努力を促す指導および助言が引き続き必要であると考えられる。

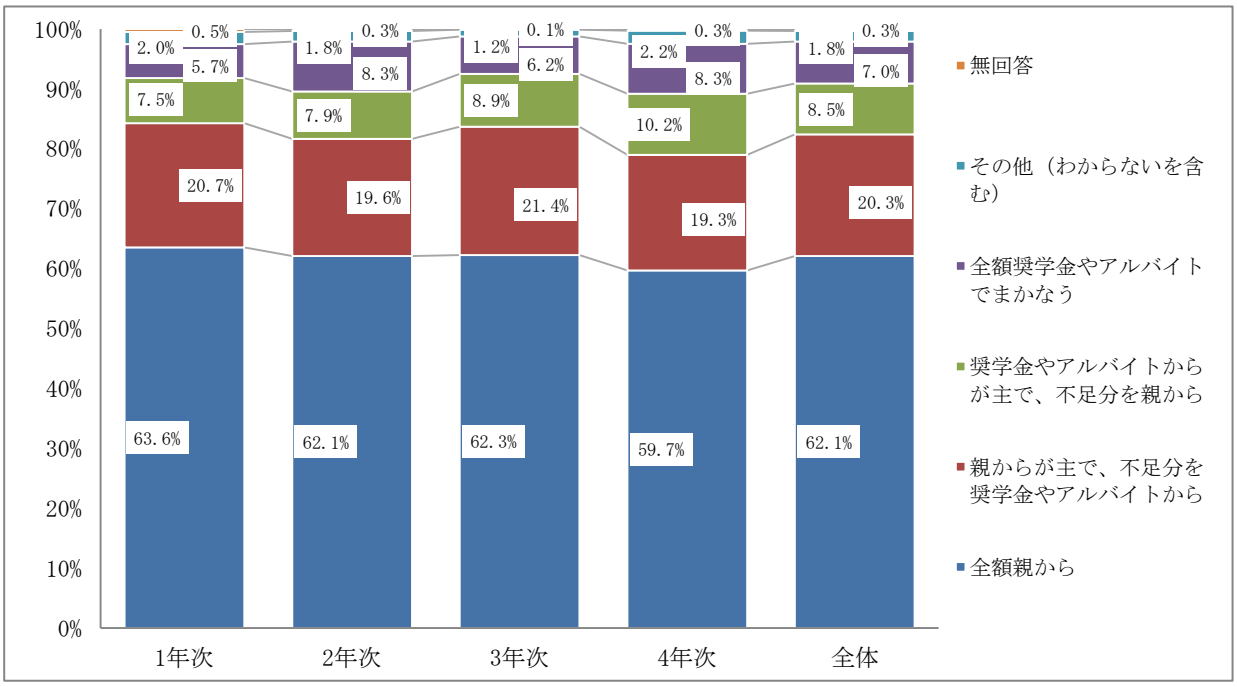


図 1.5　主たる学費支弁者

(回答者数)

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 全額親から | 1390 | 1175 | 1082 | 846 | 4493 |
| 2. 親からが主で、不足分を奨学金やアルバイトから | 453 | 370 | 372 | 273 | 1468 |
| 3. 奨学金やアルバイトからが主で、不足分を親から | 165 | 150 | 154 | 145 | 614 |
| 4. 全額奨学金やアルバイトでまかなう | 124 | 157 | 108 | 118 | 507 |
| 5. その他（わからないを含む） | 44 | 34 | 20 | 31 | 129 |
| 無回答 | 11 | 6 | 2 | 4 | 23 |

## ＜Ⅱ＞入学、授業等について

**Ⅱ－① 本学の建学の精神「世界文化に技術で貢献する」を知っていましたか。**

1. 知っていた
2. 知らなかった

**Ⅱ－② 本学の教育目標**

**「師弟同行、師弟共生の教育を以て、**
**・広く世界に知識を求める好学心を持つ人材の育成、**
**・自ら学び、自ら思索し創造する人材の育成、**
**・自由闊達、機智縦横な人材の育成、**
**・善隣及び協力をつくり上げていく人材の育成、**
**・高度な専門知識と豊かな教養を持つ、学理及び技術に優秀な人材の育成、**
**を目指す。」を知っていましたか。**

1. 知っていた
2. いくつか知っていた
3. 知らなかった

**Ⅱ－③ 建学の精神及び教育目標に沿って教育が行われていると思いますか。**

1. 思う
2. 少し思う
3. 思わない
4. 分からない

**Ⅱ－④ どのような理由で本学および在籍学科を選択しましたか（複数回答可）。**

複数回答可

1. 親、兄弟、親戚の勧め
2. 高校の先生や友人などの勧め
3. 社会的評価が高い
4. 環境・設備が優れている
5. 将来の就職を考えて
6. 本学の伝統や雰囲気が気に入って
7. 自分がひきつけられた学問分野である
8. その他

**Ⅱ－⑤ 現在在籍している学科に満足していますか。**

1. 満足している
2. ある程度満足している
3. どちらとも言えない
4. やや不満である
5. 不満である

**Ⅱ－⑥ 現在のカリキュラム（教育課程）に満足していますか。**

1. 満足している
2. どちらとも言えない
3. 不満である
4. カリキュラムのことはよく知らない

**設問Ⅱ－⑥で『3.不満である』と回答した方は、次の設問にも回答してください。**

**その不満の原因は、どれにあたりますか。**

1. 各科目間の内容の重複が多すぎる
2. 各科目間の内容の関連が不明である
3. 科目開講学期に問題がある
4. 全体的に授業の内容が高度すぎて難しい
5. 全体的に授業の内容がやさしすぎる
6. 科目間の難易度のバランスに問題がある
7. 多くの科目の内容は期待と違う
8. その他

**Ⅱ－⑦ 現在の時間割に満足していますか。**

1. 満足している
2. どちらとも言えない
3. 不満である

**設問Ⅱ－⑦で『3.不満である』と回答した方は、次の設問にも回答してください。**

**その不満の原因は、どれにあたりますか。**

1. 授業と授業の間の空き時間が多い
2. 1 科目や 2 科目のために大学に出てこなければならない
3. 関連する授業科目同士で時間割上のつながりが配慮されていない
4. 前期または後期にとれる科目やとりたい科目が集中してしまう
5. 授業と授業の間の休み時間や昼休み時間が少ない
6. 90 分の授業時間が長い
7. その他

**Ⅱ－⑧ 履修科目を決めるにあたり進級・卒業要件は把握していますか。**

1. 卒業要件まで把握している
2. 自分の学年の部分までは把握している
3. あまりよく把握していない

**Ⅱ－⑨ GPA の算出方法を知っていますか。**

1. 知っている
2. 知らない

**Ⅱ－⑩ 授業の進め方や中身について、何を期待しますか（複数回答可）。**

複数回答可

1. 専門的な知識が身につく
2. AV 機器などを用いた授業が受けられる
3. 新しい分野、新しいテーマの勉強ができる
4. 実験・実習のテーマや内容が豊富である
5. 自分の好きな・興味のもてる勉強ができる
6. 分かりやすい授業が受けられる
7. 複数人で話合い他人の意見を共有できる
8. 課題の解決法を複数人で話合い，解を導く
9. 映像を見る自習を行い，授業内で意見を出し合う
10. 実社会での応用など学んだことの広がりが分かる
11. 授業を通じて勉学意欲、向上心がわく
12. 少人数・ゼミ形式の授業が受けられる

**Ⅱ－⑪ 授業の出席状況は、どれに該当しますか。**

1. ほとんど出席した
2. 一部の授業を除いてよく出席した
3. 出席したり、しなかったりした
4. 一部の授業を除いてあまり出席しなかった
5. ほとんど出席しなかった

**Ⅱ－⑫ あなたの勉学意欲と授業への取組みは、どれに該当しますか。**

1. 勉学意欲はあり、授業もおおむね理解できる
2. 勉学意欲はあるが、理解できない授業がある
3. 勉学意欲はあまりないが、授業はおおむね理解できる
4. 勉学意欲はあまりないが、授業には出席している
5. 勉学意欲はあまりなく、授業を休みたくなることがある
6. 勉学意欲はほとんどなく、自分の進路を考えなおしたい

**Ⅱ－⑬ 原則として講義 1 科目につき週 4 時間，演習・実験・実習 1 科目につき週 2 時間の予習・復習時間が必要です。そのうえで，あなたは履修科目に対し、どの程度の予習・復習時間（事前・事後）をとりましたか。**

1. 履修した全ての科目でシラバスに明示された予習・復習を行った
2. 履修した半数以上の科目でシラバスに明示された予習・復習を行った
3. 履修した半数以下の科目でシラバスに明示された予習・復習を行った
4. シラバスどおりではないが，全体的に 1 日 5 時間程度の予習・復習を行った
5. シラバスどおりではないが，全体的に 1 日 4 時間程度の予習・復習を行った
6. シラバスどおりではないが，全体的に 1 日 3 時間程度の予習・復習を行った
7. シラバスどおりではないが，全体的に 1 日 2 時間程度の予習・復習を行った
8. シラバスどおりではないが，全体的に 1 日 1 時間程度の予習・復習を行った
9. ほとんど予習・復習は行っていない

**Ⅱ－⑭-（1） 熱意をもって意欲的に取り組んだ授業分野はどれですか【2015 年度以前の入学生のみ回答してください（複数回答可）】。**

複数回答可

1. 教養科目（人間論、日本国憲法、日本近代史等）
2. 教養の数学、教養の物理、教養の化学
3. 数学・物理・化学関連科目
4. 英語
5. ドイツ語、フランス語、中国語
6. スポーツ科目（スポーツ科学、体育実技等）
7. 情報処理演習科目
8. 基礎実験科目（物理学実験、化学実験等）
9. 専門実験及び演習科目
10. 専門基礎科目
11. 専門基幹科目
12. 専門展開科目
13. 卒論・ゼミ
14. 他学科・他分野科目
15. キャリア教育科目
16. 教職課程科目
17. 他大学科目
18. その他
19. 特になし

**Ⅱ－⑭-（2） 熱意をもって意欲的に取り組んだ授業分野はどれですか【2016 年度以降入学生のみ回答してください（複数回答可）】。**

複数回答可

1. 英語
2. 日本語
3. 情報処理
4. スポーツ科目
5. 初年次教育
6. キャリア教育
7. テーマA:国際文化と日本（言語と文化1　等）
8. テーマH:国際社会と日本
（グローバル時代の法　等）
9. テーマ別履修科目
10. 総合科目（課題探究セミナー　等）
11. 教養特別科目（ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ　等）
12. 専門基礎科目
13. 専門基幹科目
14 専門展開科目
15. ゼミナール・卒業研究
16. 他学科推奨科目
17. 教職課程科目
18. 放送大学・他大学科目
19. その他
20. 特になし

**Ⅱ－⑮ 学習上の相談をするために担任制度を利用したことがありますか。**

1. 利用したことがある
2. 利用したことがない
3. 担任制度を知らない

**Ⅱ－⑯ 学習上の相談をするためにオフィスアワーを利用したことがありますか。**

1. 利用したことがある
2. 利用したことがない
3. オフィスアワーを知らない

**Ⅱ－⑰ 学習上の問題解決をするために学習支援センターを利用したことがありますか。**

1. 利用したことがある
2. 利用したことがない
3. 学習支援センターを知らない

**Ⅱ－⑱ 英会話や英文読解などのスキルを身に付けるためにグローバルラウンジを利用したことがありますか。**

1. 利用したことがある
2. 利用したことがない
3. グローバルラウンジを知らない

**Ⅱ－⑲ 学習上の相談をするために事務窓口を利用したことがありますか。**

1. 利用したことがある
2. 利用したことがない
3. 事務窓口にいったことがない

**Ⅱ－⑳ 休講情報等が見られるキャンパスポータルシステム（携帯電話や PC）を利用していますか。**

1. よく利用している
2. 時々利用している
3. 履修登録時のみ利用している
4. 知っているがあまり利用していない
5. キャンパスポータルシステムを知らない

**Ⅱ-㉑ 授業支援システムの各種機能についてどう思いますか。**

**A. Web や電子メールによるレポートの受付**

1. 使っていて便利
2. 使ったが不便
3. 使ったことがないが使ってみたい
4. 使ったことはないが不要

**B. Web による講義資料の配布**

1. 使っていて便利
2. 使ったが不便
3. 使ったことがないが使ってみたい
4. 使ったことはないが不要

**C. Web による講義映像の配信**

1. 使っていて便利
2. 使ったが不便
3. 使ったことがないが使ってみたい
4. 使ったことはないが不要

**Ⅱ-㉒ 自己学習は、学内のどの場所を利用していますか（複数回答可）。**

複数回答可

1. 自学自習室
2. 図書館
3. 教室
4. 研究室
5. 実験・実習室
6. コンピュータ演習室
7. 食堂
8. 学生ラウンジ
9. ベンチ
10. その他

## Ⅱ-①　建学の精神の認知度

全体を見ると、「知っていた」と回答した学生の比率が 79.1%であり、昨年より 3.1 ポイント上昇している。「知っていた」の比率が増加する傾向は、ここ近年継続しており、良好な傾向が継続できている（2014 年：61.1%　→　2015 年：69.9%　→　2016 年：76.0%）。

学年別に見て「知っていた」の比率に着目すると、1 年次が低く、2 年次以降は 8 割近辺でわずかずつ減少している。一般的には、在籍期間が長いほど「知っていた」の比率が上昇することを期待するが、異なる結果となっている。このため、在籍期間による上昇の他に、入学年による差や、学年間での変化を考慮する必要があることがわかる。

例えば、入学年による差に関して、昨年と本年の同一学年を比較すると、1 年次は+4.4 ポイント、2 年次は+3.6 ポイント、3 年次は-1.0 ポイント、4 年次は+4.6 ポイントとなっており、3 年次を除き新しい入学年ごとに 4 ポイント程度上昇している。

また、学年間での変化に関して、入学年ごとに昨年からの変化を見ると、2 年次は昨年の 1 年次と比べて+11.4 ポイント、3 年次は 2 年次と比べて+2.6 ポイント、4 年次は 3 年次と比べて-3.0 ポイントとなっており、4 年次を除き増加している。特に、1 年次から 2 年次の増加が大きい。

以上の結果から、入学年ごとに建学の精神の認知度が高まっており良い傾向が継続できていること、1 年次に認知度を高める教育に注力することが効果的であることがわかる。

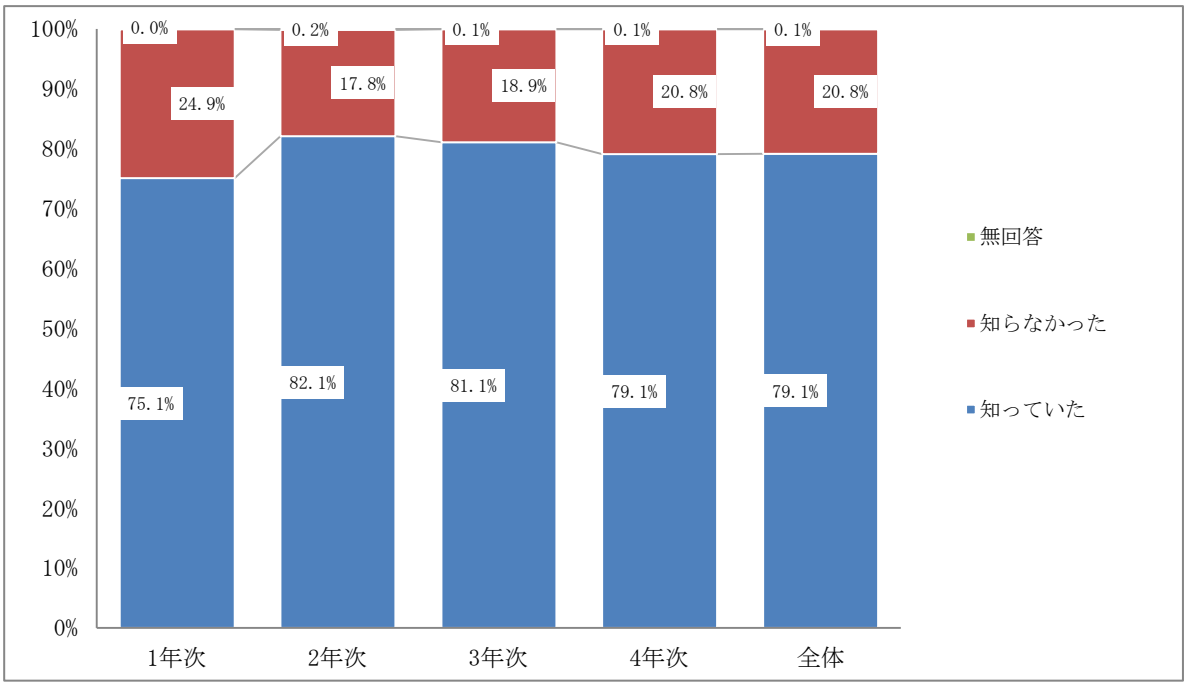


図 2.1　建学の精神の認知度

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 知っていた | 1642 | 1553 | 1409 | 1121 | 5725 |
| 2. 知らなかった | 544 | 336 | 328 | 295 | 1503 |
| 無回答 | 1 | 3 | 1 | 1 | 6 |

## Ⅱ-②　教育目標の認知度

全体を見ると、「知っていた」「いくつか知っていた」を合計した数値は 62.5% であり、全体の 6 割が教育目標を認知している結果となっている。この結果を前年度の結果と比べると、0.9 ポイントの上昇を示しており、近年、継続して低下傾向にあったものが下げ止まっている（2014 年：68.9% → 2015 年：65.7% → 2016 年：61.6%）。

学年別に見て「知っていた」「いくつか知っていた」の合計した数値に着目すると、在籍期間が長くなるにつれて認知度が向上する傾向が見られる。これは、前年度と同様の傾向である。このことは、年次毎の差はあるかもしれないが、「授業時間表＆履修ガイド」への掲載や各学年オリエンテーション等を通して繰り返し周知を促している結果と解釈できる。

以上の結果から、認知度の低下傾向は改善が見られるものの、教育目標の認知方法については、何らかの対策を講ずる必要があると考える。

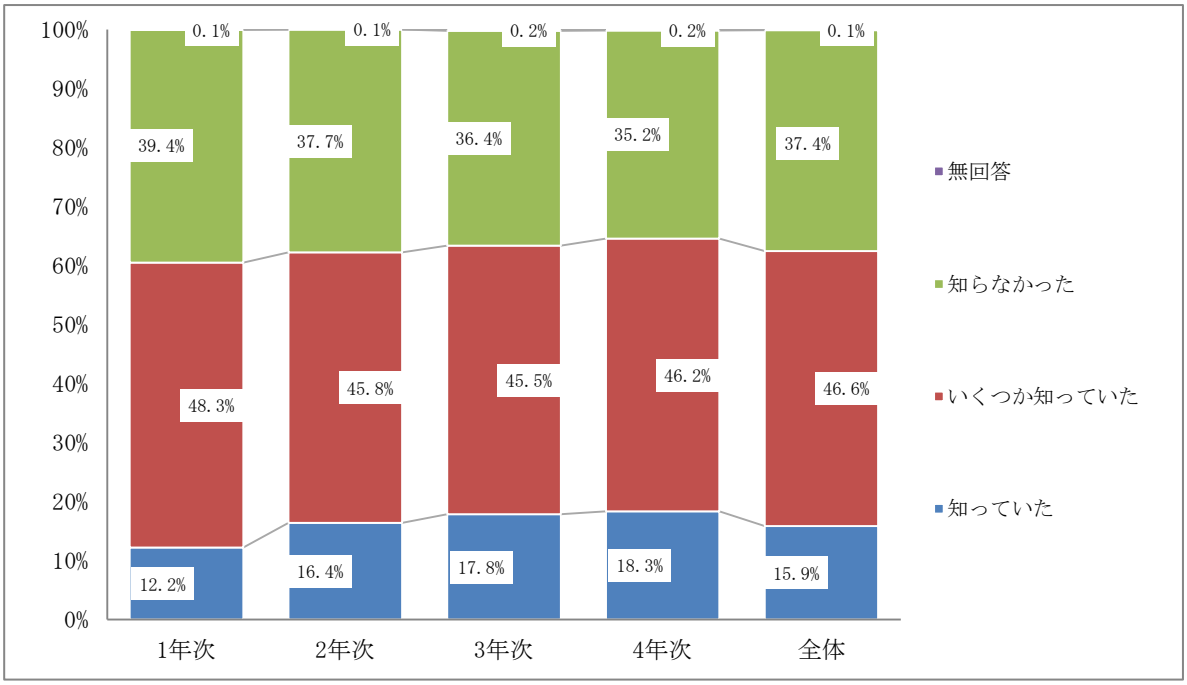


図 2.2　教育目標の認知度

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 知っていた | 267 | 310 | 310 | 260 | 1147 |
| 2. いくつか知っていた | 1056 | 867 | 791 | 655 | 3369 |
| 3. 知らなかった | 862 | 714 | 633 | 499 | 2708 |
| 無回答 | 2 | 1 | 4 | 3 | 10 |

## Ⅱ-③　建学の精神及び教育目標に沿った教育

全体を見ると、「思う」「少し思う」を合計した数値は 68.3% であり、全体の 7 割が建学の精神及び教育目標に沿った教育が行われていることを肯定的に考えている。また、「思わない」が 10.4%、その他（「分からない」、「無回答」）が 21.3%となっている。この結果を昨年度の結果と比べると、差異は 1%程度であり、ほぼ同等の結果となった。

学年別に見て「思う」「少し思う」の合計した数値に着目すると、2 年次と 4 年次で低下している特徴がある。4 年次での低下は昨年も見られた傾向であるが、2 年次の傾向は今年特有のものである。この傾向を入学年に着目して変化を調べると、昨年の 1 年次からは「思う」が-4.2%、「少し思う」が+1.0%、「思う」「少し思う」の合計が-3.2%、「思わない」が+4.8%となっており、「思う」の減少分が「思わない」へ移動していると推察される。

2 年次の学生は新カリキュラムの 1 期生であり、Ⅱ-①で述べたように建学の精神の認知度が昨年の 1 年次から 11 ポイント上昇するなど、学年の進行による意識の高まりがうかがえる。この入学年の今後の推移を注視し、ポジティブな変化へのヒントとすべきである。

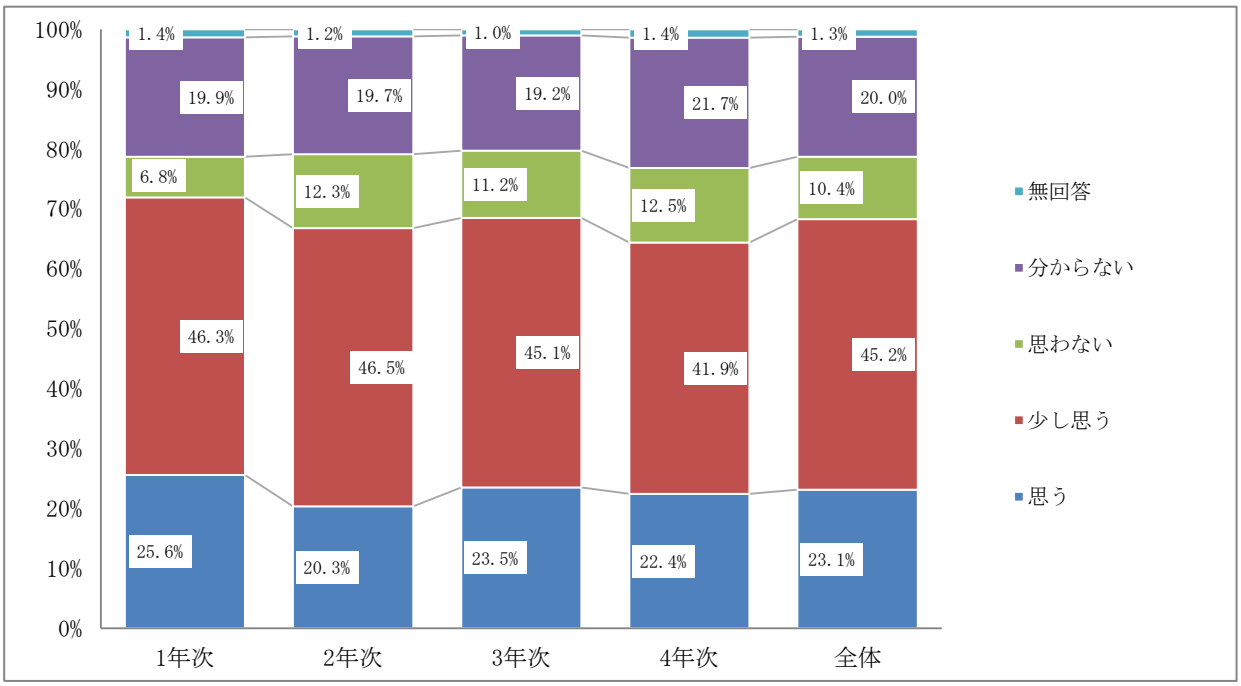


図 2.3　建学の精神及び教育目標に沿った教育

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 思う | 560 | 385 | 408 | 318 | 1671 |
| 2. 少し思う | 1013 | 879 | 783 | 594 | 3269 |
| 3. 思わない | 149 | 233 | 195 | 177 | 754 |
| 4. 分からない | 435 | 372 | 334 | 308 | 1449 |
| 無回答 | 30 | 23 | 18 | 20 | 91 |

## Ⅱ-④　在籍学科の選択理由　（複数回答可）

図の縦軸に示す在籍学科の選択理由は、一番上の「その他」を除き、上側が自発的な選択理由、下側が受動的な選択理由の項目を列挙している。横軸はアンケートに回答した学生数である。

選択理由が多い順番が「自分がひきつけられた学問分野である」「将来の就職を考えて」「高校の先生や友人などの勧め」「環境・設備が優れている」となっている傾向は、この数年間変わっていない。

なお、参考までに、昨年の新入生（回答者：3,429 人）と本年の新入生（回答者：3,460 人）の変化を見ると、増加人数が多い理由は「将来の就職を考えて」（56 人）、「環境・設備が優れている」（31 人）の順であり、減少人数が多い理由は「自分がひきつけられた学問分野である」（23 人）、「社会的評価が高い」（13 人）であった。

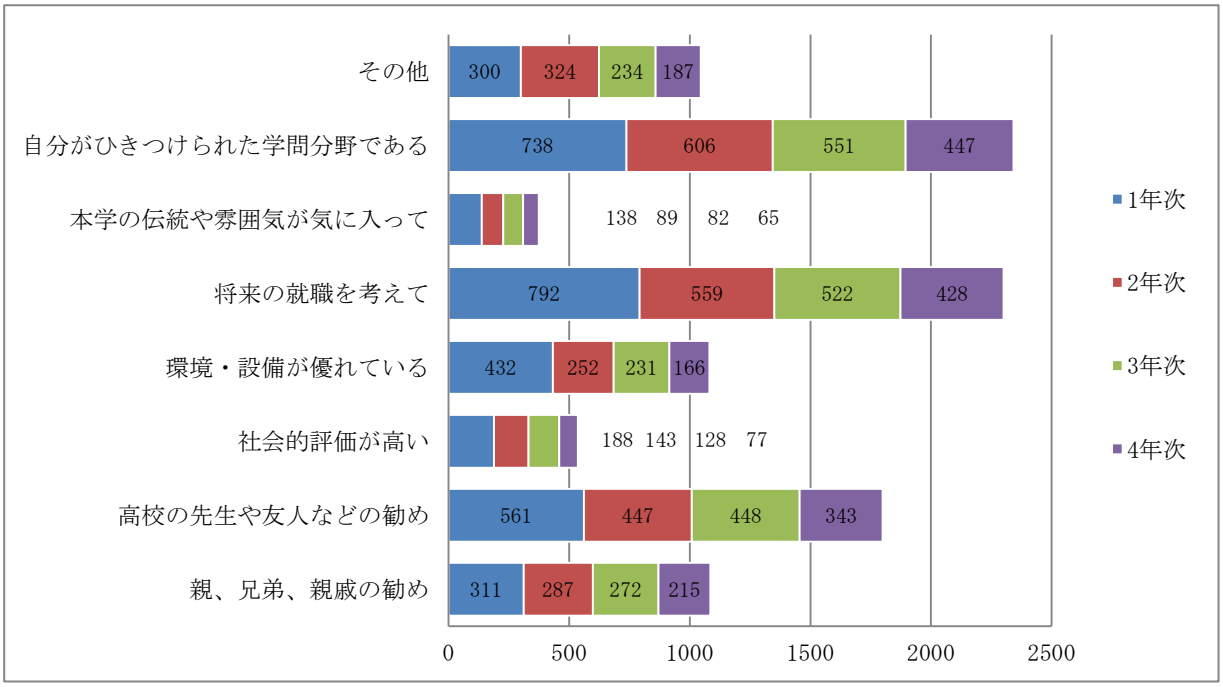


図 2.4　在籍学科の選択理由

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 親、兄弟、親戚の勧め | 311 | 287 | 272 | 215 | 1085 |
| 2. 高校の先生や友人などの勧め | 561 | 447 | 448 | 343 | 1799 |
| 3. 社会的評価が高い | 188 | 143 | 128 | 77 | 536 |
| 4. 環境・設備が優れている | 432 | 252 | 231 | 166 | 1081 |
| 5. 将来の就職を考えて | 792 | 559 | 522 | 428 | 2301 |
| 6. 本学の伝統や雰囲気が気に入って | 138 | 89 | 82 | 65 | 374 |
| 7. 自分がひきつけられた学問分野である | 738 | 606 | 551 | 447 | 2342 |
| 8. その他 | 300 | 324 | 234 | 187 | 1045 |

## Ⅱ-⑤　在籍学科の満足度

全体を見ると、「満足している」「ある程度満足している」を合計した数値は 72.2% であり、全体の 7 割が在籍学科をポジティブに考えている。一方、「やや不満である」「不満である」の合計は 10.6% となり、全体の 1 割が在籍学科をネガティブに考えている。この結果を昨年度の結果と比べると、差異は 1%程度であり、ほぼ同等の結果となった。

学年別に見て、上記のポジティブとネガティブの傾向を観察すると、2 年次と 3 年次でポジティブの比率が低下しネガティブの比率が増加するが、4 年次では逆の傾向を示している。この傾向は、ここ数年継続しているものである。

学年別の傾向について細かく観察すると、好ましい傾向としては、1 年次の結果を昨年と比較すると、ネガティブな比率が低下する一方（-3.0 ポイント、9.7%→6.7%）、ポジティブな比率が上昇し（+4.8 ポイント、72.7%→77.5%）、新入生の満足度が高まっている点が挙げられる。一方、好ましくない傾向としては、2 年次の学年のポジティブな比率が昨年の 1 年次に比べて低下する一方（-5.4 ポイント、72.7%→67.3%）、ネガティブな比率が上昇している（+3.2 ポイント、9.7%→12.9%）。全体でポジティブな比率を向上させるためには、1 年次から 2 年次の低下をいかに低減するかがポイントだと考えられる。

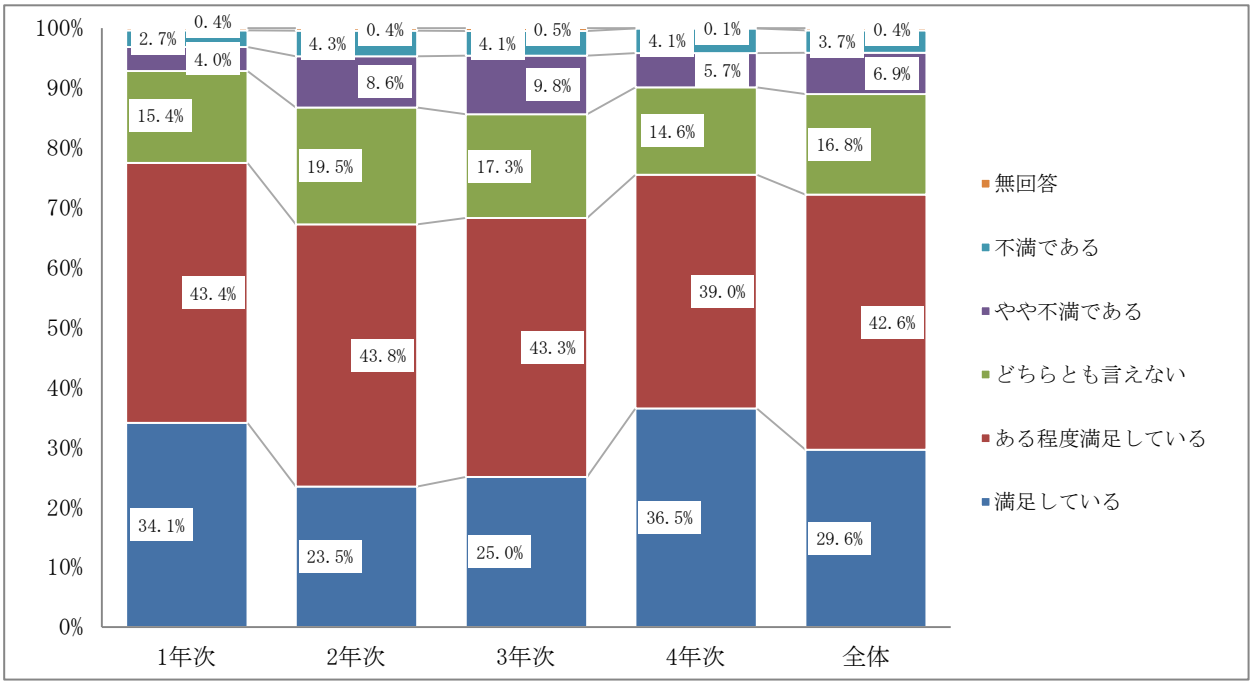


図 2.5　在籍学科の満足度

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 満足している | 745 | 444 | 435 | 517 | 2141 |
| 2. ある程度満足している | 949 | 828 | 752 | 553 | 3082 |
| 3. どちらとも言えない | 336 | 369 | 301 | 207 | 1213 |
| 4. やや不満である | 88 | 162 | 170 | 81 | 501 |
| 5. 不満である | 60 | 81 | 71 | 58 | 270 |
| 無回答 | 9 | 8 | 9 | 1 | 27 |

## Ⅱ-⑥　カリキュラムの満足度

全体を見ると、「満足している」の数値は 34.7%（昨年より 1.6 ポイント増）、「不満である」の数値は 11.9%（昨年より 0.6 ポイント増）であり、「どちらとも言えない」が約半数を占める 49.7%（昨年より 0.6 ポイント減）。この傾向は近年継続しているものである。

学年別に見ると、2 年次の「満足している」の低下と「不満足である」の増加が特徴的である。「満足している」の低下に関しては、昨年の 2 年次の入学年と比較しても 2.3 ポイント減少している（30.5%→28.2%）。また、この入学年について昨年の 1 年次からの変化を見ると 4.9 ポイント減少している（33.1%→28.2%）。一方、「不満である」の増加に関しては、昨年の 2 年次の入学年と比較しても 4.1 ポイント増加している（12.0%→16.1%）。また、この入学年について昨年の 1 年次からの変化を見ると 6.3 ポイント増加している（9.8%→16.1%）。2 年次単独の問題なのか、1 年次から 2 年次への繋ぎ方の問題なのか、原因を精査して改善につなげることが必要である。

一方、好ましい傾向としては、1 年次の「満足している」の割合が昨年よりも 6.4 ポイント向上している（33.1%→39.5%）。このことから、なおさら 2 年次での低下を最小限に防ぎ、高い満足度を維持していく必要がある。

以上、満足と不満足の変化に着目して考察したが、最も比率が多い「どちらとも言えない」層の内訳を分析し、満足に変えていく取り組みも必要である。

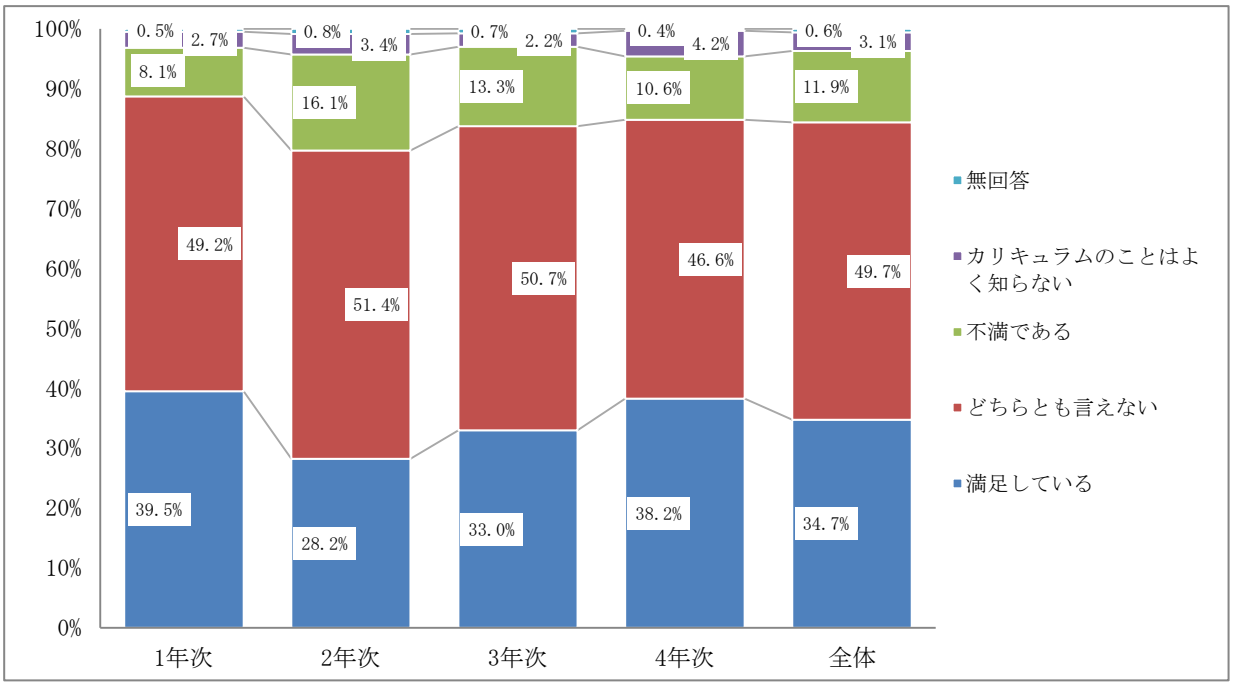


図 2. 6　カリキュラムの満足度

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 満足している | 863 | 534 | 573 | 542 | 2512 |
| 2. どちらとも言えない | 1077 | 973 | 882 | 660 | 3592 |
| 3. 不満である | 178 | 304 | 231 | 150 | 863 |
| 4. カリキュラムのことはよく知らない | 58 | 65 | 39 | 60 | 222 |
| 無回答 | 11 | 16 | 13 | 5 | 45 |

## Ⅱ-⑥Sub　カリキュラム不満の原因

**（Ⅱ-⑥で「不満である」と回答した方のみ）**

全体を見ると、「難易度のバランス」が約 2 割（18.0%）であるほかは、5 つの原因が約 1 割で並んでいる。昨年の結果と比較すると、「難易度バランス」が約 2 割（20.6%）でトップであることは同じであるが、「期待外れ」が 2.4 ポイント減少（14.0%→11.6%）、「難しすぎる」が 1.5 ポイント減少（11.3%→9.8%）した一方、「開講学期」が 2.4 ポイント増加（7.4%→9.8%）、「科目間の関連不明」が 1.3 ポイント増加（8.8%→10.1%）している。

学年別に見ると、1 年次は「やさしすぎる」が多いが、2 年次では「やさしすぎる」が減り、3 年次は「難しすぎる」が増加している。さらに、4 年次では「開講学期」「やさしすぎる」が多い。特に、Ⅱ-⑥でカリキュラムの不満足の増加が目立った 2 年次に着目すると、昨年の 1 年次と比べて「難易度バランス」が 8.2 ポイント減少（26.3%→18.1%）、「やさしすぎる」が 6.2 ポイント減少（11.5%→5.3%）している一方、「科目間の関連不明」が 5.5 ポイント増加（8.6%→14.1%）、「科目間の重複」が 4.0 ポイント増加（1.9%→5.9%）している。

そのほか、昨年から目立った変化として、1 年次の「やさしすぎる」が昨年度より 7.6 ポイント増加している（11.5%→19.1%）。

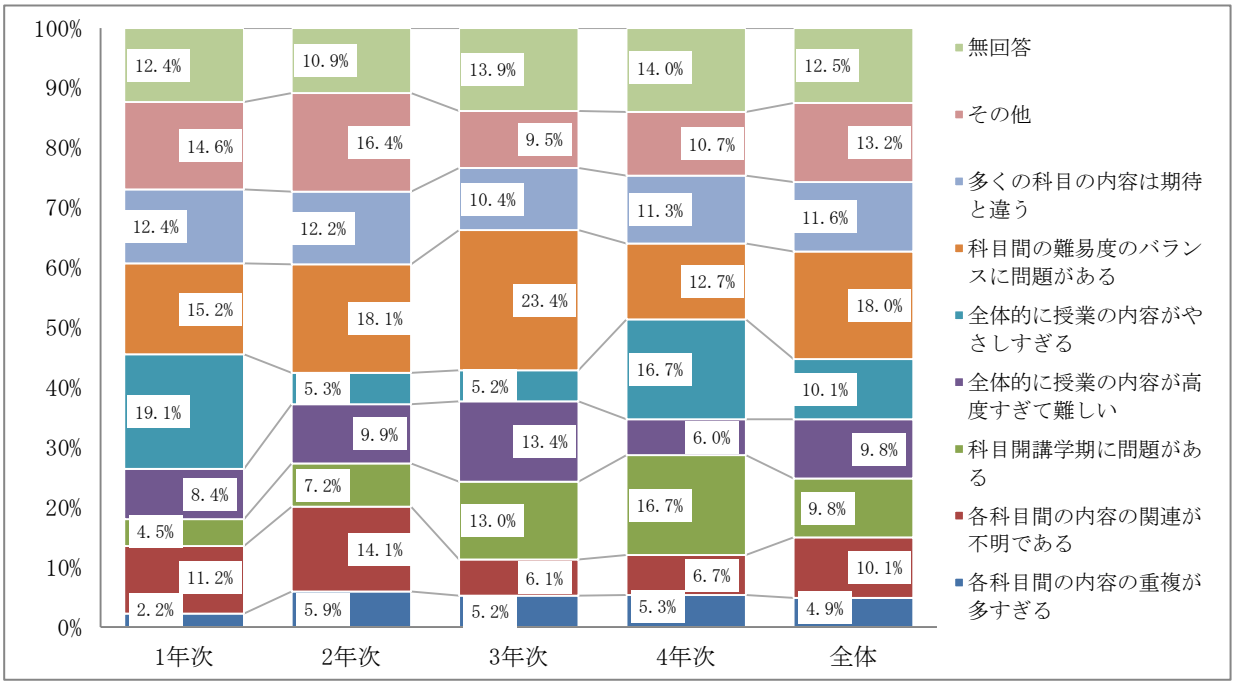


図 2.6.1　カリキュラム不満の原因

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 各科目間の内容の重複が多すぎる | 4 | 18 | 12 | 8 | 42 |
| 2. 各科目間の内容の関連が不明である | 20 | 43 | 14 | 10 | 87 |
| 3. 科目開講学期に問題がある | 8 | 22 | 30 | 25 | 85 |
| 4. 全体的に授業の内容が高度すぎて難しい | 15 | 30 | 31 | 9 | 85 |
| 5. 全体的に授業の内容がやさしすぎる | 34 | 16 | 12 | 25 | 87 |
| 6. 科目間の難易度のバランスに問題がある | 27 | 55 | 54 | 19 | 155 |
| 7. 多くの科目の内容は期待と違う | 22 | 37 | 24 | 17 | 100 |
| 8. その他 | 26 | 50 | 22 | 16 | 114 |
| 無回答 | 22 | 33 | 32 | 21 | 108 |

## Ⅱ-⑦　時間割の満足度

全体を見ると、「満足している」の数値は 46.4%（昨年より 2.6 ポイント増）、「不満である」の数値は 13.1%（昨年より 1.4 ポイント減）であり、「どちらとも言えない」が 40.0%（昨年より 1.1 ポイント減）を占めている。この傾向は近年継続しているものである。

学年別に見ると、2 年次の「満足している」の低下と「不満足である」の増加が特徴的である。この傾向は昨年と同じであり、科目履修の時間割構成の難しさに改善を要することが推察される。この傾向は 3 年次も同様である。

また、昨年も指摘されていたが、アンケートの方法として、「どちらとも言えない」の回答の内訳を調査して、不満足要因を明らかにして改善に生かす取り組みが求められる。

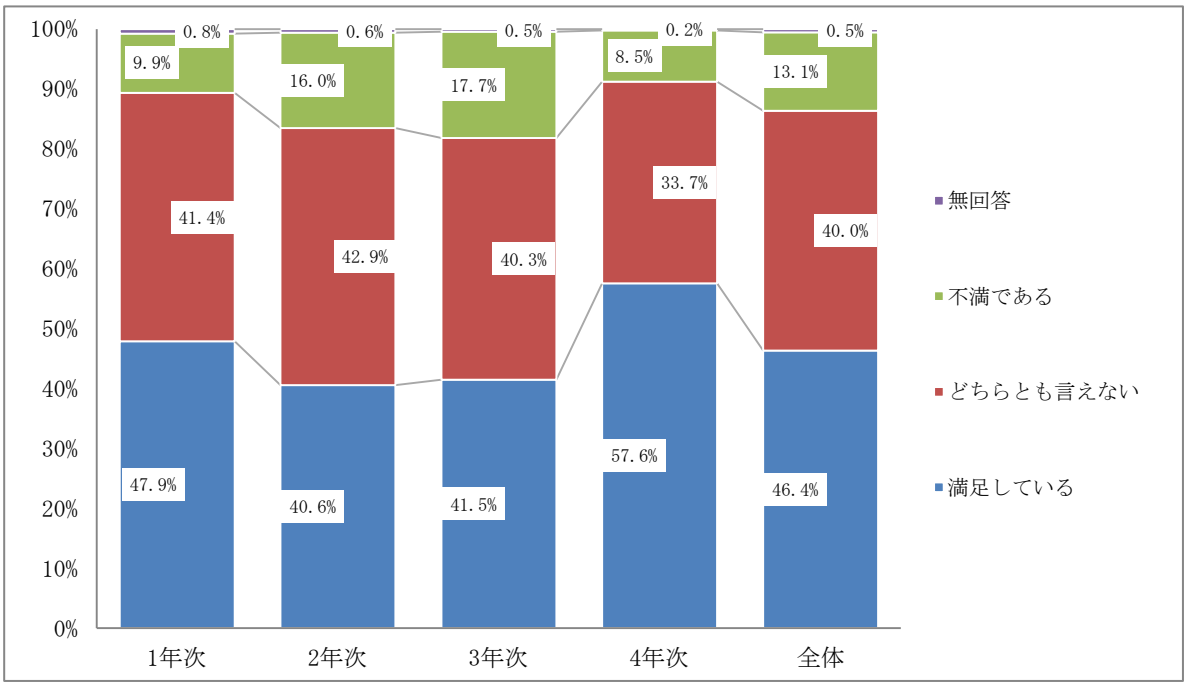


図 2.7　時間割の満足度

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 満足している | 1048 | 768 | 721 | 816 | 3353 |
| 2. どちらとも言えない | 906 | 811 | 701 | 477 | 2895 |
| 3. 不満である | 216 | 302 | 308 | 121 | 947 |
| 無回答 | 17 | 11 | 8 | 3 | 39 |

## Ⅱ-⑦Sub　時間割不満の原因

**（Ⅱ-⑦で「不満である」と回答した方のみ）**

全体を見ると、比率が多い 3 項目の順位は例年と同じであるが、数値に変化が見られた。トップの「1 科目や 2 科目のために登校（登校理由）」が 6.8 ポイント増加（24.1%→30.9%）した一方、「授業間の空き時間（空き時間）」は 6.4 ポイント減少（19.3%→12.9%）、「前期または後期に科目が集中（前後期バランス）」も 3.1 ポイント減少（13.1%→10.0%）した。

学年別に見て、Ⅱ-⑦で時間割の不満足が多い 2 年次と 3 年次に着目すると、「登校理由」が最も多く、昨年よりさらに増加している（2 年次 15.3 ポイント増加、3 年次 6.6 ポイント増加）。さらに、3 年次は「空き時間」も不満原因に加わっている（この比率は昨年とほぼ同等）。一方、2 年次では「空き時間」の比率が 18.1 ポイント減少している（25.7%→7.6%）。これは、新習志野校舎の新校舎が完成し、時間割の自由度が向上した効果だと推察できる。そのほか、昨年から目立った変化として、4 年次の「関連科目で時間割上のつながりが配慮されていない」が昨年度より 5.3 ポイント増加している（11.2%→16.5%）。

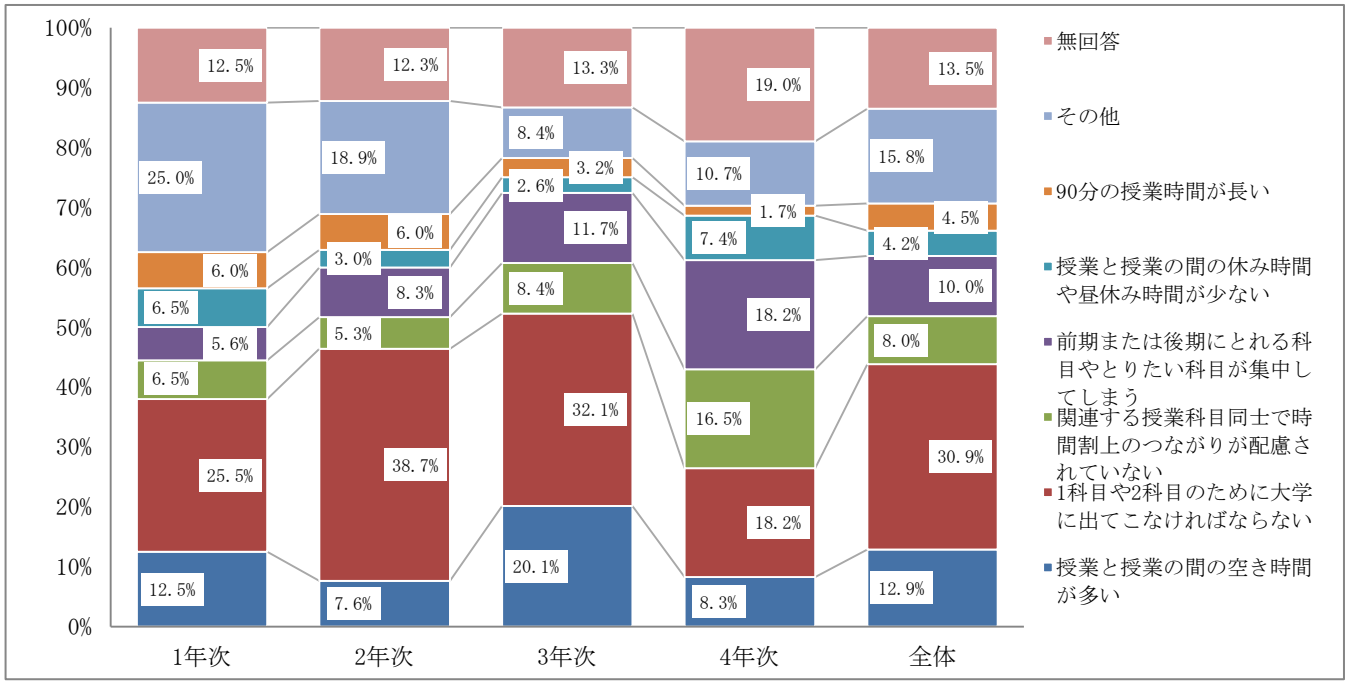


図 2.7.1　時間割不満の原因

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 授業と授業の間の空き時間が多い | 27 | 23 | 62 | 10 | 122 |
| 2. 1 科目や 2 科目のために大学に出てこなければならない | 55 | 117 | 99 | 22 | 293 |
| 3. 関連する授業科目同士で時間割上のつながりが配慮されていない | 14 | 16 | 26 | 20 | 76 |
| 4. 前期または後期にとれる科目やとりたい科目が集中してしまう | 12 | 25 | 36 | 22 | 95 |
| 5. 授業と授業の間の休み時間や昼休み時間が少ない | 14 | 9 | 8 | 9 | 40 |
| 6. 90 分の授業時間が長い | 13 | 18 | 10 | 2 | 43 |
| 7. その他 | 54 | 57 | 26 | 13 | 150 |
| 無回答 | 27 | 37 | 41 | 23 | 128 |

## Ⅱ-⑧　履修科目決定時の進級・卒業要件の把握

全体を見ると、「卒業要件まで」「自分の学年まで」を合わせた数値は 90.1%（昨年より 1.6 ポイント減）であり、9 割の学生が把握していることは例年と同じである。

学年別に見ると、学年が進むにつれて把握する割合が増えることは例年と同じであるが、新カリキュラムの 1 期生である 2 年次に昨年と大きな変化が見られた。2 年次について昨年と比べると、「卒業要件まで」「自分の学年まで」を合わせた数値は 3.8 ポイント減少（91.5%→87.7%）であるが、「卒業要件まで」が 10.3 ポイント減少（54.2%→43.9%）、「自分の学年まで」が 6.5 ポイント増加（37.3%→43.8%）であった。

以上のことから、新カリキュラムに変更したことにより「自分の学年まで」の進級要件の把握が容易になったことが推定される。一方で、「卒業要件まで」の要件を 1 期生の学生に周知することが必要であることがわかる。

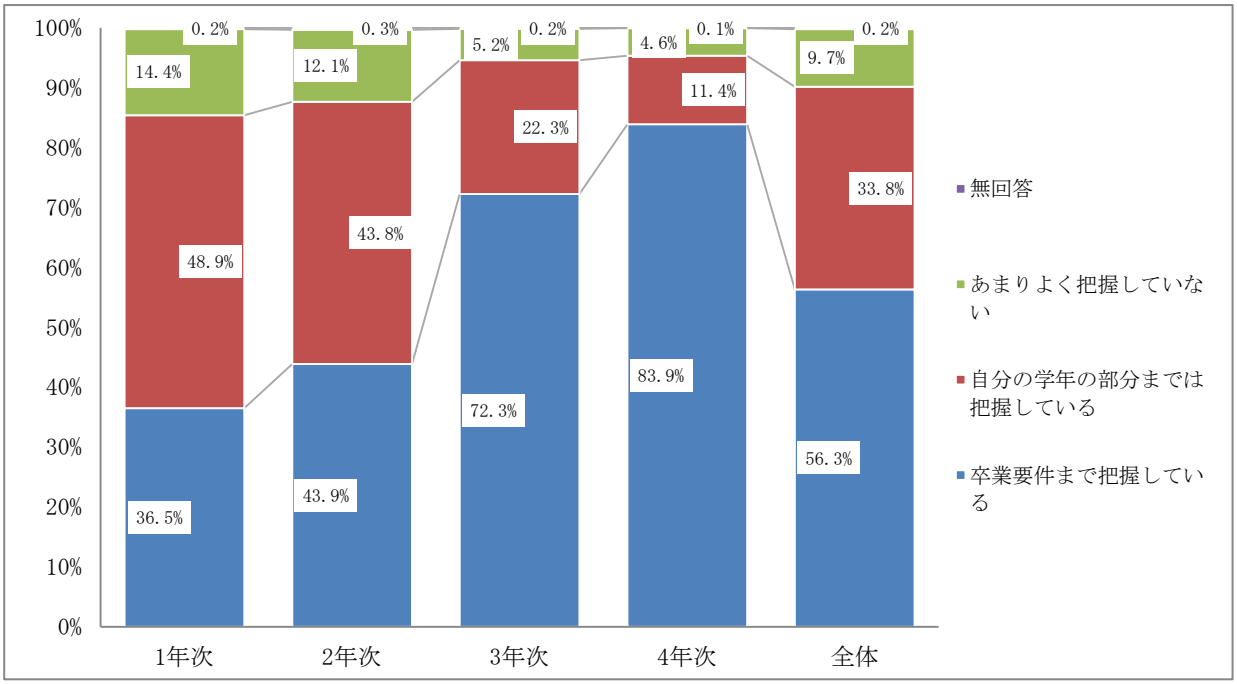


図 2.8　履修科目決定時の進級・卒業要件の把握

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 卒業要件まで把握している | 798 | 830 | 1256 | 1189 | 4073 |
| 2. 自分の学年の部分までは把握している | 1069 | 828 | 388 | 162 | 2447 |
| 3. あまりよく把握していない | 315 | 228 | 91 | 65 | 699 |
| 無回答 | 5 | 6 | 3 | 1 | 15 |

## Ⅱ-⑨　ＧＰＡ算出方法の認知

全体を見ると、「知っている」の数値は 64.3%（昨年より 0.1 ポイント減)、「知らない」の数値は 35.3%（昨年より 0.5 ポイント増）となり、例年と同じ傾向であることがわかる。

学年別の傾向は、昨年と同様である。

昨年のアンケート結果に対しても指摘されていたが、約 1/3 の「知らない」と回答する学生は、学問を学び修めることが目標ではなく、「単位を取ること」を目標としていることを意味しており、学びに対する継続的な動機付けが望まれる。

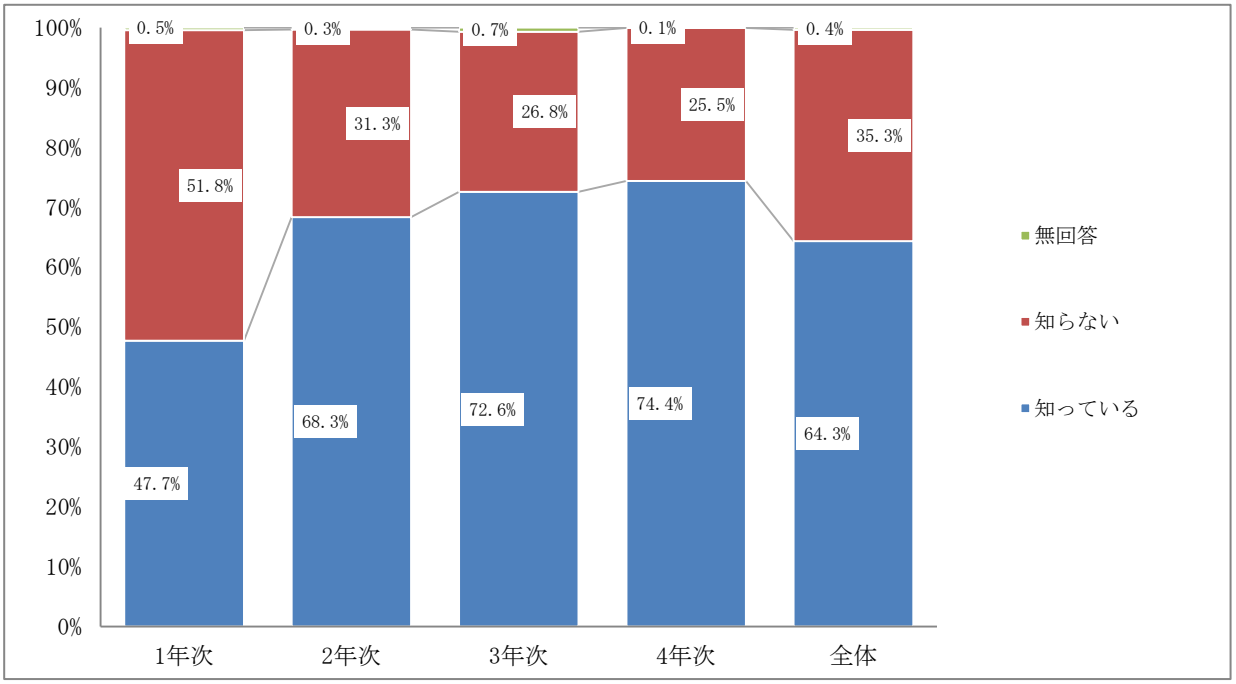


図 2.9　ＧＰＡ算出方法の認知

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 知っている | 1044 | 1293 | 1261 | 1054 | 4652 |
| 2. 知らない | 1133 | 593 | 465 | 362 | 2553 |
| 無回答 | 10 | 6 | 12 | 1 | 29 |

## Ⅱ-⑩　授業内容への期待　（複数回答可）

上位 5 項目については、近年、ほぼ同じ順位の結果が継続している。ただし、2 位の「興味ある授業」と 3 位の「分かりやすい授業」が昨年はほぼ同数であった点が異なっている。1 年次、2 年次において 2 位と 3 位の差が開いていることから、新カリキュラムに興味を持って取り組む学生が増加した結果だと考えたい。

なお、本年より選択肢 7. ～ 9. の 3 項目が追加された。複数人で取り組む授業に対して一定数が関心を示しており、アクティブラーニングへの取り組みを支持する結果だと受け止められる。

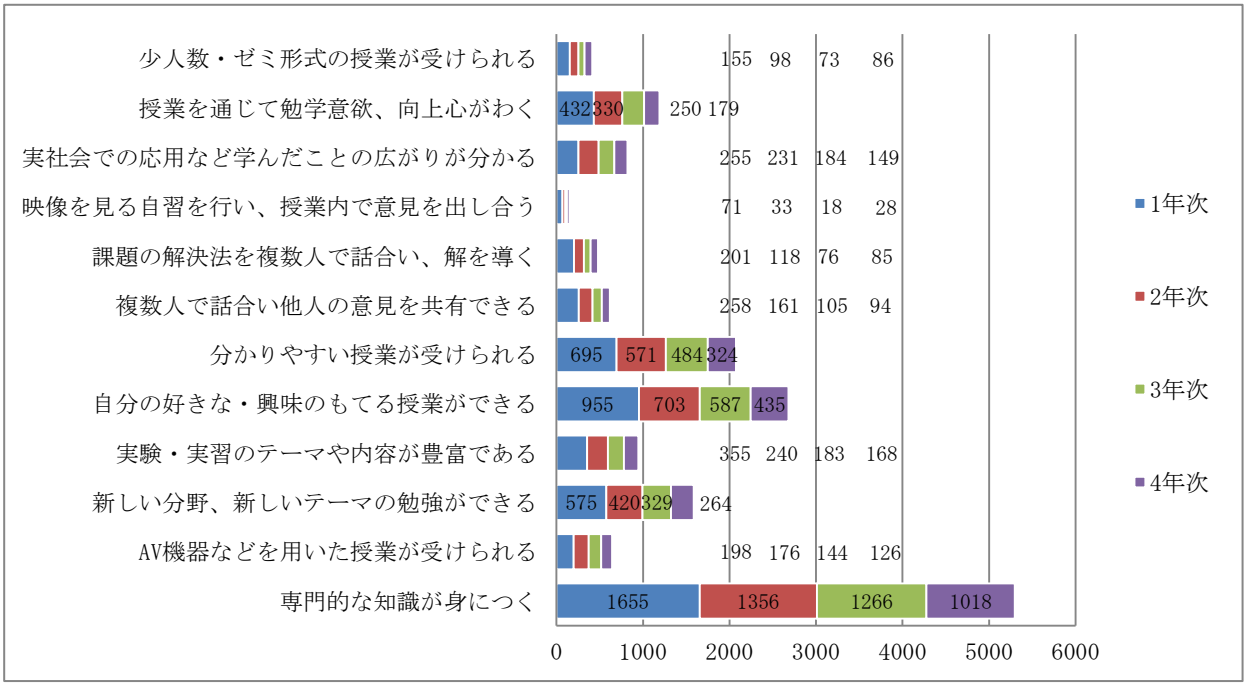


図 2.10　授業内容への期待

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 専門的な知識が身につく | 1655 | 1356 | 1266 | 1018 | 5295 |
| 2. AV 機器などを用いた授業が受けられる | 198 | 176 | 144 | 126 | 644 |
| 3. 新しい分野、新しいテーマの勉強ができる | 575 | 420 | 329 | 264 | 1588 |
| 4. 実験・実習のテーマや内容が豊富である | 355 | 240 | 183 | 168 | 946 |
| 5. 自分の好きな・興味のもてる授業ができる | 955 | 703 | 587 | 435 | 2680 |
| 6. 分かりやすい授業が受けられる | 695 | 571 | 484 | 324 | 2074 |
| 7. 複数人で話合い他人の意見を共有できる | 258 | 161 | 105 | 94 | 618 |
| 8. 課題の解決法を複数人で話合い、解を導く | 201 | 118 | 76 | 85 | 480 |
| 9. 映像を見る自習を行い、授業内で意見を出し合う | 71 | 33 | 18 | 28 | 150 |
| 10. 実社会での応用など学んだことの広がりが分かる | 255 | 231 | 184 | 149 | 819 |
| 11. 授業を通じて勉学意欲、向上心がわく | 432 | 330 | 250 | 179 | 1191 |
| 12. 少人数・ゼミ形式の授業が受けられる | 155 | 98 | 73 | 86 | 412 |

## Ⅱ-⑪　授業の出席状況

全体を見ると、「ほとんど出席した」「一部の授業を除いてよく出席した」の合計が 90.0%（昨年より 0.9 ポイント増）となり、例年と同様、9 割の学生が積極的に授業に出席していることがわかる。

学年別の傾向は、昨年と同様である。昨年からの変化点としては、「ほとんど出席した」比率が全学年にわたって 2～3 ポイント増加している。「一部の授業を除いてよく出席した」との合計でも、2 年次を除き 1～3 ポイント増加している。全学年にわたる傾向であることから、大学としての取り組みの成果だと理解できる。

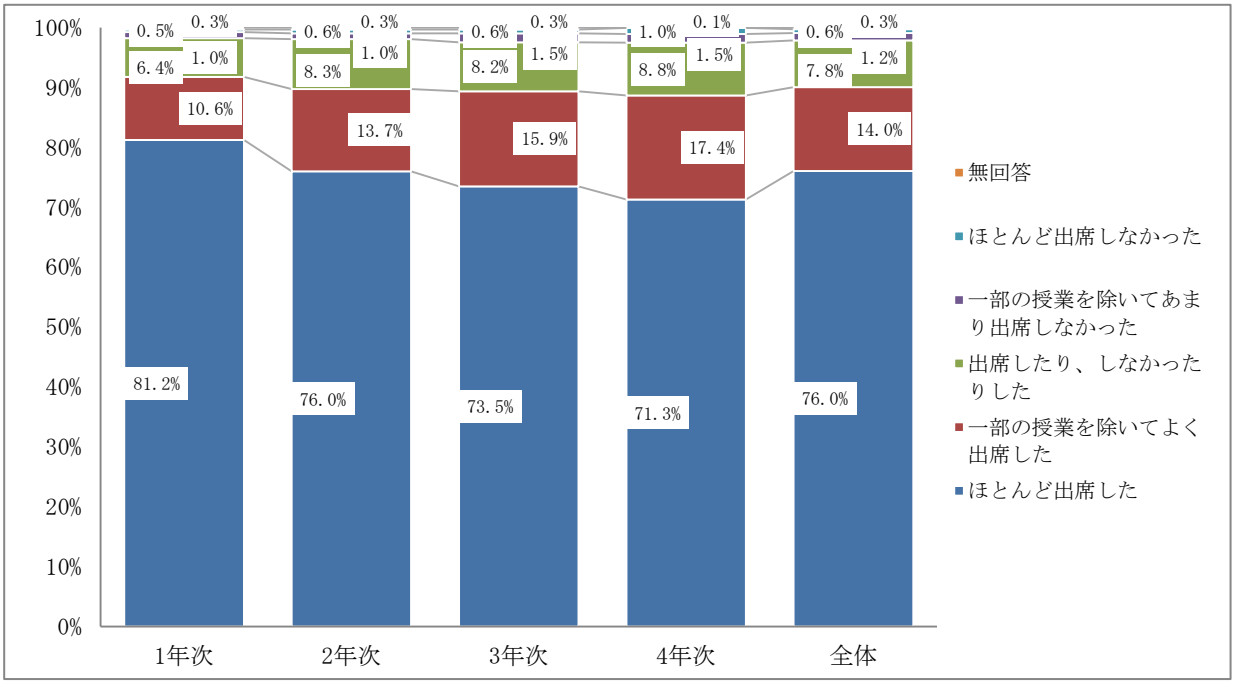


図 2.11　授業の出席状況

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. ほとんど出席した | 1776 | 1438 | 1277 | 1010 | 5501 |
| 2. 一部の授業を除いてよく出席した | 231 | 260 | 276 | 246 | 1013 |
| 3. 出席したり、しなかったりした | 141 | 157 | 142 | 125 | 565 |
| 4. 一部の授業を除いてあまり出席しなかった | 22 | 19 | 26 | 21 | 88 |
| 5. ほとんど出席しなかった | 10 | 12 | 11 | 14 | 47 |
| 無回答 | 7 | 6 | 6 | 1 | 20 |

## Ⅱ-⑫　勉学意欲と授業への取組み

全体を見て「勉学意欲はあり、授業もおおむね理解できる」「勉学意欲はあるが、理解できない授業がある」の合計が 74.0 %を示し、昨年度よりも 0.6 ポイントの増加であった。このうち 44.9 %が「理解できない授業がある」と回答しているが、昨年度よりは 1.1 ポイント減少しており、一昨年度から継続して勉学意欲に対する理解度が改善されていると考えられる。また、勉学意欲がないとする 4 項目の合計回答数は昨年度の 26.4 %から本年度の 25.5 %と 0.9 ポイント減少し、一昨年度の 27.8 %から継続した減少傾向にあり、勉学意欲に対しては引き続き改善している。

学年別に見ると、2 年次と 3 年次の「勉学意欲はあり、授業もおおむね理解できる」の値が 1 年次と 4 年次に対して減少する点が前年と同じ特徴である。2 年次以外は各学年とも昨年度に比べ、ポイントが増加していることから、勉学意欲とそれに伴う理解度が改善されていることがわかる。一方、2 年次については昨年度に比べ 0.7 ポイント減少していたが、これは専門科目数が増えるため、それに対応しきれなかった学生がいることを示唆している。3 年次には、2 年次からだけでなく、昨年度からもポイントが増加していることから、専門科目に対して対応できる学生が増えていると推測される。また「勉学意欲はあまりないが授業には出席している」の割合が、1 年次から 4 年次までポイントはわずかしか上昇しない傾向は昨年度と同様で、学生の勉学意欲が改善されていることを示している。これは、昨年度と同じく、理解度の低下がもたらす学習意欲と満足度の低下が改善されていることを示すデータと考えられる。

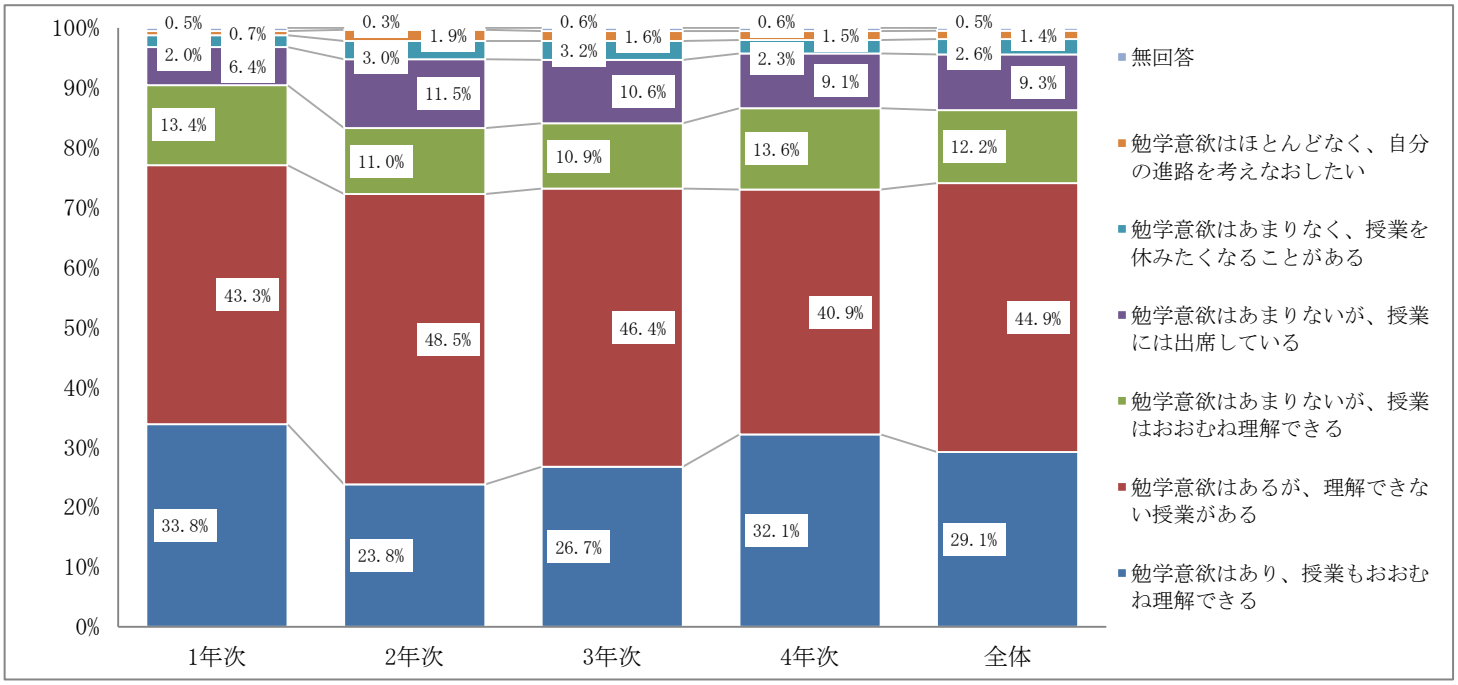


図 2.12　勉学意欲と授業への取組み

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 勉学意欲はあり、授業もおおむね理解できる | 739 | 450 | 464 | 455 | 2108 |
| 2. 勉学意欲はあるが、理解できない授業がある | 946 | 917 | 807 | 579 | 3249 |
| 3. 勉学意欲はあまりないが、授業はおおむね理解できる | 292 | 208 | 190 | 193 | 883 |
| 4. 勉学意欲はあまりないが、授業には出席している | 140 | 218 | 184 | 129 | 671 |
| 5. 勉学意欲はあまりなく、授業を休みたくなることがある | 43 | 57 | 55 | 32 | 187 |
| 6. 勉学意欲はほとんどなく、自分の進路を考えなおしたい | 15 | 36 | 28 | 21 | 100 |
| 無回答 | 12 | 6 | 10 | 8 | 36 |

## Ⅱ－⑬　自習時間

全体を見て「ほとんど予習・復習をしていない」と回答した学生が 36.2 %であり、昨年の「ほとんど自習はしていない」の 20.9 %から 15.3 ポイントも増加していた。また、「シラバスどおりの予習・復習を行っていない」との回答と合わせると 72.4 %であり昨年の 63.9 % から 8.5 ポイント増加していた。一昨年度からこの傾向は変わらず、70 %程度の学生が十分な自習をしていないだけでなく、全学的に自習時間が減少している傾向となった。

学年別に見た場合、「ほとんど予習・復習はしていない」と回答した学生が 1 年次から 3 年次までで 7.9 ポイント増加しているが、4 年次において 1.1 ポイント減少している。一方、「履修した全ての科目でシラバスに明示された予習・復習を行った」の回答は、学年を経るごとに増加する傾向にある。特に 4 年次において 12.5 %となっており、前述した「ほとんど予習・復習はしていない」と回答した学生が減少している傾向を考慮すると、卒論関連科目などにおいて自主的に学習に取り組んでいる結果と考えられる。

シラバスにある予習・復習に対する指導が浸透していないことが明確であり、設問Ⅱ－⑫に見られる講義内容の難易度と学習意欲・満足度の関係を改善するためには、今後も効果的な（質の高い）自習時間の強化方法の検討が重要と考えられる。

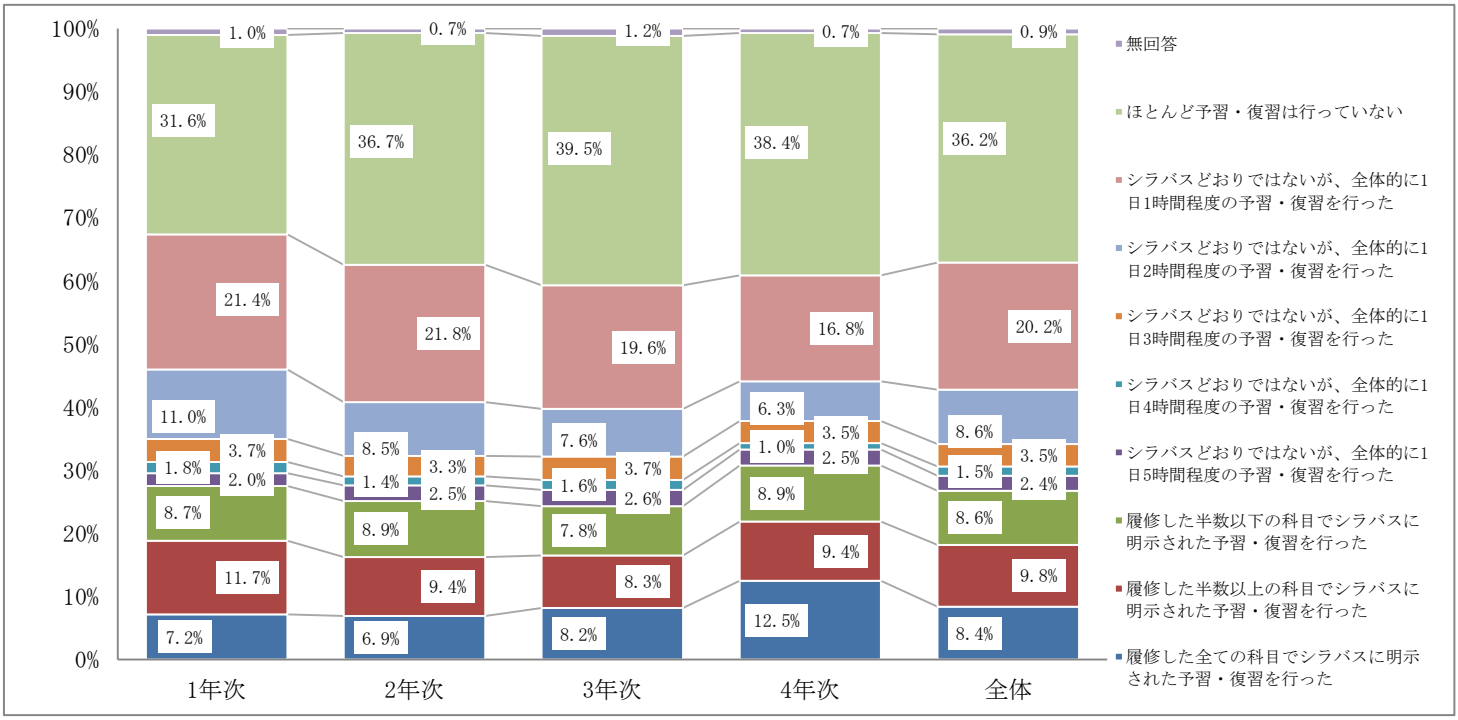


図 2.13　自習時間

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 履修した全ての科目でシラバスに明示された予習・復習を行った | 157 | 131 | 142 | 177 | 607 |
| 2. 履修した半数以上の科目でシラバスに明示された予習・復習を行った | 255 | 177 | 145 | 133 | 710 |
| 3. 履修した半数以下の科目でシラバスに明示された予習・復習を行った | 190 | 168 | 136 | 126 | 620 |
| 4. シラバスどおりではないが、全体的に 1 日 5 時間程度の予習・復習を行った | 44 | 47 | 45 | 36 | 172 |
| 5. シラバスどおりではないが、全体的に 1 日 4 時間程度の予習・復習を行った | 39 | 26 | 27 | 14 | 106 |
| 6. シラバスどおりではないが、全体的に 1 日 3 時間程度の予習・復習を行った | 80 | 62 | 64 | 50 | 256 |
| 7. シラバスどおりではないが、全体的に 1 日 2 時間程度の予習・復習を行った | 241 | 161 | 132 | 89 | 623 |
| 8. シラバスどおりではないが、全体的に 1 日 1 時間程度の予習・復習を行った | 468 | 412 | 340 | 238 | 1458 |
| 9. ほとんど予習・復習は行っていない | 691 | 695 | 687 | 544 | 2617 |
| 無回答 | 22 | 13 | 20 | 10 | 65 |

## Ⅱ-⑭-(1)　熱意を持って意欲的に取り組んだ授業　（複数回答可）

（２０１５年度以前の入学生のみ回答）

「専門展開科目」「専門基幹科目」「専門基礎科目」が「教養科目」よりも興味あると回答した人数が多い結果となった。専門科目の中では、昨年度とは異なり、「専門基礎科目」よりも「専門展開科目」「専門基幹科目」に興味があると回答した人数が増加した。これは３年次以上の学生を対象としている調査から、「専門基礎科目」を履修している学生が少ないためと考えられる。また、語学科目と数学・物理・化学、及び実験演習科目に対して興味あると回答した人数が少ないことが懸念される。専門科目への興味が高いことが本設問でも見られるが、実験実習科目への興味の無さは学生の基礎的な知識（特に論理的思考）と学習意欲・満足度の低下に関連しないかを調査が必要と考える。

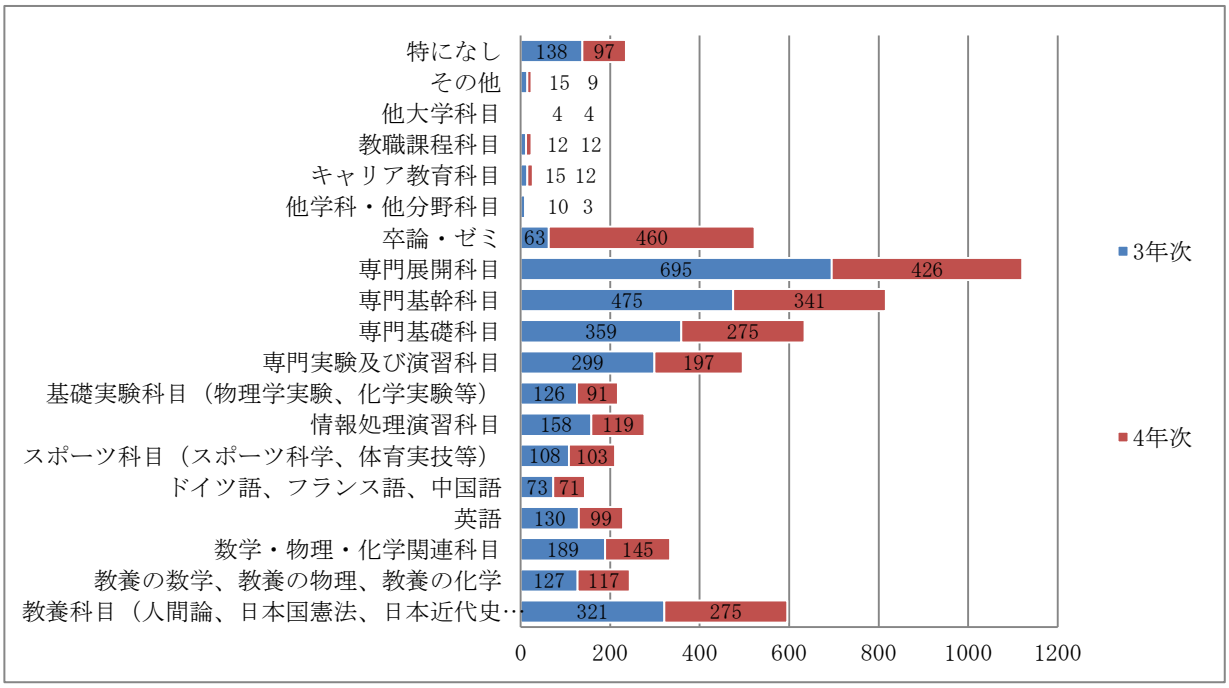


図 2.14.1　熱意を持って意欲的に取り組んだ授業

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 教養科目（人間論、日本国憲法、日本近代史等） | - | - | 321 | 275 | 596 |
| 2. 教養の数学、教養の物理、教養の化学 | - | - | 127 | 117 | 244 |
| 3. 数学・物理・化学関連科目 | - | - | 189 | 145 | 334 |
| 4. 英語 | - | - | 130 | 99 | 229 |
| 5. ドイツ語、フランス語、中国語 | - | - | 73 | 71 | 144 |
| 6. スポーツ科目（スポーツ科学、体育実技等） | - | - | 108 | 103 | 211 |
| 7. 情報処理演習科目 | - | - | 158 | 119 | 277 |
| 8. 基礎実験科目（物理学実験、化学実験等） | - | - | 126 | 91 | 217 |
| 9. 専門実験及び演習科目 | - | - | 299 | 197 | 496 |
| 10. 専門基礎科目 | - | - | 359 | 275 | 634 |
| 11. 専門基幹科目 | - | - | 475 | 341 | 816 |
| 12. 専門展開科目 | - | - | 695 | 426 | 1121 |
| 13. 卒論・ゼミ | - | - | 63 | 460 | 523 |
| 14. 他学科・他分野科目 | - | - | 10 | 3 | 13 |
| 15. キャリア教育科目 | - | - | 15 | 12 | 27 |
| 16. 教職課程科目 | - | - | 12 | 12 | 24 |
| 17. 他大学科目 | - | - | 4 | 4 | 8 |
| 18. その他 | - | - | 15 | 9 | 24 |
| 19. 特になし | - | - | 138 | 97 | 235 |

## Ⅱ-⑭-(2)　熱意を持って意欲的に取り組んだ授業　（複数回答可）

（２０１６年度以降の入学生のみ回答）

2015 年度以前入学生と同様に、「専門基幹科目」「専門基礎科目」に興味があると回答した人数が多い傾向にあった。「専門展開科目」の回答者数が少ないのは、1 年次と 2 年次を対象とした調査であるため、開講している専門展開科目の数が少ないことに起因すると推測される。また、2015 年度以前入学生とは異なり、「英語」および「情報処理」に興味があると回答者も多い傾向にあった。これらの科目に興味があり、今後の成長が期待される結果となったが、学年が進行した際にこれらの科目に対するモチベーションを維持させることが重要になると考えられる。

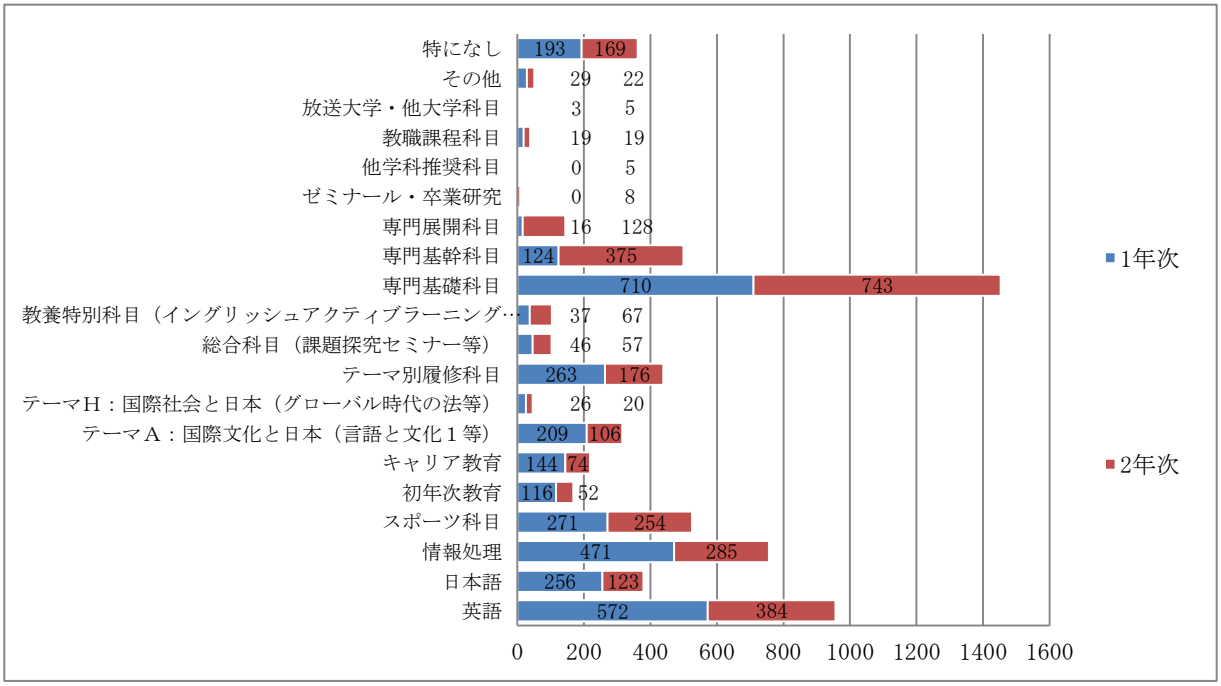


図 2.14.2　熱意を持って意欲的に取り組んだ授業

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 英語 | 572 | 384 | － | － | 956 |
| 2. 日本語 | 256 | 123 | － | － | 379 |
| 3. 情報処理 | 471 | 285 | － | － | 756 |
| 4. スポーツ科目 | 271 | 254 | － | － | 525 |
| 5. 初年次教育 | 116 | 52 | － | － | 168 |
| 6. キャリア教育 | 144 | 74 | － | － | 218 |
| 7. テーマA：国際文化と日本（言語と文化１等） | 209 | 106 | － | － | 315 |
| 8. テーマH：国際社会と日本（グローバル時代の法等） | 26 | 20 | － | － | 46 |
| 9. テーマ別履修科目 | 263 | 176 | － | － | 439 |
| 10. 総合科目（課題探究セミナー等） | 46 | 57 | － | － | 103 |
| 11. 教養特別科目（イングリッシュアクティブラーニング等） | 37 | 67 | － | － | 104 |
| 12. 専門基礎科目 | 710 | 743 | － | － | 1453 |
| 13. 専門基幹科目 | 124 | 375 | － | － | 499 |
| 14. 専門展開科目 | 16 | 128 | － | － | 144 |
| 15. ゼミナール・卒業研究 | 0 | 8 | － | － | 8 |
| 16. 他学科推奨科目 | 0 | 5 | － | － | 5 |
| 17. 教職課程科目 | 19 | 19 | － | － | 38 |
| 18. 放送大学・他大学科目 | 3 | 5 | － | － | 8 |
| 19. その他 | 29 | 22 | － | － | 51 |
| 20. 特になし | 193 | 169 | － | － | 362 |

## Ⅱ-⑮　担任制度の利用

担任制度について、全体では 7.6 %の学生が「利用したことがある」、27.2 %の学生が「担任制度を知らない」と回答し、昨年よりやや減少している。一方、「利用したことがない」と回答した学生は 0.7 %増加し、64.9 %となっている。全学年を通し、「担任制度を知らない」と回答する学生が、昨年よりも減少しているため、今後も一層の周知の徹底が必要であると考える。ただし、昨年度と同様に学年が進行するに従い、認知度が高まっていく傾向はうかがえる。

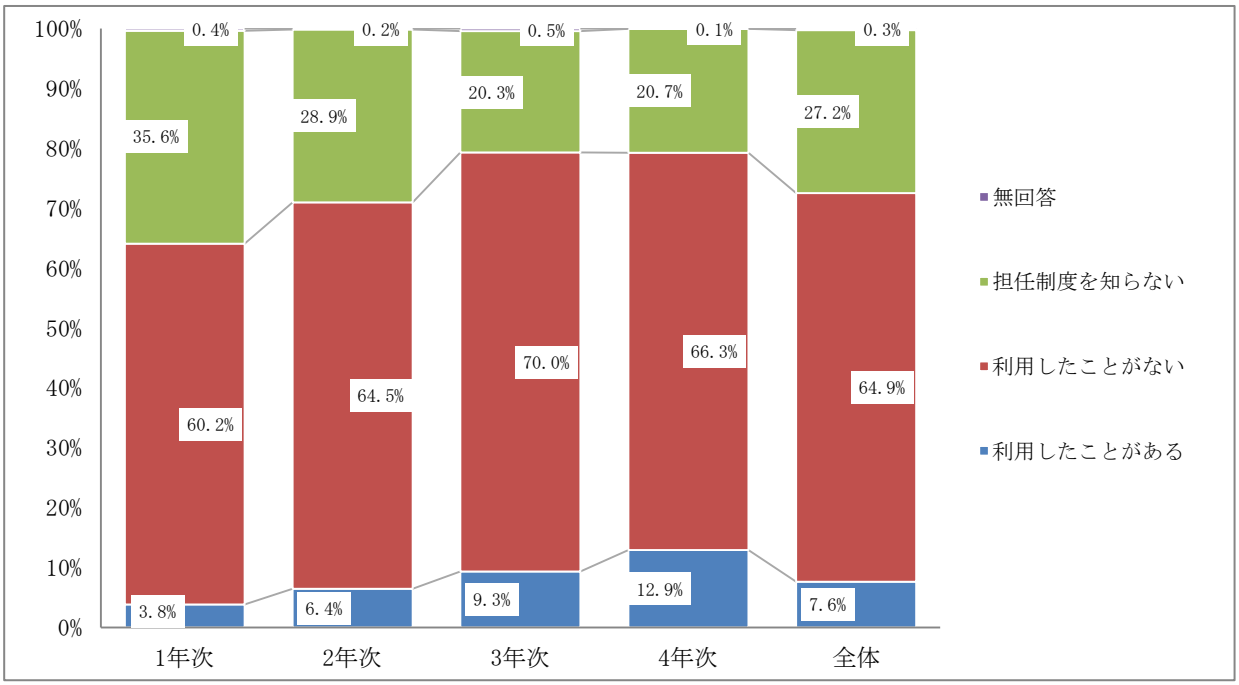


図 2.15　担任制度の利用

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 利用したことがある | 84 | 122 | 162 | 183 | 551 |
| 2. 利用したことがない | 1317 | 1221 | 1216 | 940 | 4694 |
| 3. 担任制度を知らない | 778 | 546 | 352 | 293 | 1969 |
| 無回答 | 8 | 3 | 8 | 1 | 20 |

## Ⅱ-⑯　オフィスアワーの利用

オフィスアワーの利用について、全体で 15.2 %の学生が「利用したことがある」と回答し、昨年よりわずかに減少している。また、「利用したことがない」と回答している学生は 65.1 %であり、昨年よりもわずかに増加している。一方、「オフィスアワーを知らない」と回答した学生は昨年より 1.3 %減少しており、オフィスアワーの認知度を上がってきていると考える。

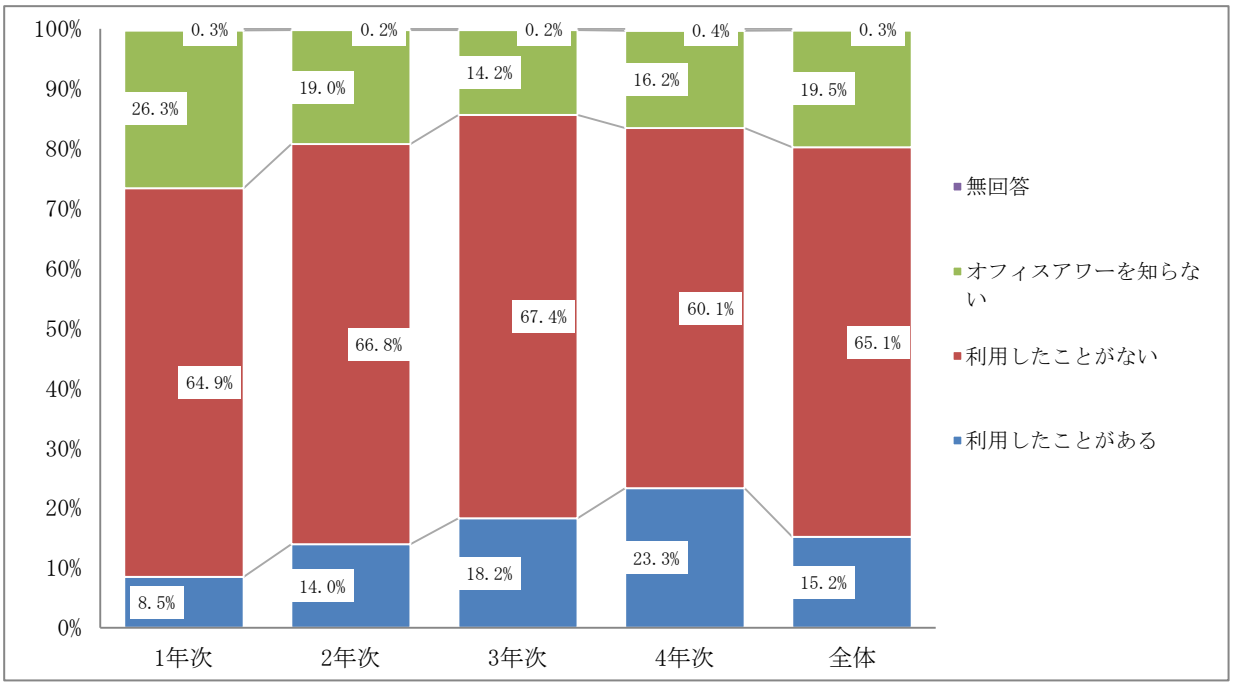


図 2.16　オフィスアワーの利用

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 利用したことがある | 186 | 264 | 317 | 330 | 1097 |
| 2. 利用したことがない | 1419 | 1264 | 1171 | 852 | 4706 |
| 3. オフィスアワーを知らない | 576 | 360 | 246 | 230 | 1412 |
| 無回答 | 6 | 4 | 4 | 5 | 19 |

## Ⅱ-⑰　学習支援センターの利用

学習支援センターの利用については、全体で 26.0 %の学生が「利用したことがある」と回答しており、一昨年度の 30.4 %、昨年度の 28.4 %に比べ、減少している。「学習支援センターを知らない」と回答した学生は昨年よりも 1.0 %増加しており、認知度の向上、及び学生支援センターの積極的な活用について指導が必要に思われる。一方、本当に支援が必要な学生が実際にセンターを利用しているかについても検証が必要と思われる。

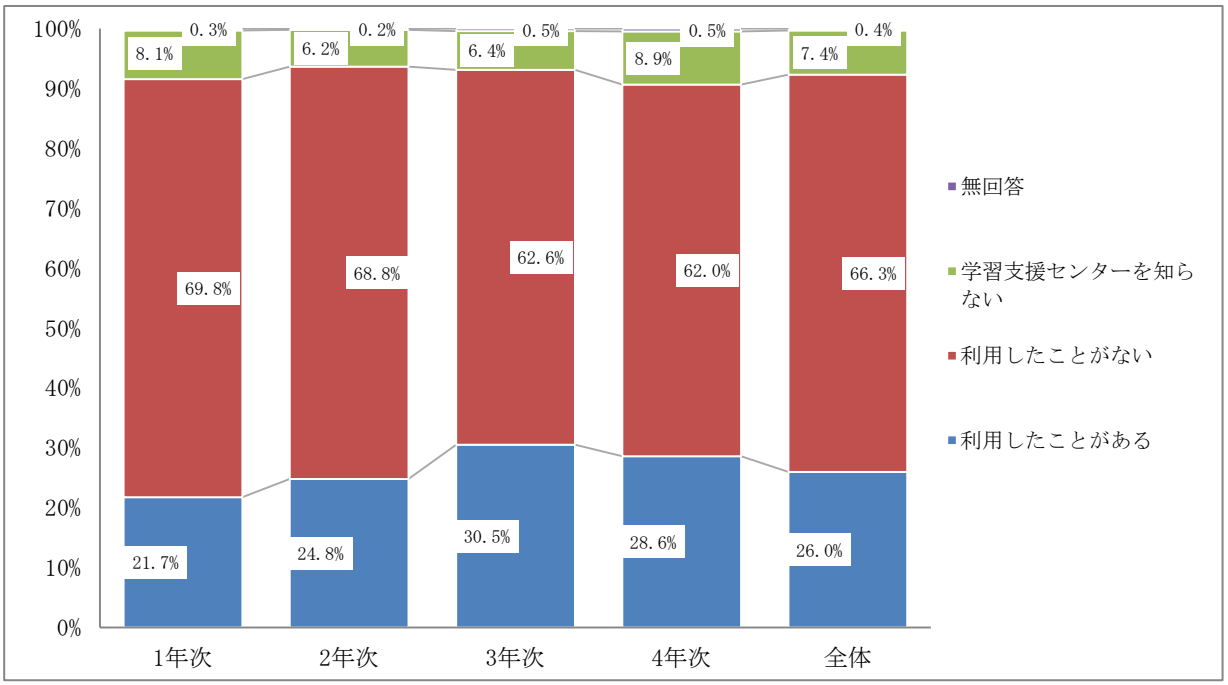


図 2.17　学習支援センターの利用

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 利用したことがある | 475 | 469 | 530 | 405 | 1879 |
| 2. 利用したことがない | 1527 | 1302 | 1088 | 879 | 4796 |
| 3. 学習支援センターを知らない | 178 | 117 | 112 | 126 | 533 |
| 無回答 | 7 | 4 | 8 | 7 | 26 |

## Ⅱ-⑱　グローバルラウンジの利用

グローバルラウンジの利用については、全体で 11.0 %の学生が「利用したことがある」と回答し、昨年よりも 0.5 %増加していた。学年別にみると、2 年次と 3 年次の利用が多い。2 年次は、新習志野校舎に設置されているため利用の容易さが影響していると考えられる。3 年次は、就職活動を見据え活用していることが推測される。一方、「グローバルラウンジを知らない」と回答した学生は昨年より約 6 %減少し 15.7 %と一昨年から減少傾向にあり、学生の認知度は改善している。今後は認知度をさらに向上させるだけでなく、「利用したことがない」と回答した学生に一度は利用させるようなプログラムの構築も必要であると考えられる。

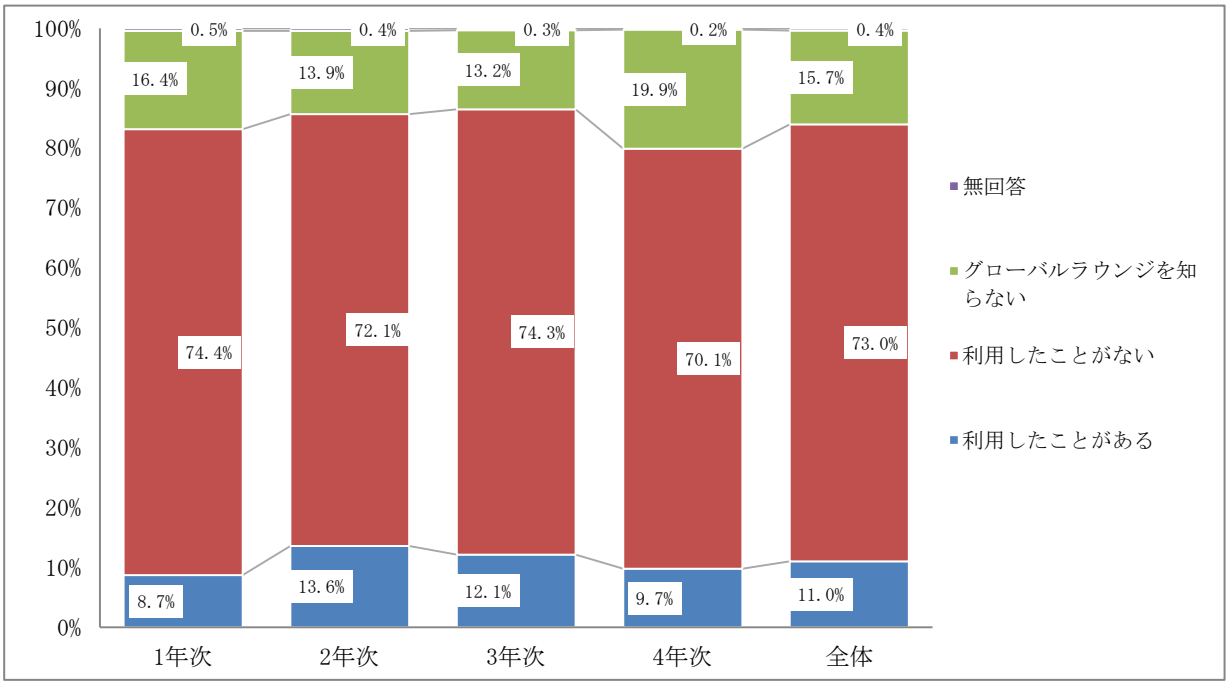


図 2.18　グローバルラウンジの利用

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 利用したことがある | 190 | 257 | 211 | 138 | 796 |
| 2. 利用したことがない | 1628 | 1364 | 1292 | 994 | 5278 |
| 3. グローバルラウンジを知らない | 359 | 263 | 229 | 282 | 1133 |
| 無回答 | 10 | 8 | 6 | 3 | 27 |

## Ⅱ-⑲　事務窓口の利用

事務窓口の利用について、全体で 26.6 %の学生が「利用したことがある」と回答し、昨年より 2 %程度減少していた。1 年次での利用が昨年度の 24.7 %から 22.8 %に減少していたことから、ガイダンスなどにおけるテーマ別履修などの説明により学生の理解が進んでいることがうかがえる。今後もガイダンスなどで事務窓口の利用方法についてアナウンスを行う必要があるように思われる。また、利用の目的やその目的に見合った結果が得られたかについての確認も必要と思われる。

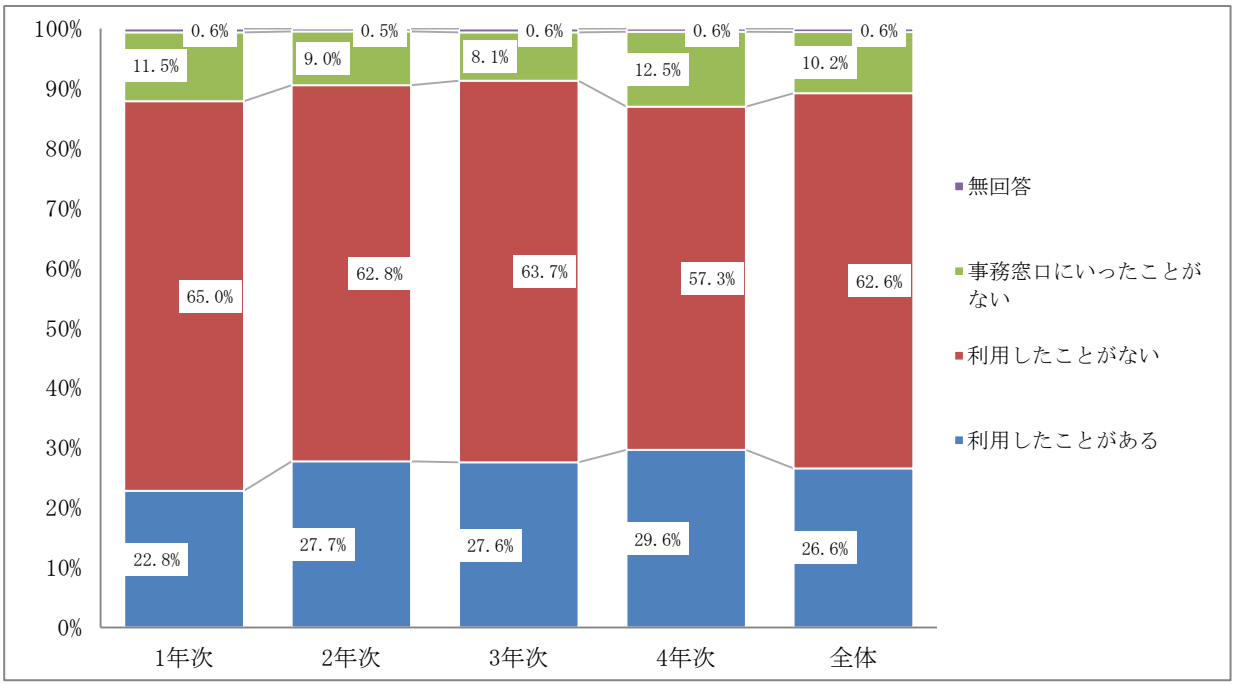


図 2.19　事務窓口の利用

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 利用したことがある | 499 | 524 | 479 | 420 | 1922 |
| 2. 利用したことがない | 1422 | 1189 | 1107 | 812 | 4530 |
| 3. 事務窓口にいったことがない | 252 | 170 | 141 | 177 | 740 |
| 無回答 | 14 | 9 | 11 | 8 | 42 |

## Ⅱ-⑳　キャンパスポータルシステムの利用

キャンパスポータルシステムの利用については、「よく利用している」、「時々利用している」と回答した学生が全体の合計で 93.4 %であり、昨年度よりも 0.7 %減少しているが、一昨年度と同程度の値であった。キャンパスポータルシステムが学生に浸透していることがわかるが、システムの重要性が増していることから、利用についてのアナウンスや説明の更なる周知徹底が望まれる。

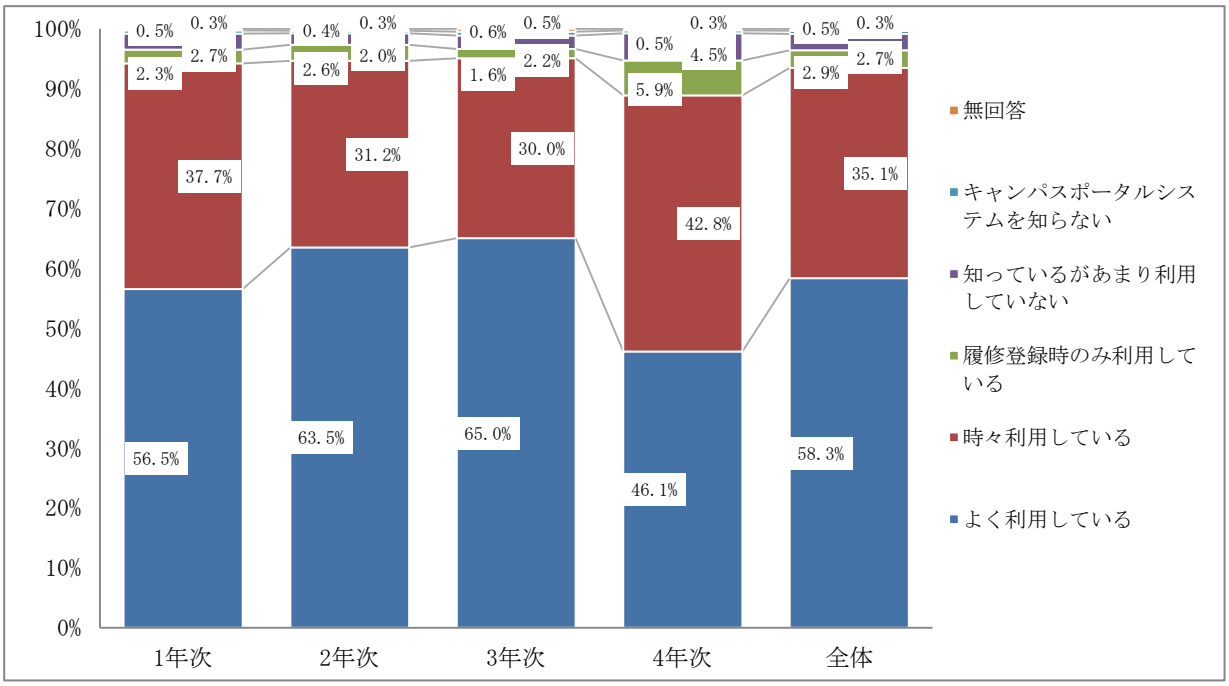


図 2.20　キャンパスポータルシステムの利用

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. よく利用している | 1236 | 1201 | 1130 | 653 | 4220 |
| 2. 時々利用している | 824 | 590 | 522 | 606 | 2542 |
| 3. 履修登録時のみ利用している | 51 | 50 | 27 | 83 | 211 |
| 4. 知っているがあまり利用していない | 58 | 37 | 39 | 64 | 198 |
| 5. キャンパスポータルシステムを知らない | 12 | 8 | 11 | 7 | 38 |
| 無回答 | 6 | 6 | 9 | 4 | 25 |

## Ⅱ-㉑-A　Web や電子メールによるレポートの受付

Web や電子メールによるレポートの提出について、全体では 62.3 %であり、昨年度と同程度の割合であった。ただし、「使ったが不便」と回答した学生は、昨年度よりも 1.6 %増加し 20.1 %であった。どのような点が不便と感じるのかについての調査と改善が必要と思われる。

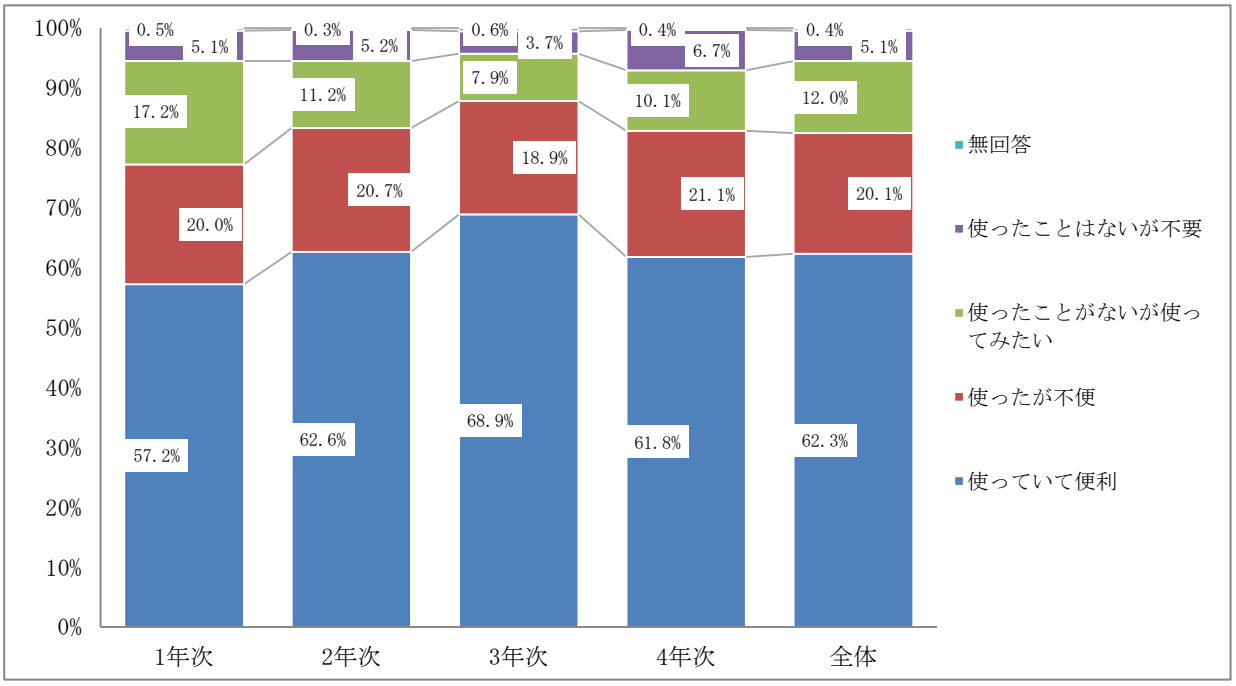


図 2.21.1　Web や電子メールによるレポートの受付

(回答者数)

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 使っていて便利 | 1251 | 1185 | 1197 | 875 | 4508 |
| 2. 使ったが不便 | 438 | 391 | 329 | 299 | 1457 |
| 3. 使ったことがないが使ってみたい | 377 | 212 | 137 | 143 | 869 |
| 4. 使ったことはないが不要 | 111 | 98 | 65 | 95 | 369 |
| 無回答 | 10 | 6 | 10 | 5 | 31 |

## Ⅱ-㉑-Ｂ　Web による講義資料の配布

全体の 68.4 %の学生が「使っていて便利」と回答しており、昨年より 0.9 %減少していた。「使ったが不便」と回答した学生は昨年より 0.7 %増加していた。Web による講義資料の配布についても浸透しているが、便利と感じる学生と不便と感じる学生の相違についての検証および配布方法の改善が必要と思われる。

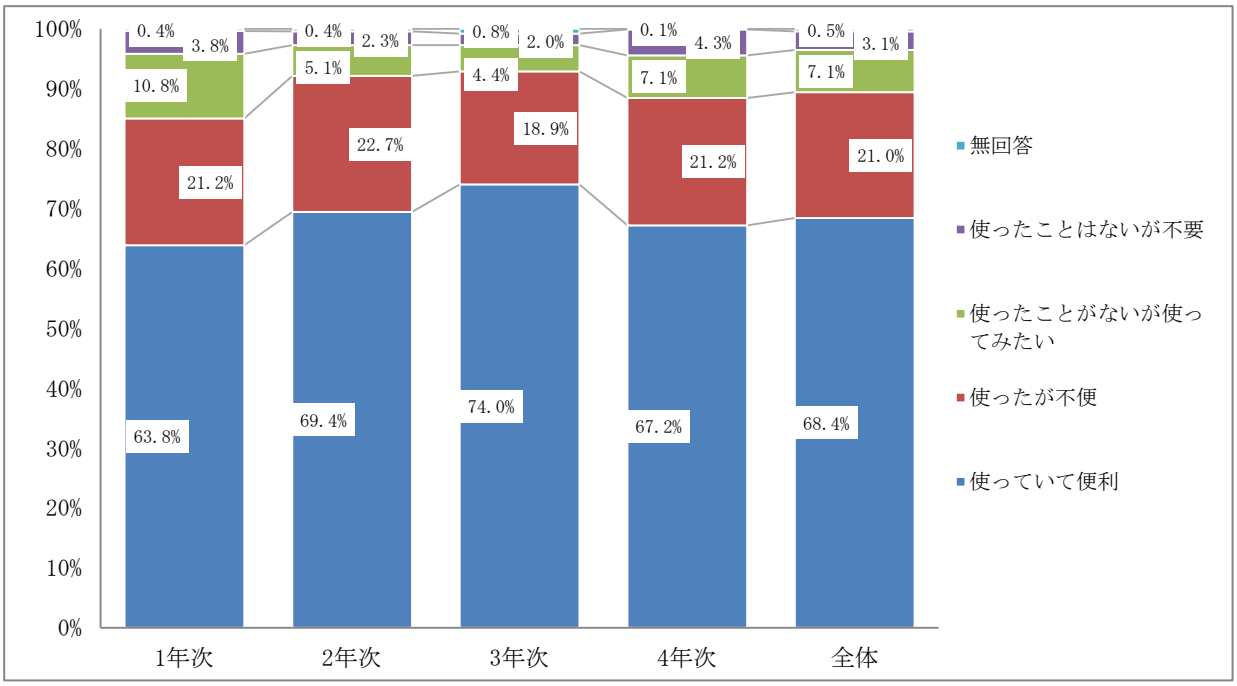


図 2.21.2　Web による講義資料の配布

(回答者数)

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 使っていて便利 | 1396 | 1313 | 1286 | 952 | 4947 |
| 2. 使ったが不便 | 463 | 430 | 328 | 301 | 1522 |
| 3. 使ったことがないが使ってみたい | 236 | 97 | 76 | 101 | 510 |
| 4. 使ったことはないが不要 | 83 | 44 | 34 | 61 | 222 |
| 無回答 | 9 | 8 | 14 | 2 | 33 |

## Ⅱ-㉑-C　Web による講義映像の配信

「使っていて便利」と回答した学生が 3.1 %、「使ったが不便」と回答した学生が 1.3 %減少していた。Web によるシステムの活用については、不便さをどこに感じているかといった分析が必要と思われる。また、「使ったことはないが使ってみたい」と回答した学生は、昨年に比べ 3.1 %増加しているため、今後も潜在的な需要に応えていくための対応も必要と思われる。

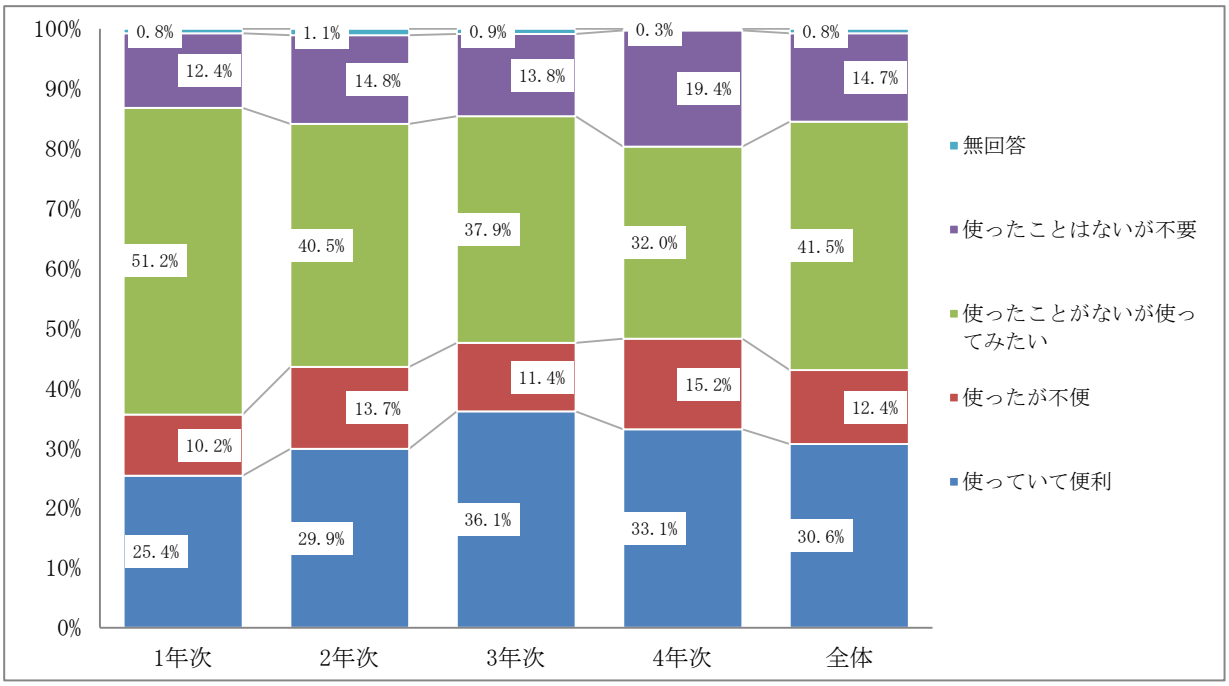


図 2.21.3　Web による講義映像の配信

(回答者数)

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 使っていて便利 | 555 | 565 | 628 | 469 | 2217 |
| 2. 使ったが不便 | 223 | 259 | 198 | 215 | 895 |
| 3. 使ったことがないが使ってみたい | 1120 | 767 | 658 | 454 | 2999 |
| 4. 使ったことはないが不要 | 272 | 280 | 239 | 275 | 1066 |
| 無回答 | 17 | 21 | 15 | 4 | 57 |

## Ⅱ-㉒　学内における自習の場所　（複数回答可）

学内における自習の場所として多く利用されているのは、「図書館」、「自学自習室」、「食堂」、「教室」となっている。この傾向は一昨年から変わっていない。また、3 年生になると「コンピュータ演習室」、4 年生になると「研究室」の利用が増えており、これも一昨年以降同じ傾向である。

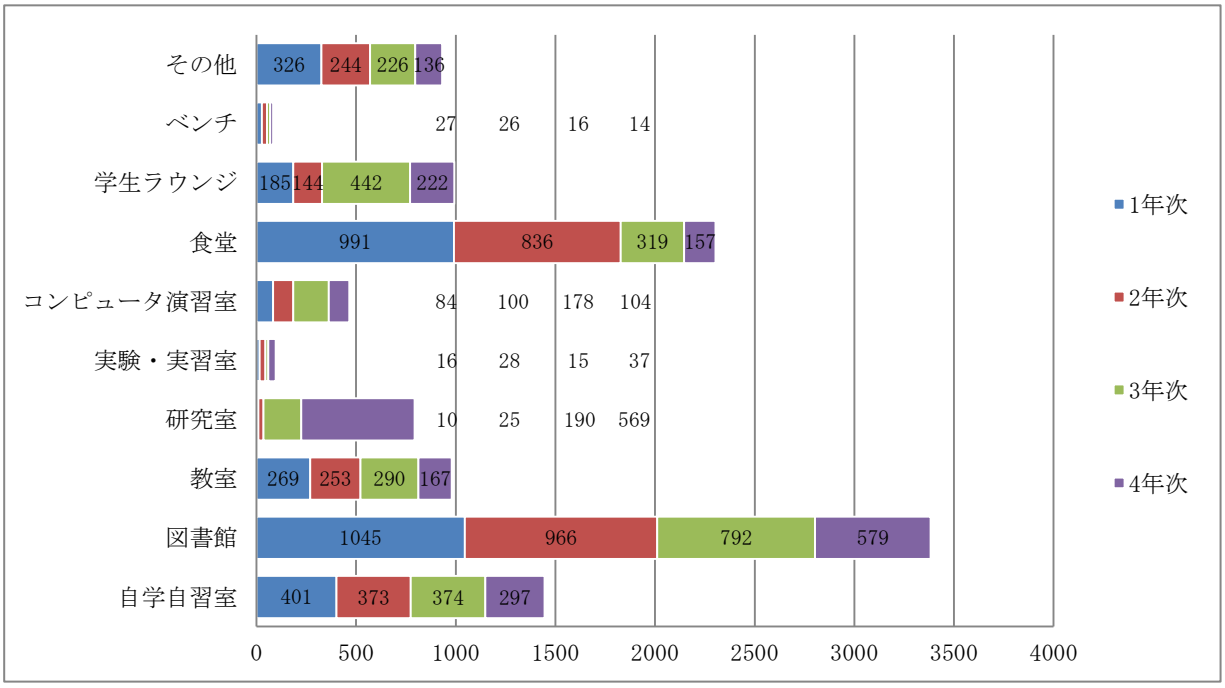


図 2.22　学内における自習の場所

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 自学自習室 | 401 | 373 | 374 | 297 | 1445 |
| 2. 図書館 | 1045 | 966 | 792 | 579 | 3382 |
| 3. 教室 | 269 | 253 | 290 | 167 | 979 |
| 4. 研究室 | 10 | 25 | 190 | 569 | 794 |
| 5. 実験・実習室 | 16 | 28 | 15 | 37 | 96 |
| 6. コンピュータ演習室 | 84 | 100 | 178 | 104 | 466 |
| 7. 食堂 | 991 | 836 | 319 | 157 | 2303 |
| 8. 学生ラウンジ | 185 | 144 | 442 | 222 | 993 |
| 9. ベンチ | 27 | 26 | 16 | 14 | 83 |
| 10. その他 | 326 | 244 | 226 | 136 | 932 |

## ＜Ⅲ＞学生生活について

**Ⅲ−①　あなたにとって大学生活の目的は何ですか（3 つまで回答可）。**

3つまで回答可

1. 豊かな教養を身につけ人格を高めるため
2. 資格取得や、将来の有利な就職・職業に就くため
3. 専門的な知識や技術を習得するため
4. 学生生活を楽しむため
5. 大学卒の学歴が必要だと思ったから
6. 友人をつくったり人脈を広げたりしたいから
7. 特に目的を意識していない（なんとなく）
8. その他

**Ⅲ−②　現在クラブ・サークルに加入していますか。**

1. 学内のクラブ、サークルに加入している
2. 学外のクラブ、サークルに加入している
3. 学内外いずれのクラブ、サークルにも加入していない

**設問Ⅲ−②で『1.学内のクラブ、サークルに加入している』、『2.学外のクラブ、サークルに加入している』と回答した方は、次のイ～ロの設問にも回答してください。**

**イ．クラブ・サークル活動を行う目的または目標は何ですか（複数回答可）。**

複数回答可

1. 大きな大会に出場するため
2. 強くなる、上手になるため
3. 上下関係や礼節を身につけるため
4. 交友関係を築くため
5. 就職に役立てるため
6. 健康の維持・増進をはかるため
7. 目的や目標は特にないが、以前から行っているので継続している
8. その他

**ロ．クラブ・サークル活動は平均して一日のうち何時間していますか。**

1. 1時間程度
2. 2 時間程度
3. 3 時間程度
4. 4 時間以上

**Ⅲ−③　大学入学後にボランティア活動に参加したことがありますか。**

1. 現在、参加している
2. 過去に参加したことがある
3. ない

**Ⅲ−④　ボランティア活動に参加する（した）理由は何ですか（複数回答可）**

複数回答可

1. 誰かの役に立ちたいから
2. 自分の見聞を広めたいから
3. 新しい出会いや経験をしたいから
4. 得意なことを生かしたいから
5. 大学生活を充実させたいから
6. 就職に役立つと思ったから
7. 正課の授業に組み込まれていたから（単位が認定されるから）
8. 社会勉強だと思ったから
9. 教職員や友人に誘われたから
10. その他

**Ⅲ−⑤ 海外留学したいと思いますか**

1. 留学したい
2. 留学したいが理由があってできない
3. 留学したくない

**設問Ⅲ−⑤で『2.留学したいが理由があってできない』、『3.留学したくない』と回答した方は、次の設問にも回答してください。（複数回答可）**

**その理由はどれにあたりますか。**

複数回答可

1. 経済的に余裕がないから
2. 時間的に余裕がないから
3. 語学力が不安だから
4. 海外での生活（コミュニケーション等）が不安だから
5. 卒業（進級）が遅れるから
6. 就職（活動）が不安だから
7. 住居の確保が不安だから
8. 留学に関する手続きが不安だから
9. 海外留学に関する情報が不足しているから
10. 社会情勢や治安が不安だから
11. 特に理由はない
12. その他

**Ⅲ−⑥ 現在抱えている悩みや問題は何ですか（3 つまで回答可）。**

3つまで回答可

1. 勉学上の問題
2. 金銭問題
3. クラブ・サークル関係
4. 身体的健康上の問題
5. 精神・心理的問題
6. 自分の性格や能力について
7. 就職・将来の進路
8. 友人関係
9. 恋愛・異性問題
10. 家庭の問題
11. ストーカーやセクハラの問題
12. 携帯電話やインターネットでのトラブル
13. その他
14. 特に悩んでいない

**Ⅲ−⑦ 学生生活上の悩みや問題は、誰に相談していますか（3 つまで回答可）。**

3つまで回答可

1. 家族に相談する
2. 友人・先輩に相談する
3. 教員に相談する
4. 職員に相談する
5. 学生相談室で相談する
6. 保健室で相談する
7. アルバイト先で相談する
8. インターネットを利用して相談する
9. 誰にも相談しない
10. その他

**Ⅲ−⑧ 学内のハラスメント防止のための委員会や相談員のことを知っていますか。**

1. 知っている
2. 知らない

**Ⅲ−⑨ あなたは、喫煙しますか。**

1. はい
2. いいえ

**設問Ⅲ−⑨で『1. はい』と回答した方は、次のイ～ハの設問にも回答してください。**

**イ. 健康への影響を考えたことはありますか。**

1. はい　　2. いいえ

**ロ. 他人への影響（受動喫煙）を考えたことはありますか。**

1. ある　　2. ない

**ハ. 喫煙をやめようと思いますか。**

1. はい　　2. いいえ

---

**Ⅲ−⑩ 平成 27 年 4 月よりキャンパス内が全面禁煙になったことをどう思いますか。**

1. 満足している　　3. やや不満がある
2. ある程度満足している　　4. 不満がある

---

## Ⅲ-①　学生生活の目的　（３つまで回答可）

「学生生活の目的」で多かった回答は、「専門的な知識や技術を習得するため」が全体で 3253 名、次いで「資格取得や、将来の有利な就職・職業に就くため」が 2909 名、「豊かな教養を身につけ人格を高めるため」が 2620 名となっている。上位 3 つの回答は大学での勉学に結びつく内容であり、多くの学生が大学生活において自己を高めることに意欲的であることがうかがえる。また、第 4 位には「大学卒の学歴が必要だと思ったから」が 2181 名であり、学生たちが将来の進路に対して意識的であることがわかる。それ以外の回答では、「学生生活を楽しむため」が 1638 名、「友人をつくったり人脈を広げたりしたいから」が 1143 名であり、学業以外での大学生活への期待も大きいことがわかる。また、「特に目的を意識していない（なんとなく）」と回答した学生が各学年に一定数存在していることには注意が必要である。

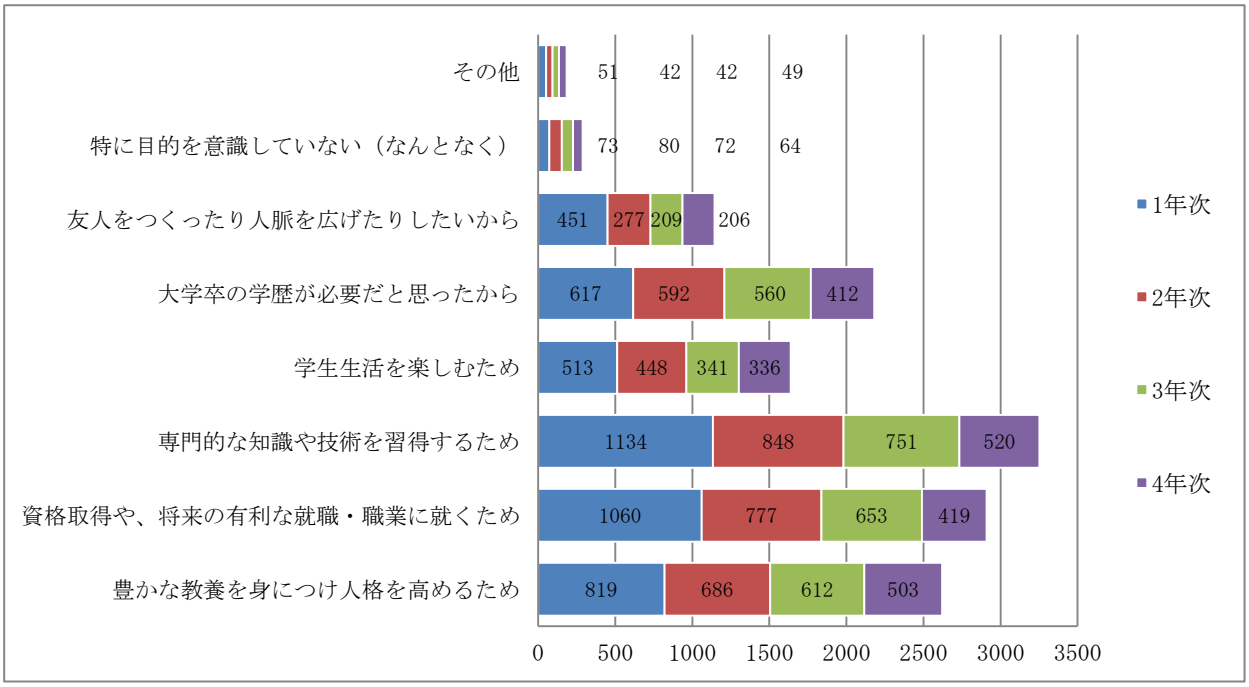


図 3.1　学生生活の目的

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 豊かな教養を身につけ人格を高めるため | 819 | 686 | 612 | 503 | 2620 |
| 2. 資格取得や、将来の有利な就職・職業に就くため | 1060 | 777 | 653 | 419 | 2909 |
| 3. 専門的な知識や技術を習得するため | 1134 | 848 | 751 | 520 | 3253 |
| 4. 学生生活を楽しむため | 513 | 448 | 341 | 336 | 1638 |
| 5. 大学卒の学歴が必要だと思ったから | 617 | 592 | 560 | 412 | 2181 |
| 6. 友人をつくったり人脈を広げたりしたいから | 451 | 277 | 209 | 206 | 1143 |
| 7. 特に目的を意識していない（なんとなく） | 73 | 80 | 72 | 64 | 289 |
| 8. その他 | 51 | 42 | 42 | 49 | 184 |

## Ⅲ-②　クラブ、サークルの加入状況

全体では、46.0%の学生が学内、学外のクラブ、サークルに加入している。学年が進むごとに加入の割合は少なくなっている傾向にある。これは、学年が上がるにつれ学業との両立が難しくなる、アルバイト等で時間が無いなどの様々な要因があると考えられる。全体の加入率 46.0%という数字は、2016 年度の加入率が 44.2%, 2015 年度の加入率が 43.2%, 2014 年度の加入率が 40.5%であったことから見ると、増加傾向にあることがうかがえる。クラブ、サークルでの活動は、大学の勉学だけでは学べないことを学べるよい機会であり、また多くの友人を作ることのできる機会でもある。「Ⅲ-①学生生活の目的」の中の「学生生活を楽しむため」、「友人をつくったり人脈を広げたりしたいから」という項目を選んだ学生が多くいたことからも、クラブ、サークル活動は重要であり、学生たちの積極的な参加に期待したい。

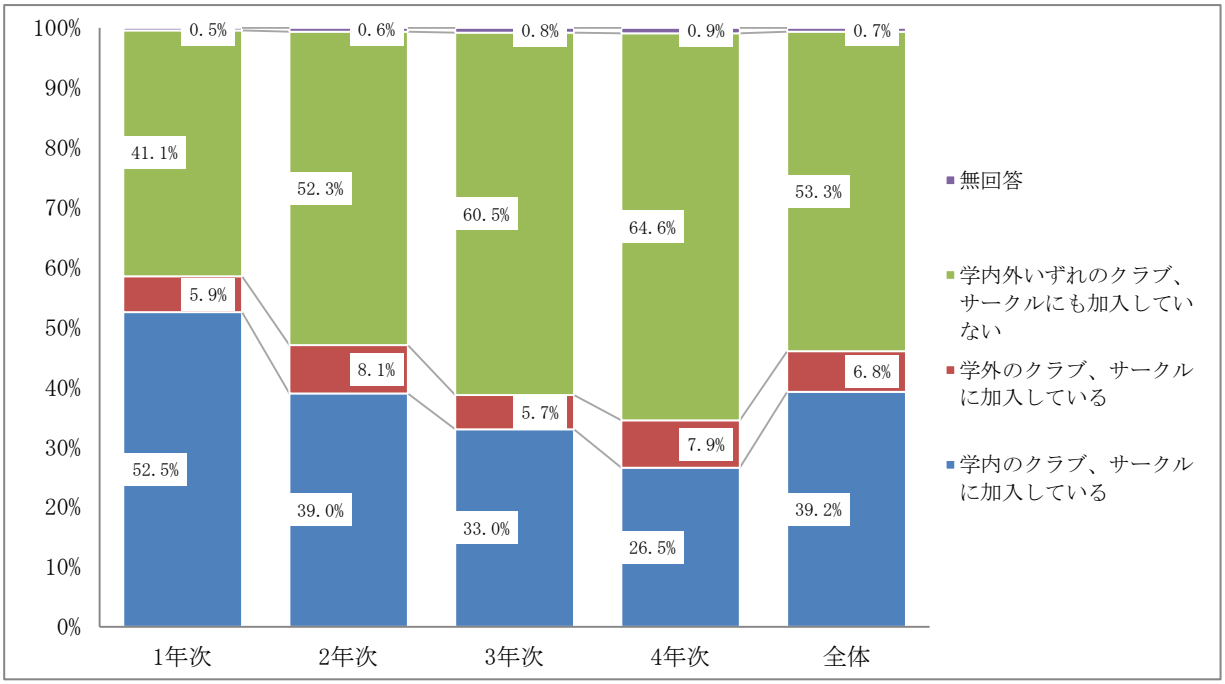


図 3.2　クラブ、サークルの加入状況

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 学内のクラブ、サークルに加入している | 1149 | 737 | 573 | 376 | 2835 |
| 2. 学外のクラブ、サークルに加入している | 130 | 153 | 99 | 112 | 494 |
| 3. 学内外いずれのクラブ、サークルにも加入していない | 898 | 990 | 1052 | 916 | 3856 |
| 無回答 | 10 | 12 | 14 | 13 | 49 |

## Ⅲ-②-イ　クラブ、サークル活動を行う目的または目標

**（Ⅲ - ②で「学内のクラブ、サークルに加入している」、「学外のクラブ、サークルに加入している」と回答した方のみ・複数回答可）**

「クラブ、サークル活動を行う目的または目標」では、「交友関係を築くため」が全体で 1738 名と突出している。次に来るのが「強くなる、上手になるため」（854 名）である。「大きな大会に出場するため」という学生も 350 名おり、多くの学生が高い目標を持って活動していることがうかがえる。また、「上下関係や礼節を身につけるため」が 468 名、「健康の維持・増進をはかるため」が 396 名、「就職に役立てるため」が 347 名となっているが、これらの結果から、学生たちの多くが人間的成長や実利的目的を持ってクラブ、サークル活動に参加していることがわかる。学生たちの目的、目標はさまざまであり、多くの学生の期待に応えられるクラブ、サークルの運営が求められているといえる。

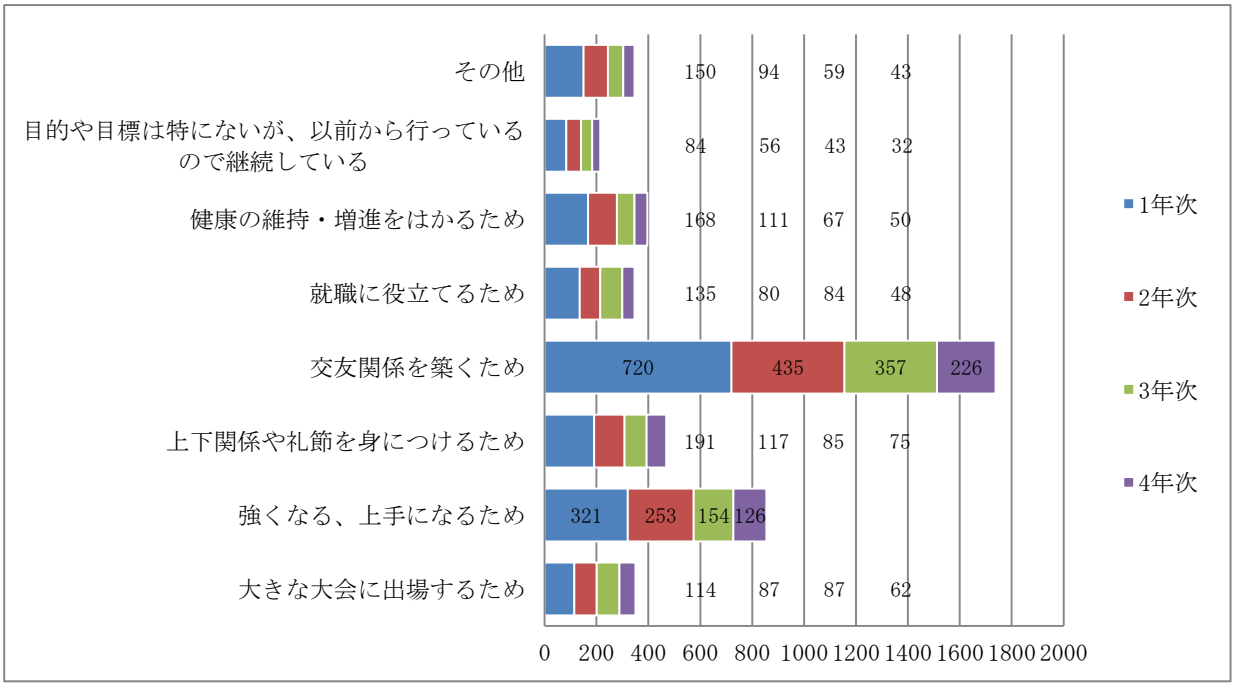


図 3.2.1　クラブ、サークル活動を行う目的または目標

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 大きな大会に出場するため | 114 | 87 | 87 | 62 | 350 |
| 2. 強くなる、上手になるため | 321 | 253 | 154 | 126 | 854 |
| 3. 上下関係や礼節を身につけるため | 191 | 117 | 85 | 75 | 468 |
| 4. 交友関係を築くため | 720 | 435 | 357 | 226 | 1738 |
| 5. 就職に役立てるため | 135 | 80 | 84 | 48 | 347 |
| 6. 健康の維持・増進をはかるため | 168 | 111 | 67 | 50 | 396 |
| 7. 目的や目標は特にないが、以前から行っているので継続している | 84 | 56 | 43 | 32 | 215 |
| 8. その他 | 150 | 94 | 59 | 43 | 346 |

## Ⅲ-②-ロ　クラブ、サークルの一日の平均活動時間

**（Ⅲ - ②で「学内のクラブ、サークルに加入している」、「学外のクラブ、サークルに加入している」と回答した方のみ）**

一日のクラブ、サークルの平均活動時間では、「1 時間程度」と回答した学生がどの学年でも多く、全体で 44.3%であった。次に多いのが「2 時間程度」であり、24.4%、その次に来るのが「3 時間程度」の 17.5%であった。1 割程度であるが、4 時間以上活動していると回答した学生も各学年に見られた。クラブ、サークル活動においては、学業とのバランスが重要であるといえるが、8 割以上の学生が 1 日の活動時間を 3 時間以内としていることから、多くの学生が適切な活動を行っているといえる。

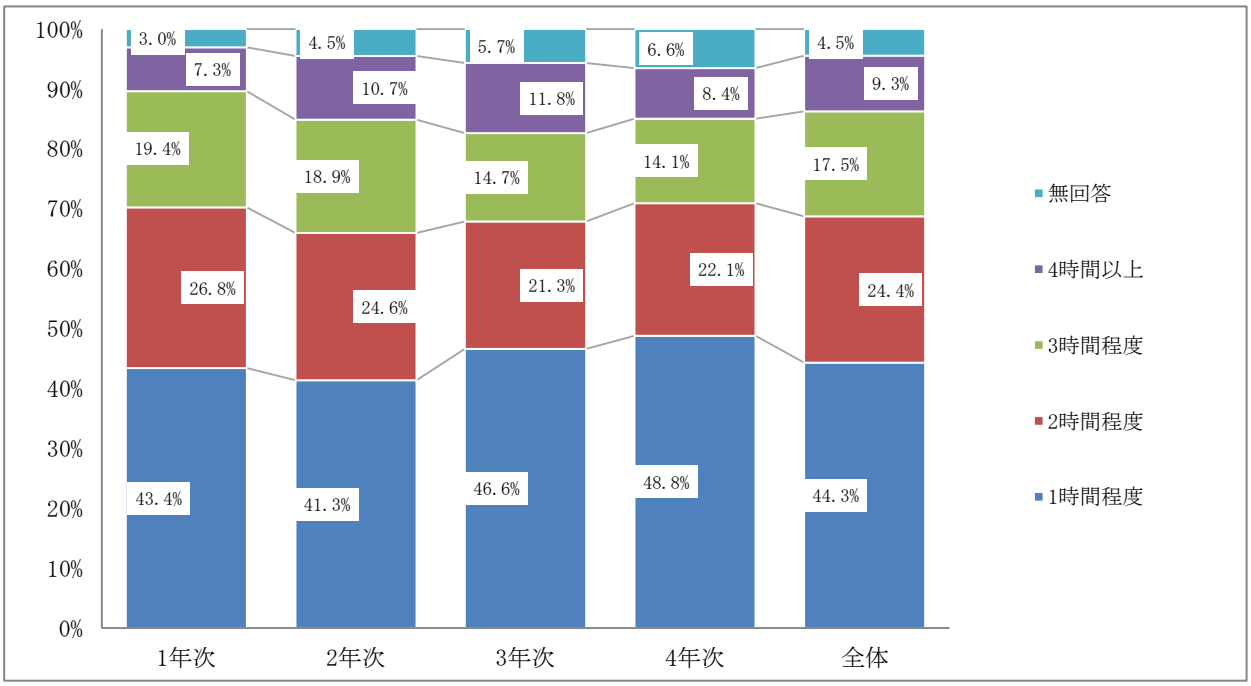


図 3.2.2　クラブ、サークルの一日の平均活動時間

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 1 時間程度 | 555 | 368 | 313 | 238 | 1474 |
| 2. 2 時間程度 | 343 | 219 | 143 | 108 | 813 |
| 3. 3 時間程度 | 248 | 168 | 99 | 69 | 584 |
| 4. 4 時間以上 | 94 | 95 | 79 | 41 | 309 |
| 無回答 | 39 | 40 | 38 | 32 | 149 |

## Ⅲ-③　ボランティア活動への参加

「ボランティア活動への参加」では、「過去に参加したことがある」が全体で 12.1%、「現在、参加している」が 5.4%となっている。それぞれの学年で一定数の学生が現在もボランティアに参加していると回答している。全体で見るとボランティア経験者は 20%未満であり、高い数字とはいえない。学年が上がるにつれてボランティア活動の経験者も少しずつ増加はしているが、それほど増えているわけではない。在学中に新たにボランティアをはじめている学生が少ないと考えることができる。ボランティア活動は学業、クラブ、サークル活動とともに学生の人間的成長において重要なものである。千葉工業大学では、平成 28 年度より教養特別講義の一つとして新たに「ボランティア」という科目を設置した。学生への積極的な参加の呼びかけや情報の提供など、一層のサポートが必要であるといえる。

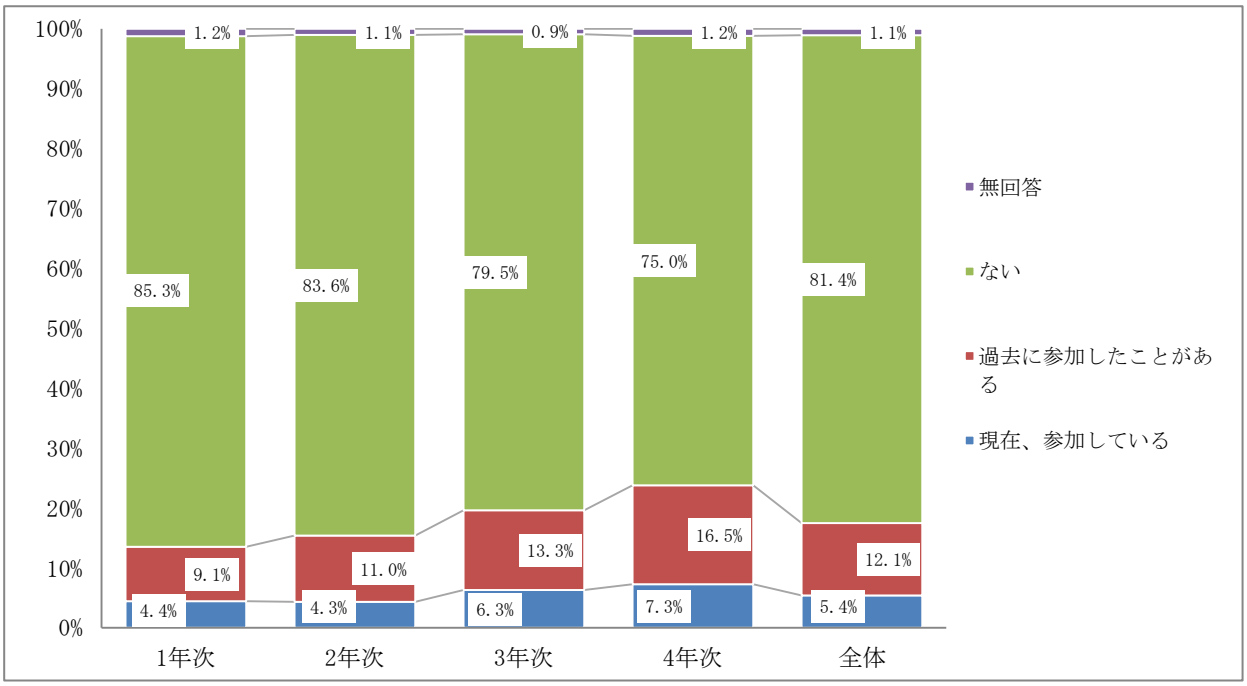


図 3.3　ボランティア活動への参加

(回答者数)

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 現在、参加している | 97 | 82 | 109 | 103 | 391 |
| 2. 過去に参加したことがある | 198 | 209 | 232 | 234 | 873 |
| 3. ない | 1865 | 1581 | 1381 | 1063 | 5890 |
| 無回答 | 27 | 20 | 16 | 17 | 80 |

## Ⅲ-④　ボランティア活動に参加する（した）理由（複数回答可）

「ボランティア活動に参加する（した）理由」としては、「誰かの役に立ちたいから」が全体で1230名と最も多い結果であった。また、「自分の見聞を広めたいから」が627名、「新しい出会いや経験をしたいから」が584名、「社会勉強だと思ったから」が419名であり、ボランティア活動の目的として自己の成長に関わるものをあげた学生が多く見られた。「就職に役立つと思ったから」を理由として選んだ学生も376名いた。Ⅲ-③で述べたように、平成28年度より教養特別講義の一つとして新たに「ボランティア」という科目を設置したが、1年生のうち128名が、2年生のうち127名が「正課の授業に組み込まれていたから（単位が認定されるから）」という理由でボランティア活動に参加した。

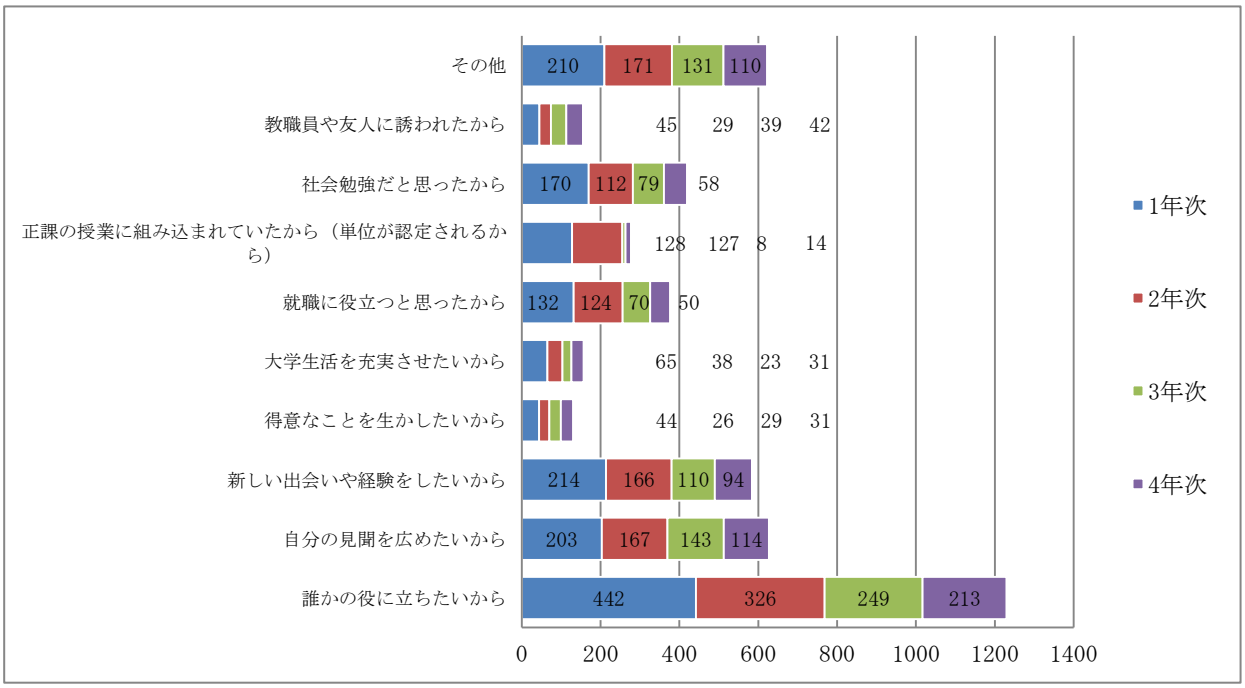


図3.4　ボランティア活動に参加する（した）理由

（回答者数）

| | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 誰かの役に立ちたいから | 442 | 326 | 249 | 213 | 1230 |
| 2. 自分の見聞を広めたいから | 203 | 167 | 143 | 114 | 627 |
| 3. 新しい出会いや経験をしたいから | 214 | 166 | 110 | 94 | 584 |
| 4. 得意なことを生かしたいから | 44 | 26 | 29 | 31 | 130 |
| 5. 大学生活を充実させたいから | 65 | 38 | 23 | 31 | 157 |
| 6. 就職に役立つと思ったから | 132 | 124 | 70 | 50 | 376 |
| 7. 正課の授業に組み込まれていたから（単位が認定されるから） | 128 | 127 | 8 | 14 | 277 |
| 8. 社会勉強だと思ったから | 170 | 112 | 79 | 58 | 419 |
| 9. 教職員や友人に誘われたから | 45 | 29 | 39 | 42 | 155 |
| 10. その他 | 210 | 171 | 131 | 110 | 622 |

## Ⅲ-⑤　海外留学

海外留学に関しては、各学年とも、「留学したい」と答えた学生は 30%前後と、低い数字となっている。「留学したいが理由があってできない」は各学年とも 15%前後の数字となっている。そして各学年とも、5 割強の学生が「留学したくない」と回答している。理由に関しては次の設問（Ⅲ-⑤Sub）で明らかになっているが、多くの学生が留学に対して消極的な意見を持っていることがわかる。このような結果は最近の大学生一般に言えることでもあるかもしれないが、少なくとも最初から留学を否定するのではなく、大学生活における一つの選択肢として検討できる環境を作ることが重要であるといえる。

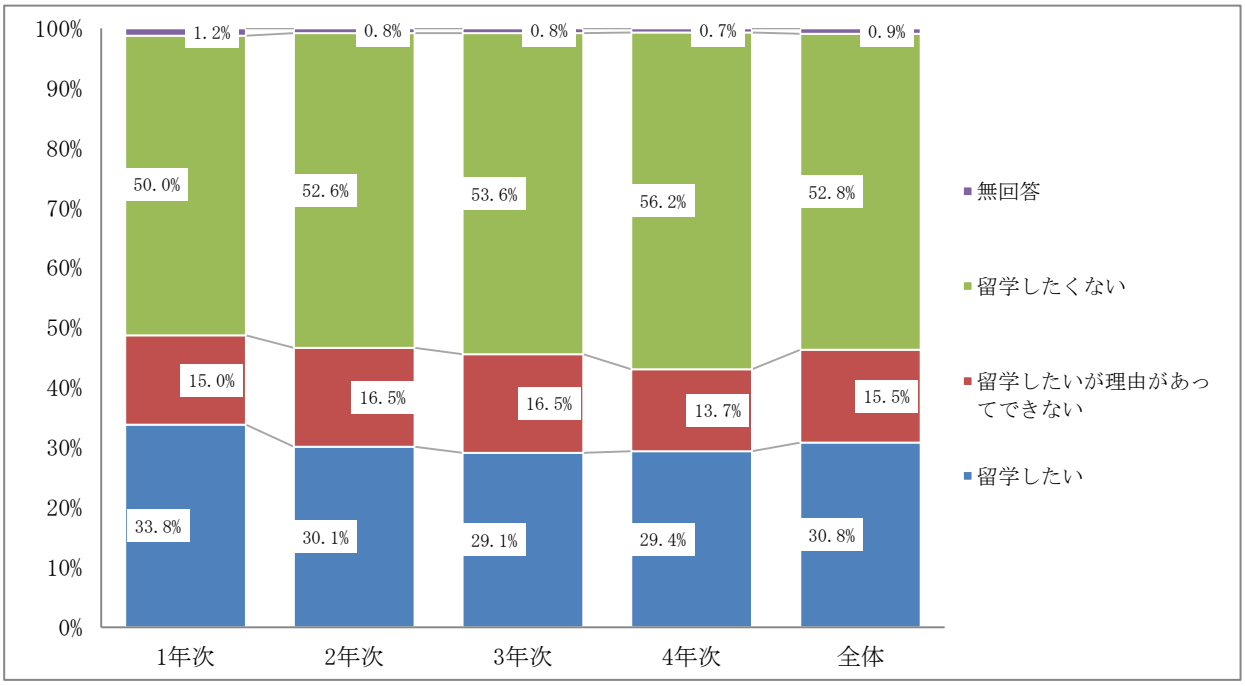


図 3.5　海外留学

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 留学したい | 739 | 570 | 506 | 416 | 2231 |
| 2. 留学したいが理由があってできない | 327 | 312 | 286 | 194 | 1119 |
| 3. 留学したくない | 1094 | 995 | 932 | 797 | 3818 |
| 無回答 | 27 | 15 | 14 | 10 | 66 |

## Ⅲ−⑤Sub　「留学したいが理由があってできない」、「留学したくない」と解答した理由（複数回答可）

「留学したいが理由があってできない」、「留学したくない」と解答した理由としては、「経済的に余裕がないから」が 1873 名と最も多い数字となっている。この点に関しては、各種奨学金の情報を提供するなどの対策が必要である。「語学力が不安だから」と回答した学生も 1678 名と多い。また、「海外での生活（コミュニケーション等）が不安だから」（958 名）といった項目を選んだ学生も多く見られたが、これらについては大学側が、留学経験者から情報を集めるなどして留学に関する情報を提供し、サポートすることができる項目である。「時間的に余裕がないから」（736 名）、「卒業（進級）が遅れるから」（272 名）、「就職（活動）が不安だから」（155 名）という点を選んだ学生も見られたが、これらは大学生活全体や将来に関わる問題であり、大学のさまざまな部署で連携してのサポートが必要なものである。

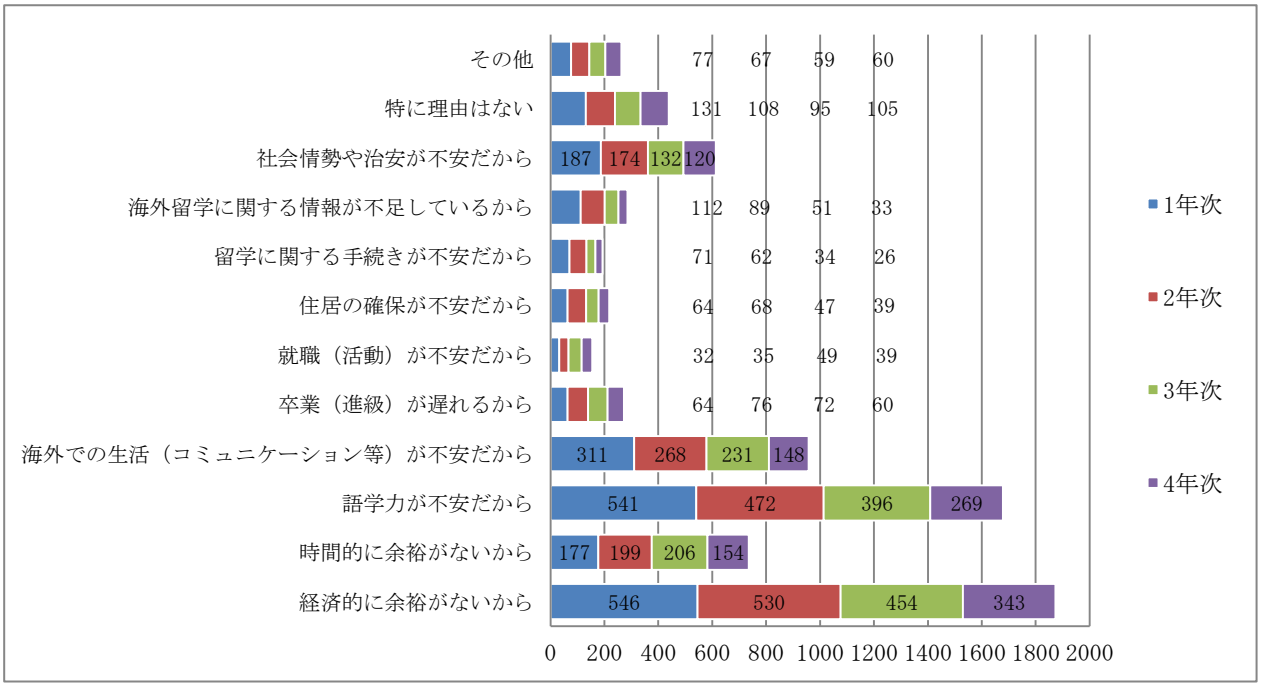


図 3.5.1　「留学したいが理由があってできない」、「留学したくない」と解答した理由

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 経済的に余裕がないから | 546 | 530 | 454 | 343 | 1873 |
| 2. 時間的に余裕がないから | 177 | 199 | 206 | 154 | 736 |
| 3. 語学力が不安だから | 541 | 472 | 396 | 269 | 1678 |
| 4. 海外での生活（コミュニケーション等）が不安だから | 311 | 268 | 231 | 148 | 958 |
| 5. 卒業（進級）が遅れるから | 64 | 76 | 72 | 60 | 272 |
| 6. 就職（活動）が不安だから | 32 | 35 | 49 | 39 | 155 |
| 7. 住居の確保が不安だから | 64 | 68 | 47 | 39 | 218 |
| 8. 留学に関する手続きが不安だから | 71 | 62 | 34 | 26 | 193 |
| 9. 海外留学に関する情報が不足しているから | 112 | 89 | 51 | 33 | 285 |
| 10. 社会情勢や治安が不安だから | 187 | 174 | 132 | 120 | 613 |
| 11. 特に理由はない | 131 | 108 | 95 | 105 | 439 |
| 12. その他 | 77 | 67 | 59 | 60 | 263 |

## Ⅲ-⑥　現在、抱えている悩みや問題（３つまで回答可）

現在、抱えている悩みや問題では、「勉学上の問題」が 2991 名であり、学業に関する悩みを抱えている学生が多いことがわかる。これは留年、退学につながることもありえる重要な問題であるので注意が必要であるといえる。「就職・将来の進路」については 2331 名が選択し、「金銭問題」についても 2105 名と多くの学生が選んでいる。ほかにも「自分の性格や能力について」、「精神・心理的問題」という、心理面での悩みを抱えている学生も多く見られた。

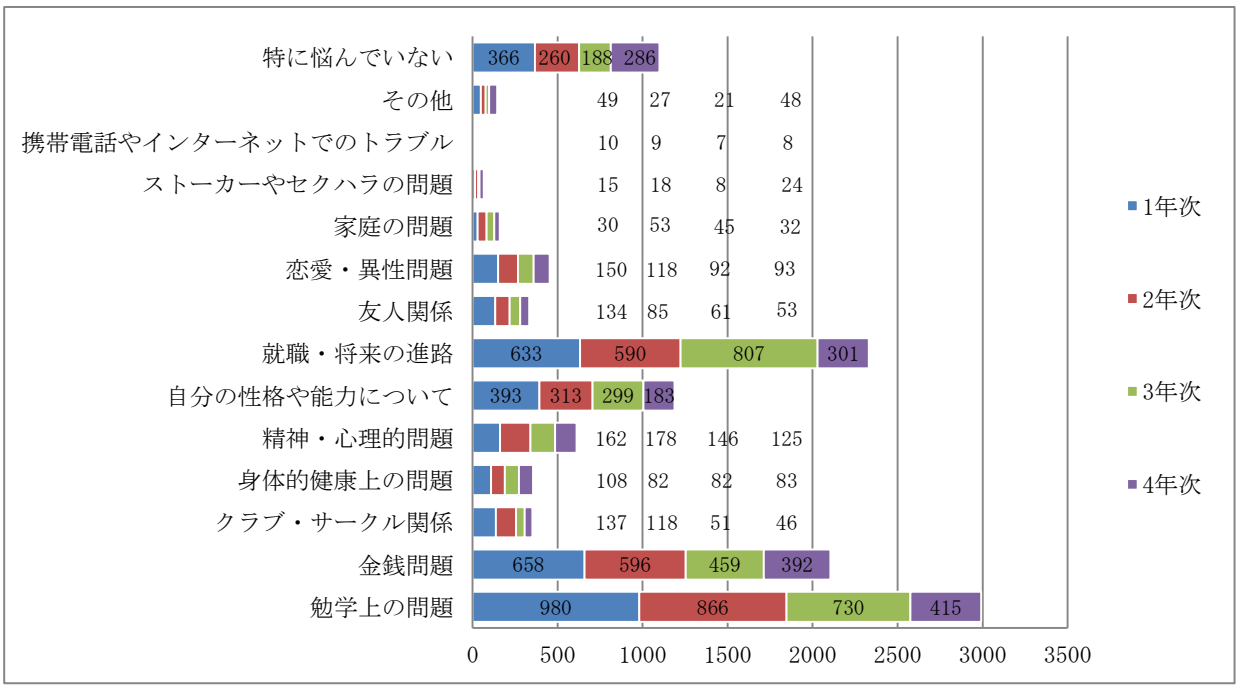


図 3.6　現在、抱えている悩みや問題

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 勉学上の問題 | 980 | 866 | 730 | 415 | 2991 |
| 2. 金銭問題 | 658 | 596 | 459 | 392 | 2105 |
| 3. クラブ・サークル関係 | 137 | 118 | 51 | 46 | 352 |
| 4. 身体的健康上の問題 | 108 | 82 | 82 | 83 | 355 |
| 5. 精神・心理的問題 | 162 | 178 | 146 | 125 | 611 |
| 6. 自分の性格や能力について | 393 | 313 | 299 | 183 | 1188 |
| 7. 就職・将来の進路 | 633 | 590 | 807 | 301 | 2331 |
| 8. 友人関係 | 134 | 85 | 61 | 53 | 333 |
| 9. 恋愛・異性問題 | 150 | 118 | 92 | 93 | 453 |
| 10. 家庭の問題 | 30 | 53 | 45 | 32 | 160 |
| 11. ストーカーやセクハラの問題 | 15 | 18 | 8 | 24 | 65 |
| 12. 携帯電話やインターネットでのトラブル | 10 | 9 | 7 | 8 | 34 |
| 13. その他 | 49 | 27 | 21 | 48 | 145 |
| 14. 特に悩んでいない | 366 | 260 | 188 | 286 | 1100 |

## Ⅲ-⑦　悩みや問題の相談（３つまで回答可）

悩みや問題の相談の相手としては、「友人・先輩に相談する」が 3724 名、「家族に相談する」が 3082 名となっている。それに対し、相談相手として教員、職員、学生相談室、保健室を選んだ学生は合計してもそれほど多い数字ではない。悩みがあるとき、まずは家族や友人など身近な存在に相談することは自然なことであるため、このような結果に問題はないかもしれない。しかし、「誰にも相談しない」と回答した学生も 1374 名おり、大学側でもより気軽に悩みを相談できる環境を作ることが重要であるといえる。

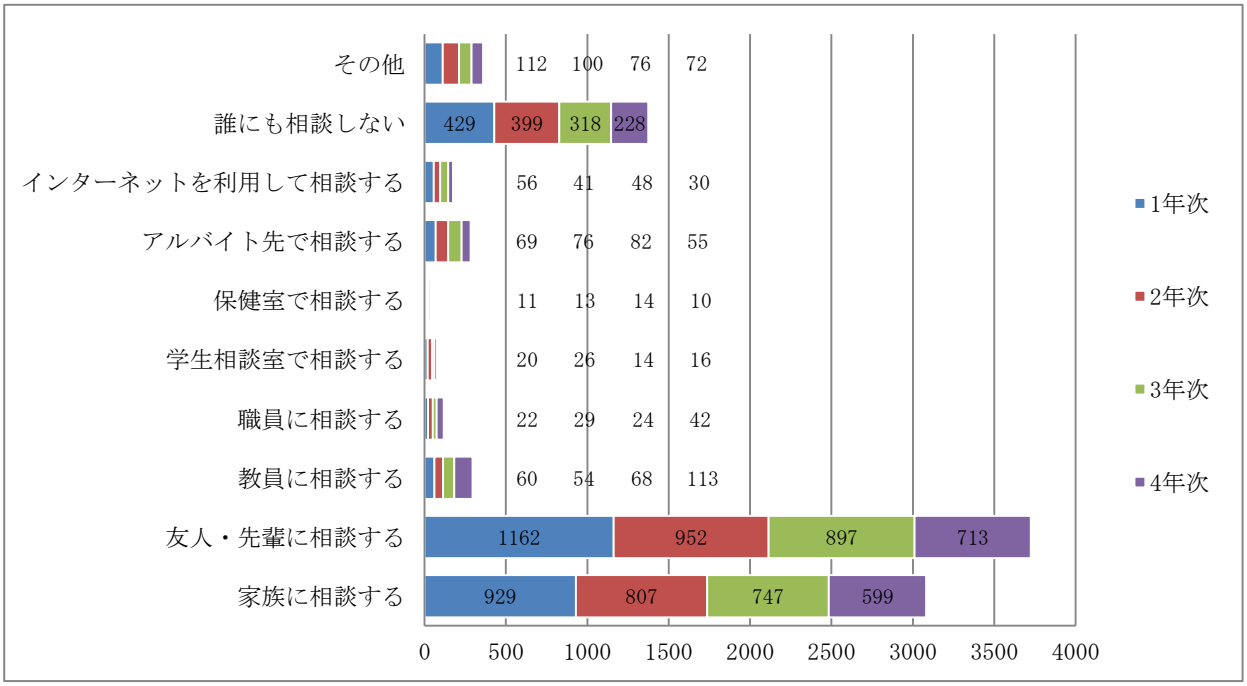


図 3.7　悩みや問題の相談

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 家族に相談する | 929 | 807 | 747 | 599 | 3082 |
| 2. 友人・先輩に相談する | 1162 | 952 | 897 | 713 | 3724 |
| 3. 教員に相談する | 60 | 54 | 68 | 113 | 295 |
| 4. 職員に相談する | 22 | 29 | 24 | 42 | 117 |
| 5. 学生相談室で相談する | 20 | 26 | 14 | 16 | 76 |
| 6. 保健室で相談する | 11 | 13 | 14 | 10 | 48 |
| 7. アルバイト先で相談する | 69 | 76 | 82 | 55 | 282 |
| 8. インターネットを利用して相談する | 56 | 41 | 48 | 30 | 175 |
| 9. 誰にも相談しない | 429 | 399 | 318 | 228 | 1374 |
| 10. その他 | 112 | 100 | 76 | 72 | 360 |

## Ⅲ-⑧　ハラスメント防止のための委員会や相談員の認知

「ハラスメント防止のための委員会や相談員」に関しては、各学年とも、「知らない」という回答が 7 割以上を占めている。学年が進んでも、委員会や相談員についての認知が進んでいないことがわかる。認知が進んでいないということは、多くの学生にとってハラスメント防止のための委員会や相談員が必要なかったととらえることもできるかもしれないが、一般的に大学という組織においても種々のハラスメントが起こることはあり得ることであり、学生たちがその被害者となったときにすぐに相談できる環境を作ることが大学には求められている。たとえ問題が起きてもすぐに解決できるように、学生たちに「ハラスメント防止のための委員会や相談員」の存在を周知するよう、一層の努力が必要であるといえる。

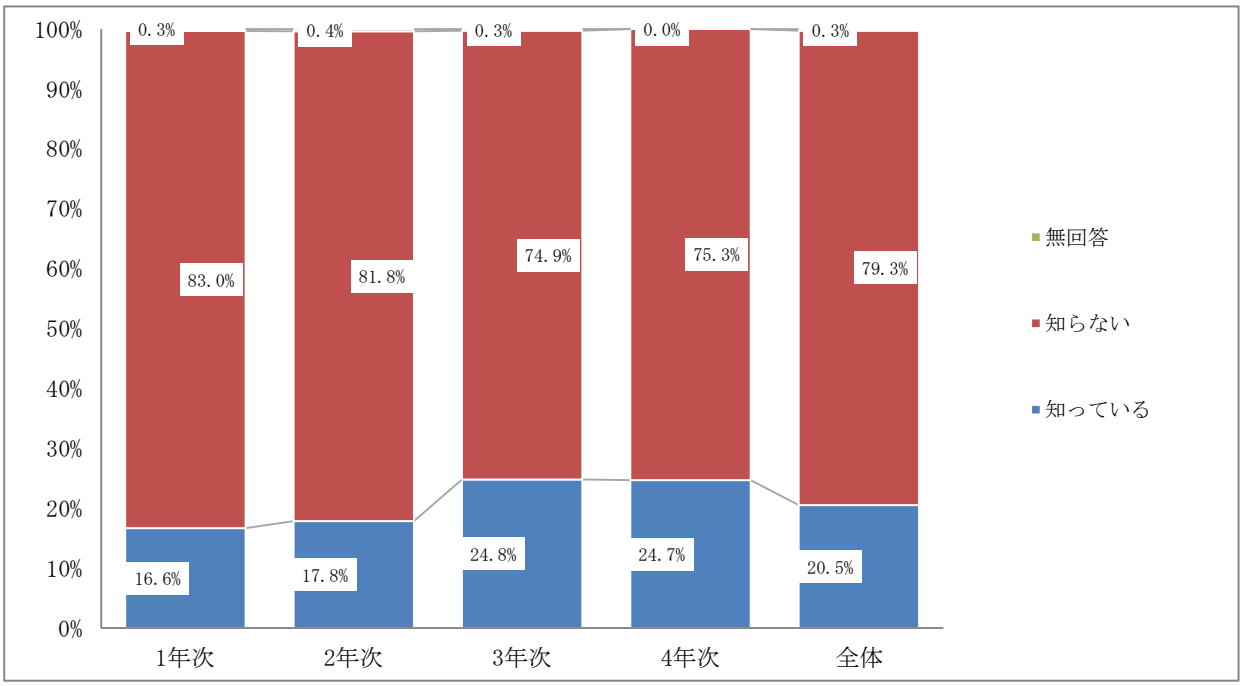


図 3.8　ハラスメント防止のための委員会や相談員の認知

(回答者数)

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 知っている | 364 | 337 | 431 | 350 | 1482 |
| 2. 知らない | 1816 | 1548 | 1302 | 1067 | 5733 |
| 無回答 | 7 | 7 | 5 | 0 | 19 |

## Ⅲ - ⑨　喫煙の有無

喫煙に関しては、「はい」と答えた学生は、1 年次 3.3%、2 年次 8.7%、3 年次 12.1%、4 年次 15.7%で全体では 9.3%の学生が「はい」と答えている。2016 年度は、全体の学生のうち、喫煙率は 9.2%であり、2015 年度は 11.9%であり、2014 年度は 13.9%であったので、それと比較すると年々減少している。しかし、20 歳を超えている 3 年次以降の数字は依然として高い。また、2016 年度のアンケートで 1 年次の喫煙率は 3.8%であったのが、今年度の 2 年次の喫煙率は 8.7%となっており、大学に入学してから喫煙を始めた学生もいるのかもしれない。喫煙は個人の趣向の問題ではあるが、健康やマナーの問題など、最近では喫煙を取り巻く環境が厳しくなっている。千葉工業大学では、健康増進法における「受動喫煙の防止」の観点から、平成 27 年度より、新習志野キャンパス（茜浜運動施設、学生寮含む）及び津田沼キャンパスの両キャンパスにおいて、キャンパス内全面禁煙となった。キャンパス内全面禁煙を徹底するとともに、喫煙者には禁煙に向けた指導を行っていく必要がある。

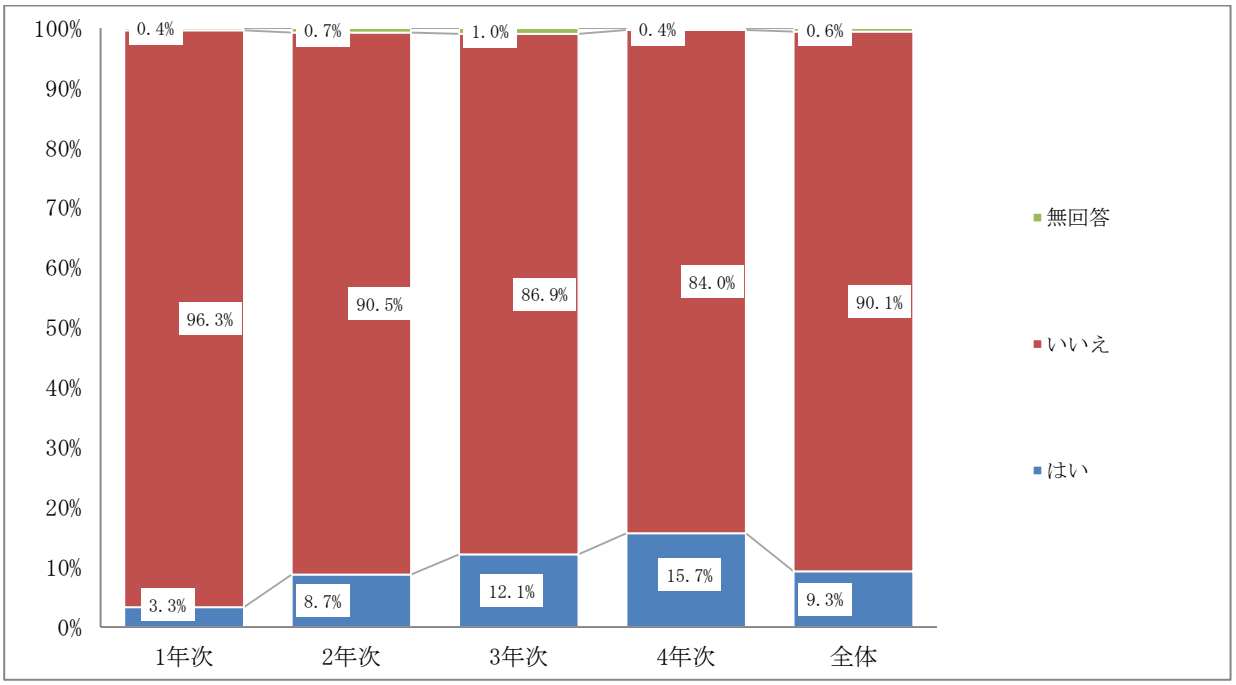


図 3.9　喫煙の有無

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. はい | 72 | 165 | 211 | 222 | 670 |
| 2. いいえ | 2106 | 1713 | 1510 | 1190 | 6519 |
| 無回答 | 9 | 14 | 17 | 5 | 45 |

## Ⅲ-⑨-イ　喫煙による健康への影響の認識

**（Ⅲ - ⑨で「1. はい」と回答した方のみ）**

喫煙をしている学生のうち、74. 0%の学生が喫煙は健康に影響を与えると考えている。学年別で見ると、1 年次では喫煙している学生のうち 58. 3%、2 年次では 73. 3%、3 年次では 77. 7%、4 年次では 76. 1%の学生が喫煙による健康への影響を認識している。1 年次における比率が特に低くなっており、喫煙が健康へ及ぼす影響について伝えていく必要がある。

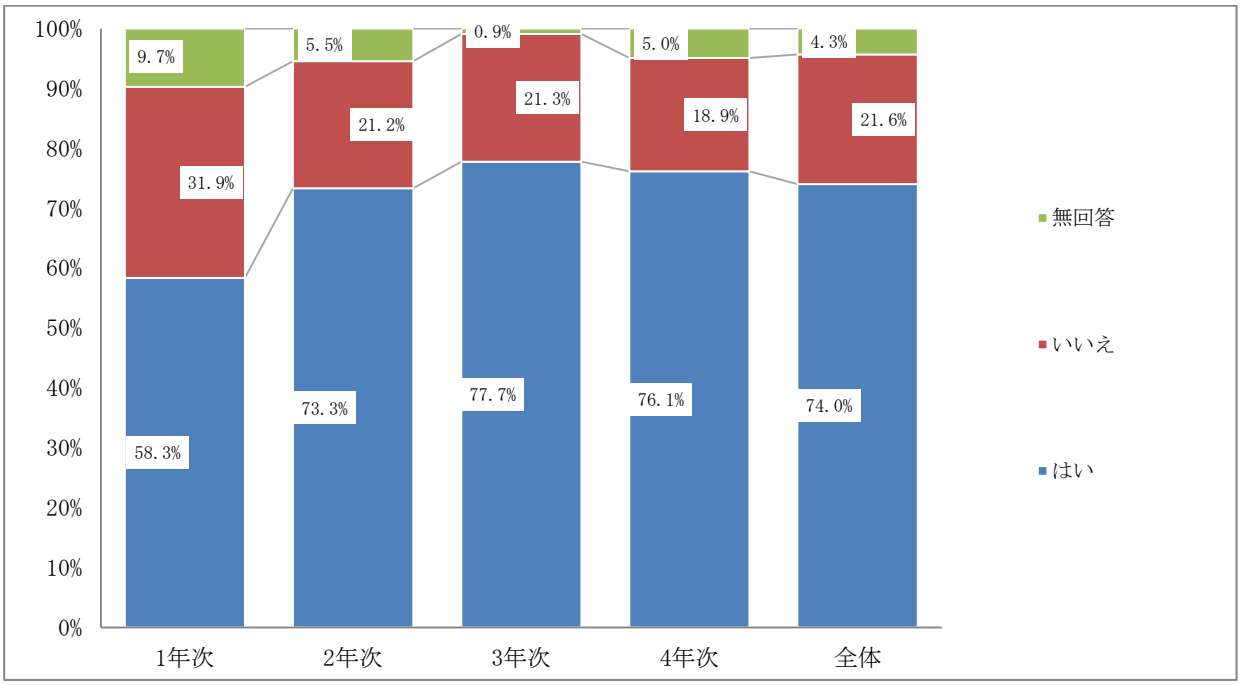


図 3. 9. 1　喫煙による健康への影響の認識

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. はい | 42 | 121 | 164 | 169 | 496 |
| 2. いいえ | 23 | 35 | 45 | 42 | 145 |
| 無回答 | 7 | 9 | 2 | 11 | 29 |

## Ⅲ-⑨-ロ　喫煙による受動喫煙の認識

**（Ⅲ - ⑨で「1. はい」と回答した方のみ）**

喫煙をしている学生のうち、81.2%の学生が受動喫煙のことを考えたことがあると回答した。学年別で見ると、1 年次では喫煙している学生のうち 66.7%、2 年次では 75.8%、3 年次では 85.8%、4 年次では 85.6%の学生が「ある」と回答している。この割合を、Ⅲ-⑨-イの結果と比較してみると、若干ではあるが高くなっており、喫煙する際は周囲に配慮をしなければいけないということを認識していることがうかがえる。健康への影響および昨今の喫煙者を取り巻く環境を鑑みると、喫煙しないことに越したことはないが、もし喫煙するにしても、マナーを遵守するよう周知徹底していく必要がある。

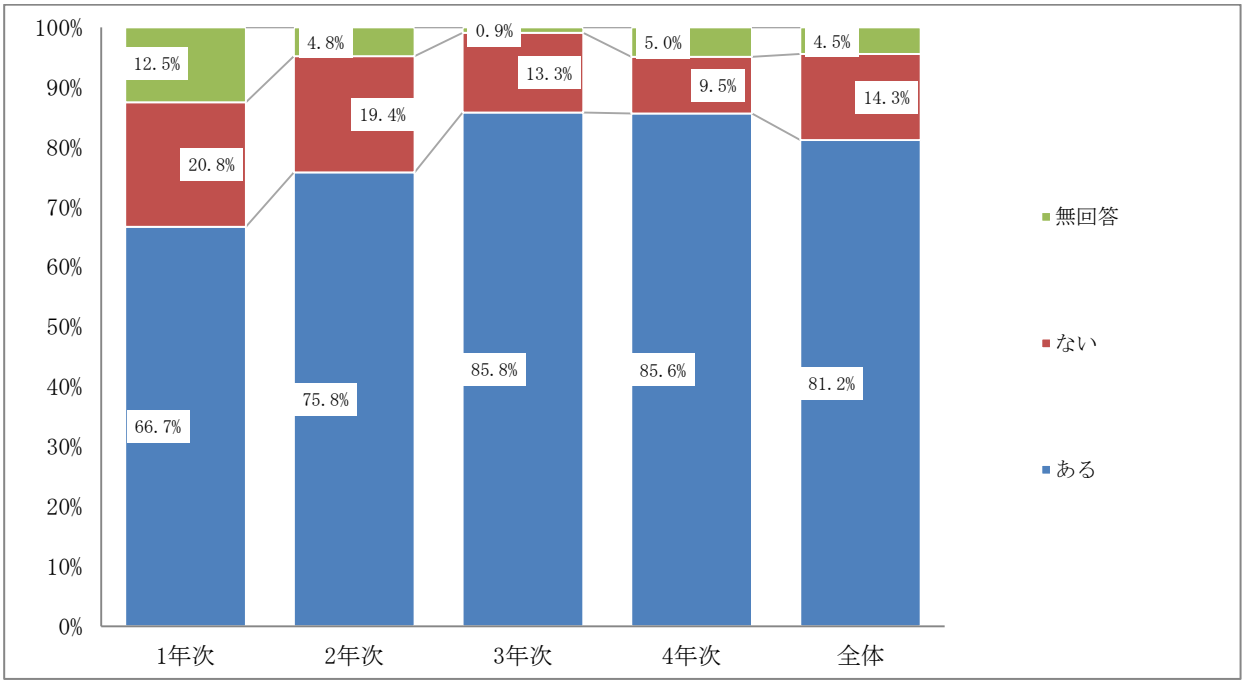


図 3.9.2　喫煙による受動喫煙の認識

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. ある | 48 | 125 | 181 | 190 | 544 |
| 2. ない | 15 | 32 | 28 | 21 | 96 |
| 無回答 | 9 | 8 | 2 | 11 | 30 |

## Ⅲ−⑨−ハ　禁煙の意志

**（Ⅲ - ⑨で「1. はい」と回答した方のみ）**

喫煙をしている学生のうち、44.6%の学生が喫煙をやめようと思っていると回答した。学年別で見ると、1 年次では喫煙している学生のうち 54.2%、2 年次では 43.0%、3 年次では 45.5%、4 年次では 41.9%の学生が禁煙の意思があると回答している。喫煙の習慣が完全に定着する前に、早い段階で禁煙に向けた指導やサポートを行っていくことがより効果的であると考えられる。

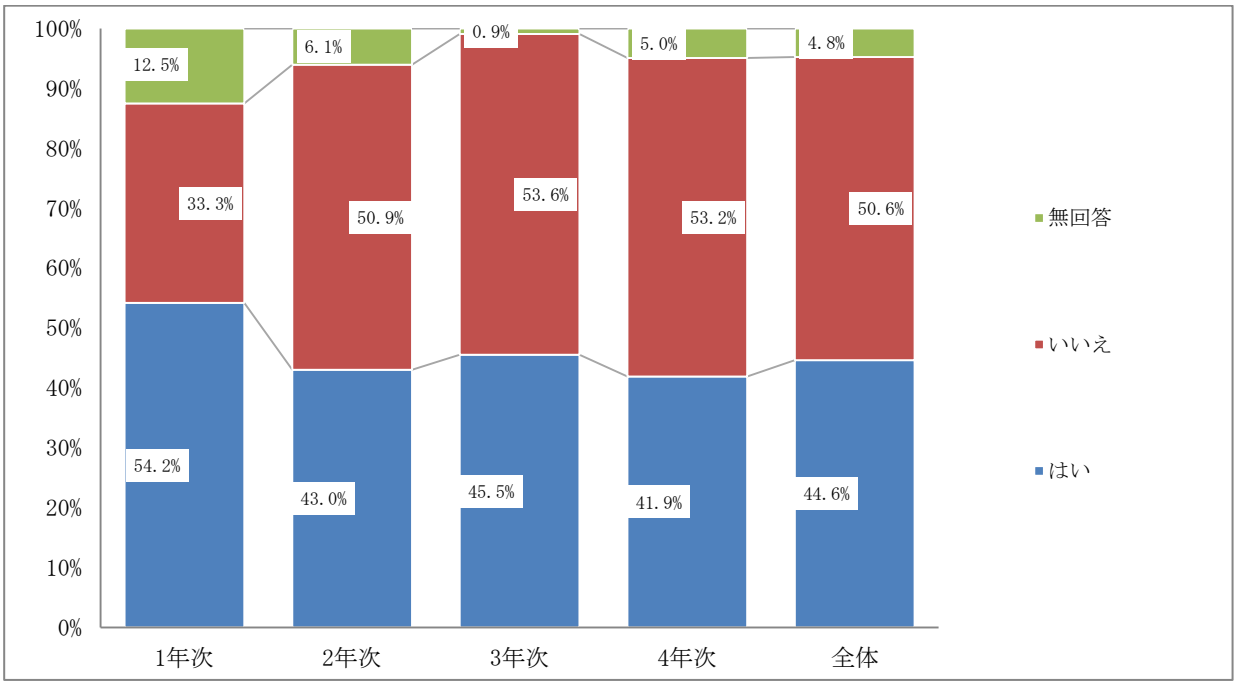


図 3.9.3　禁煙の意志

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. はい | 39 | 71 | 96 | 93 | 299 |
| 2. いいえ | 24 | 84 | 113 | 118 | 339 |
| 無回答 | 9 | 10 | 2 | 11 | 32 |

## Ⅲ - ⑩　キャンパス内全面禁煙

Ⅲ-⑨で述べたように、平成 27 年度より、新習志野キャンパス（茜浜運動施設、学生寮含む）及び津田沼キャンパスの両キャンパスにおいて、キャンパス内全面禁煙となった。このことに関して、1 年次では 94.3%、2 年次では 88.7%、3 年次では 85.8%、4 年次では 76.1%の学生が、「満足している」あるいは「ある程度満足している」と回答した。全体では 87.2%の学生が「満足」あるいは「ある程度満足」と回答した。この結果から、全面禁煙の取り組みが多くの学生に受け入れられていると考えてよいであろう。しかし、学年が進むにつれて「不満がある」あるいは「やや不満がある」と答える学生の割合が多くなり、特に 4 年次の学生では 22.3%の学生が不満を持っている。このアンケートだけでは詳細な理由は分からないが、禁煙の取り組みに不徹底なところがある、あるいは逆に喫煙所を設けてほしいと考えている学生がいるかもしれない。単にキャンパス内を禁煙としただけでは、路上喫煙などマナー違反行為をする学生を増やしてしまう可能性があり、本当の意味で全面禁煙の取り組みを成功させるために、今後も状況を注視し、適切な対策をとっていく必要がある。

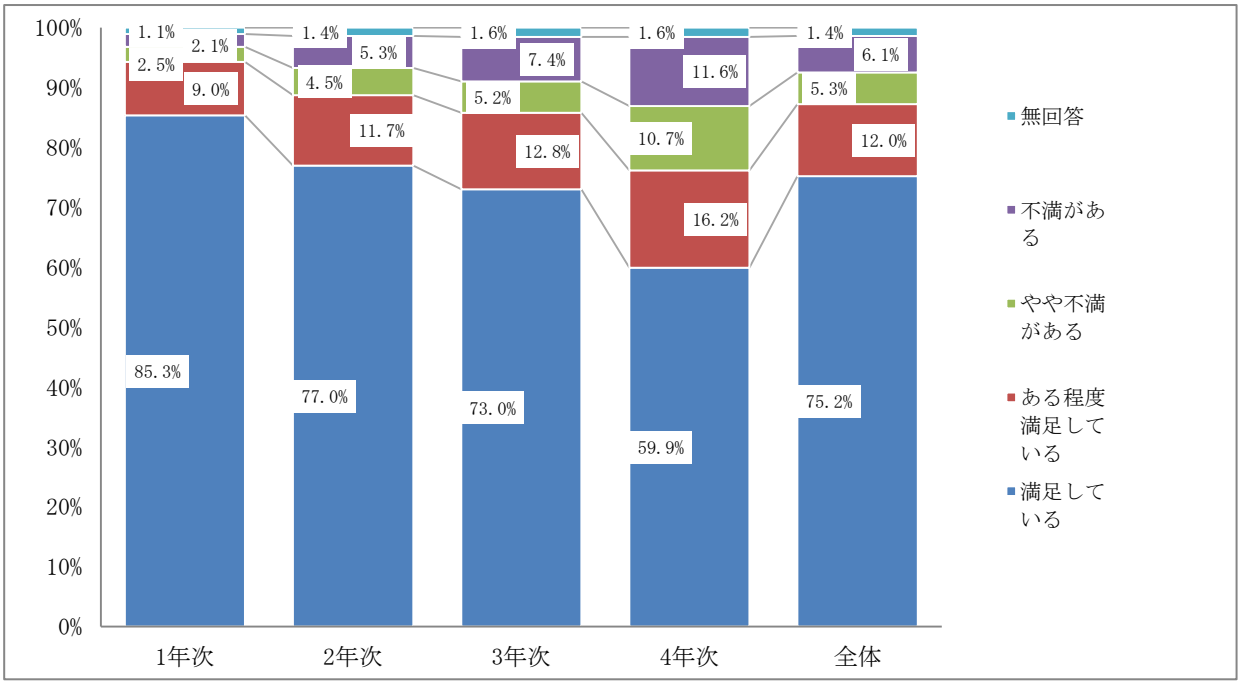


図 3.10　キャンパス内全面禁煙

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 満足している | 1866 | 1456 | 1269 | 849 | 5440 |
| 2. ある程度満足している | 196 | 222 | 222 | 230 | 870 |
| 3. やや不満がある | 54 | 86 | 91 | 152 | 383 |
| 4. 不満がある | 47 | 101 | 129 | 164 | 441 |
| 無回答 | 24 | 27 | 27 | 22 | 100 |

## ＜Ⅳ＞進路について

**Ⅳ-① 将来の進路をどのように予定（希望）していますか。**

1. 大学院進学を希望している
2. 民間企業への就職を希望している
3. 公務員への就職を希望している
4. 起業を予定している
5. 家業を継ぐ予定
6. 専門学校に入学または、他大学に編入を希望する
7. その他（留学・教員など）

**設問Ⅳ-①で『1. 大学院進学を希望している』と回答した方は、次のイの設問にも回答してください。**

**イ．大学院進学する際の理由（基準）をどのように考えていますか。**

1. 自分の興味ある分野があるから
2. 進学をすることが当たり前と思っているから
3. 将来、研究職・開発職を目指しているから
4. 何となく（漠然と）進学することが有利になると思っているから
5. 特に理由はない
6. その他（具体的に：回答用紙の下段に記入ください）

**設問Ⅳ-①で『1. 大学院進学を希望している』以外に回答した方は、次のロの設問にも回答してください。**

**ロ．なぜ大学院進学を選択しないのですか。**

1. 進学後は研究活動しか出来ないイメージがあるから
2. 学部で卒業し、就職しても社会で活躍する自信があるから
3. 奨学金があっても経済的に困難だから
4. 進学するイメージがわかない
5. 考えたことがない
6. その他（具体的に：回答用紙の下段に記入ください）

**設問Ⅳ-①で『2.民間企業への就職を希望している』と回答した方は、次のハ～ニの設問にも回答してください。**

**ハ．どの業種（業界）を希望しますか。**

1. 機械器具製造業
2. 輸送用機器製造業
3. 電気機器製造業
4. 化学・鉄鋼等製造業（素材）
5. 食品・薬品等製造業
6. 建築・設備業（電気工事を含む）
7. 電気・ガス・水道業
8. マスコミ・広告業（放送を含む）
9. 情報・通信業
10. 卸・小売業（デパート・スーパーなど）
11. 金融・保険業
12. 医療・福祉サービス業
13. 教育
14. その他

**ニ．どの職種（仕事内容）を希望していますか。**

1. 研究・開発職
2. 機械・電気設計職
3. 建築・土木設計職
4. 製造（生産）技術職
5. 施工管理職
6. 情報システム職
7. 企画職（デザイン含む）
8. 営業・販売職
9. 財務・経理・事務職
10. その他

**Ⅳ-② 職業を選ぶ際にどのようなことを重視(優先)しますか(複数回答可)。**

複数回答

1. 自分が学ぶ(学んだ)専門知識が生かせること
2. 技術や知識が身につけられること
3. いろいろな仕事にチャレンジできること
4. 自分の独創性や創造性を発揮できること
5. 自分の成長の機会が与えられること
6. 将来独立して、起業できること
7. 社会に貢献できること
8. 将来性があること
9. 安定性を期待できること
10. 実力主義であること
11. 福利厚生が充実していること
12. 休みが多いこと
13. 海外勤務の機会が多いこと
14. 転勤がないこと
15. 自宅から通勤できること
16. その他
(具体的に:回答用紙の下段に記入ください)

**Ⅳ-③ 進路を考えるきっかけとして、職業観教育(キャリア教育)科目を実施していますが、このような科目の設置について、どのように考えていますか。**

1. 重要な科目なので、科目数を増やすなど、もっと充実させてほしい
2. 大切な科目なので、各学年で開講してほしい
3. 低学年時の早期に 1 科目程度開講されていれば良い
4. 3 年次に、進路について考える科目を開講してほしい
5. 進路を考える科目は必要が無いので廃止すべきである

**Ⅳ-④ 進路支援(キャリア支援)として、実施してほしい内容や充実してほしい内容は何でしょうか(複数回答可)。**

複数回答

1. 進路ガイダンス
2. 就職に関する資料(情報誌・企業ファイルなど)
3. 進学に関する資料
4. 業界・職種説明会
5. OB・OG による企業説明会(公務員を含む)
6. 企業人事担当による説明会(公務員を含む)
7. 教職員による就職相談(助言・指導など)
8. 就職システム(Web)を活用した就職情報
9. インターンシップ制度
10. 資格取得(TOEIC・基本情報処理技術者など)を目的とした講座
11. 先輩達の活躍状況
12.その他(具体的に:回答用紙の下段に記入ください)

**Ⅳ-⑤ 先の質問のように、大学では、学部生を対象としたキャリア教育を実施していますが、自分自身で、キャリアアップのために実施していることはありますか(複数回答可)。**

複数回答

1. 自分が目指す業界で必要となる資格の取得
2. 英会話等の語学力向上
3. 必要な分野であれば、専門分野以外のことにも、積極的に取り組むこと
4. その他
5. 特になし

## Ⅳ-①　将来の進路

将来の進路については、全体で 64.1%の学生が「民間企業への就職を希望している」と回答し、最も多かった。次に「大学院進学を希望している」が 18.8%、「公務員への就職を希望している」が 10.5%の順であった。各進路の比率は昨年度と比べ、大学院進学希望が上昇し、公務員希望は減少した。昨年度同様、1 年生の進学希望が多く、2 年生になると希望者が減少するのも昨年度と同じ傾向である。

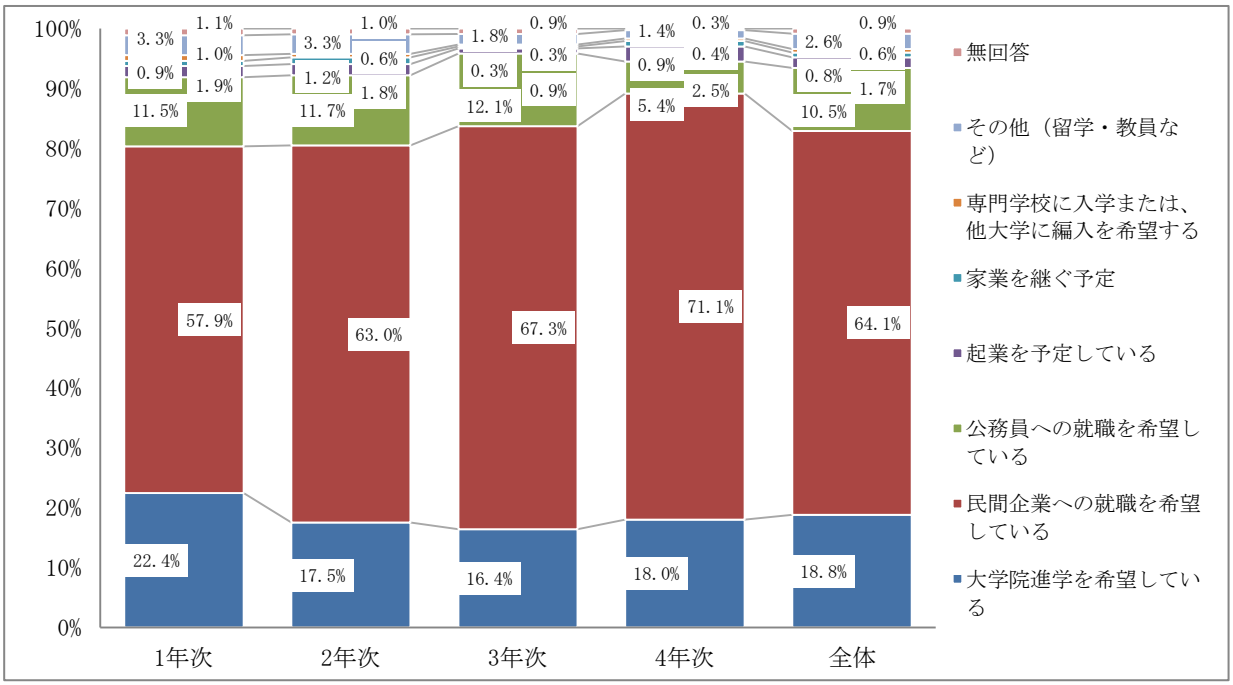


図 4.1　将来の進路

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 大学院進学を希望している | 490 | 331 | 285 | 255 | 1361 |
| 2. 民間企業への就職を希望している | 1267 | 1192 | 1169 | 1008 | 4636 |
| 3. 公務員への就職を希望している | 252 | 221 | 211 | 76 | 760 |
| 4. 起業を予定している | 41 | 35 | 15 | 35 | 126 |
| 5. 家業を継ぐ予定 | 19 | 22 | 6 | 13 | 60 |
| 6. 専門学校に入学または、他大学に編入を希望する | 21 | 11 | 5 | 6 | 43 |
| 7. その他（留学・教員など） | 72 | 62 | 31 | 20 | 185 |
| 無回答 | 25 | 18 | 16 | 4 | 63 |

## Ⅳ-①-イ　大学院進学理由

**（Ⅳ-①で「大学院進学を希望している」と回答した方のみ）**

大学院進学理由については、全体で 43.1%の学生が「自分の興味のある分野があるから」と回答し、最も多かった。次に「将来、研究職・開発職を目指しているから」が 26.1%、「何となく（漠然と）進学することが有利になると思っているから」が 14.3%の順であった。各項目の比率は昨年度と比べ、「進学をすることが当たり前と思っているから」、「何となく（漠然と）進学することが有利になると思っているから」が若干上昇した。また、昨年度同様、学年が進むにしたがって、「自分の興味のある分野」といった「やりたい研究を重視」する学生が増加する傾向となっている。

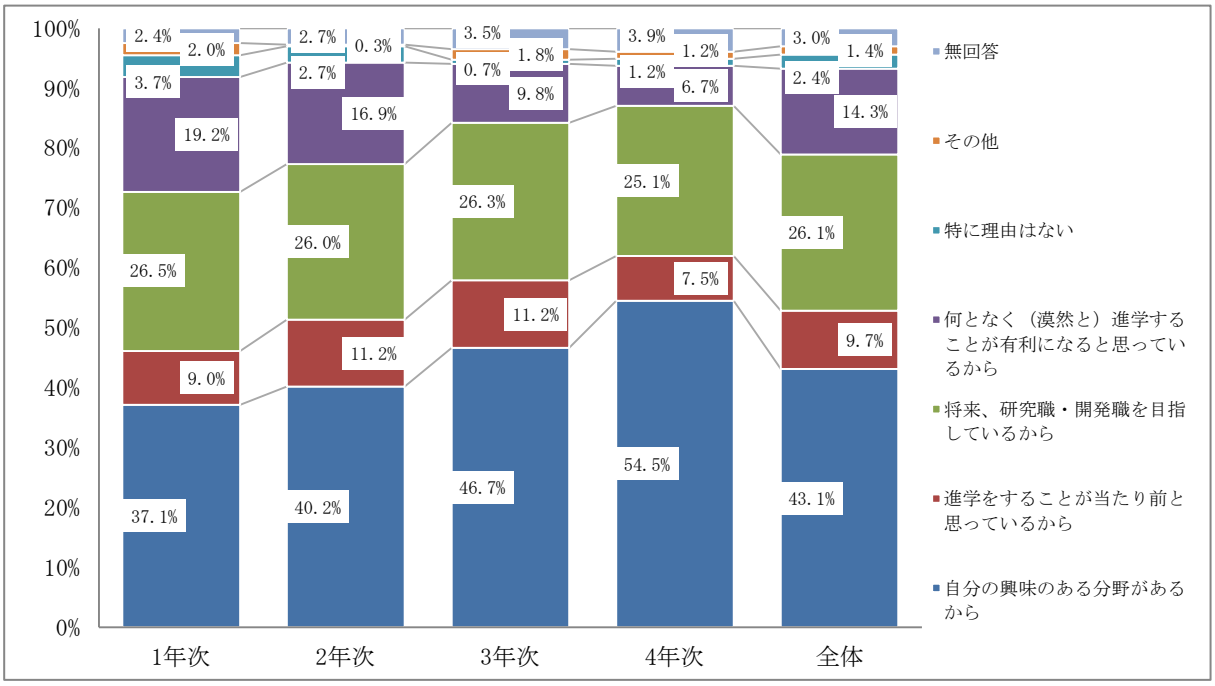


図 4.1.1　大学院進学理由

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 自分の興味のある分野があるから | 182 | 133 | 133 | 139 | 587 |
| 2. 進学をすることが当たり前と思っているから | 44 | 37 | 32 | 19 | 132 |
| 3. 将来、研究職・開発職を目指しているから | 130 | 86 | 75 | 64 | 355 |
| 4. 何となく（漠然と）進学することが有利になると思っているから | 94 | 56 | 28 | 17 | 195 |
| 5. 特に理由はない | 18 | 9 | 2 | 3 | 32 |
| 6. その他 | 10 | 1 | 5 | 3 | 19 |
| 無回答 | 12 | 9 | 10 | 10 | 41 |

## Ⅳ-①-ロ　大学院に進学しない理由

**（Ⅳ-①で「大学院進学を希望している」以外に回答した方のみ）**

大学院に進学しない理由については、全体で 19.7%の学生が「進学するイメージがわかない」と回答し、「奨学金があっても経済的に困難だから」が 19.0%で、ほぼ同じ割合で高く、昨年度の比率と比べ上昇した。「進学するイメージがわかない」、「無回答」36.3%については、学部生対象にさらに大学院進学に関する情報を提供することが求められる。

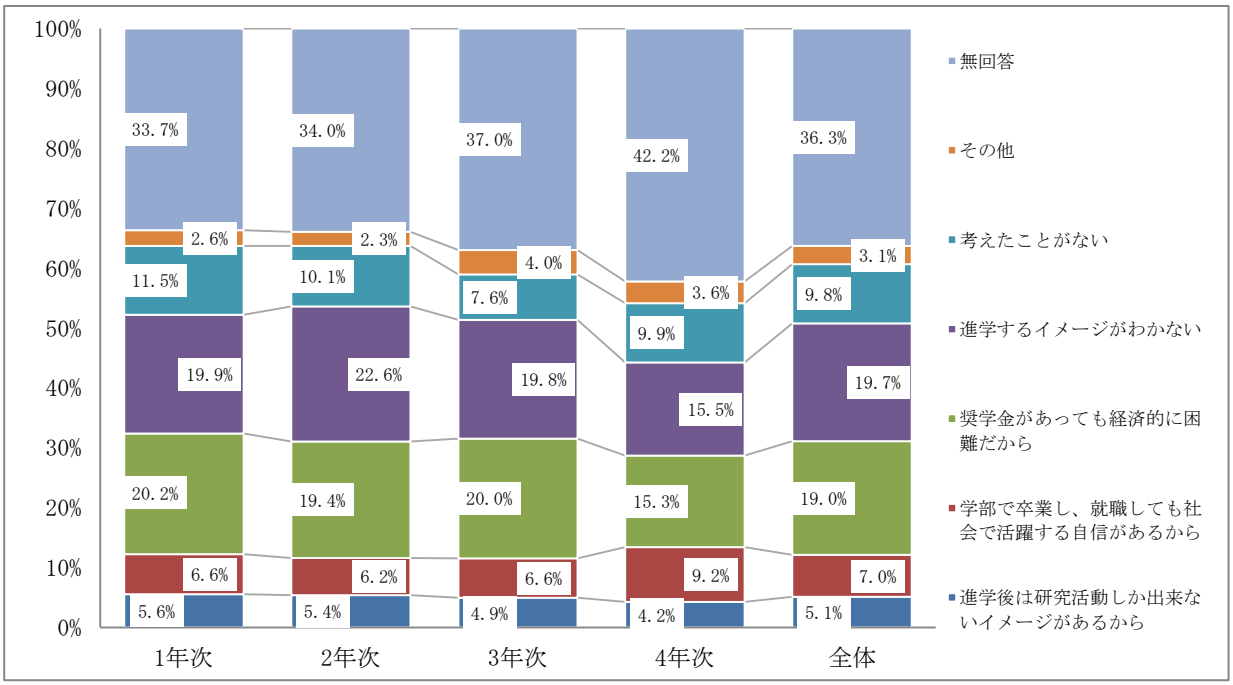


図 4.1.2　大学院に進学しない理由

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 進学後は研究活動しか出来ないイメージがあるから | 93 | 83 | 71 | 49 | 296 |
| 2. 学部で卒業し、就職しても社会で活躍する自信があるから | 111 | 96 | 95 | 106 | 408 |
| 3. 奨学金があっても経済的に困難だから | 337 | 300 | 287 | 177 | 1101 |
| 4. 進学するイメージがわかない | 332 | 348 | 285 | 180 | 1145 |
| 5. 考えたことがない | 192 | 156 | 109 | 115 | 572 |
| 6. その他 | 44 | 36 | 58 | 42 | 180 |
| 無回答 | 563 | 524 | 532 | 489 | 2108 |

## Ⅳ-①-ハ　民間企業への希望業種

**（Ⅳ-①で「民間企業への就職を希望している」と回答した方のみ）**

民間企業への希望業種は、全体で 24.2%の学生が「情報・通信業」と最も多く、次に「機械器具製造業」が 14.4%、「建築・設備業」が 13.3%、「電気機器製造業」が 8.0%の順で、昨年度と順位は同様であった。希望業種で最も高い「情報・通信業」は昨年度と比べ、4 年次に高い比率となり、他の年次と比べても高い結果となった。

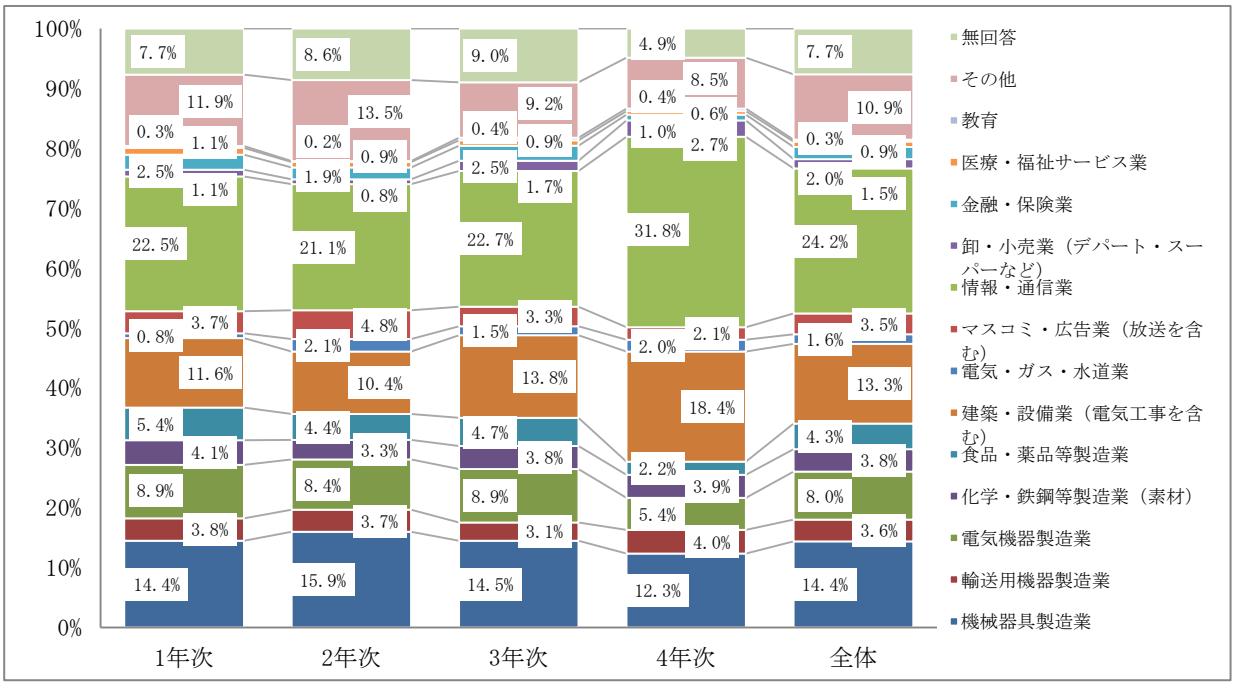


図 4.1.3　民間企業への希望業種

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 機械器具製造業 | 183 | 190 | 169 | 124 | 666 |
| 2. 輸送用機器製造業 | 48 | 44 | 36 | 40 | 168 |
| 3. 電気機器製造業 | 113 | 100 | 104 | 54 | 371 |
| 4. 化学・鉄鋼等製造業（素材） | 52 | 39 | 45 | 39 | 175 |
| 5. 食品・薬品等製造業 | 69 | 52 | 55 | 22 | 198 |
| 6. 建築・設備業（電気工事を含む） | 147 | 124 | 161 | 185 | 617 |
| 7. 電気・ガス・水道業 | 10 | 25 | 18 | 20 | 73 |
| 8. マスコミ・広告業（放送を含む） | 47 | 57 | 38 | 21 | 163 |
| 9. 情報・通信業 | 285 | 251 | 265 | 321 | 1122 |
| 10. 卸・小売業（デパート・スーパーなど） | 14 | 10 | 20 | 27 | 71 |
| 11. 金融・保険業 | 32 | 23 | 29 | 10 | 94 |
| 12. 医療・福祉サービス業 | 14 | 11 | 11 | 6 | 42 |
| 13. 教育 | 4 | 2 | 5 | 4 | 15 |
| 14. その他 | 151 | 161 | 108 | 86 | 506 |
| 無回答 | 98 | 103 | 105 | 49 | 355 |

## Ⅳ-①-ニ　民間企業への希望職種

**（Ⅳ-①で「民間企業への就職を希望している」と回答した方のみ）**

民間企業への希望職種は、全体で 20.3%の学生が「情報システム職」と回答し、最も多かった。次に「研究・開発職」が 15.5%「機械・電気設計職」が 12.3%の順で、昨年度と比べ「研究・開発職」と「機械・電気設計職」の順位が入れ替わった。また、「情報システム職」、「研究・開発職」は昨年度と比べ、若干上昇した。

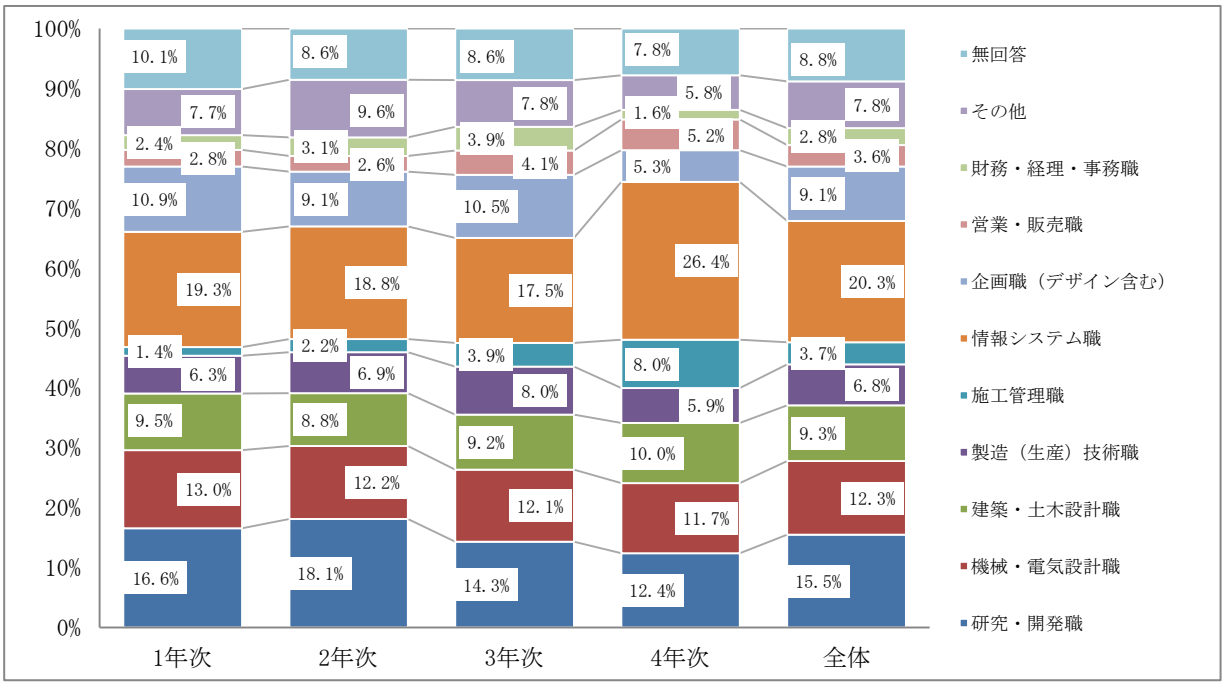


図 4.1.4　民間企業への希望職種

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 研究・開発職 | 210 | 216 | 167 | 125 | 718 |
| 2. 機械・電気設計職 | 165 | 145 | 141 | 118 | 569 |
| 3. 建築・土木設計職 | 120 | 105 | 107 | 101 | 433 |
| 4. 製造（生産）技術職 | 80 | 82 | 94 | 59 | 315 |
| 5. 施工管理職 | 18 | 26 | 46 | 81 | 171 |
| 6. 情報システム職 | 244 | 224 | 205 | 266 | 939 |
| 7. 企画職（デザイン含む） | 138 | 109 | 123 | 53 | 423 |
| 8. 営業・販売職 | 35 | 31 | 48 | 52 | 166 |
| 9. 財務・経理・事務職 | 31 | 37 | 46 | 16 | 130 |
| 10. その他 | 98 | 115 | 91 | 58 | 362 |

## Ⅳ-②　職業選択の重視度　（複数回答可）

職業選択の重要度として、最も多かった回答は「自分が学ぶ（学んだ）専門知識が生かせること」だった。次に「安定性を期待できること」、「技術や知識が身につけられること」の順で、昨年度と同じ順であった。より学科の専門性を活かした活動を支援するためには、就職課だけでなく学科教員と緊密に連携した支援体制が不可欠である。

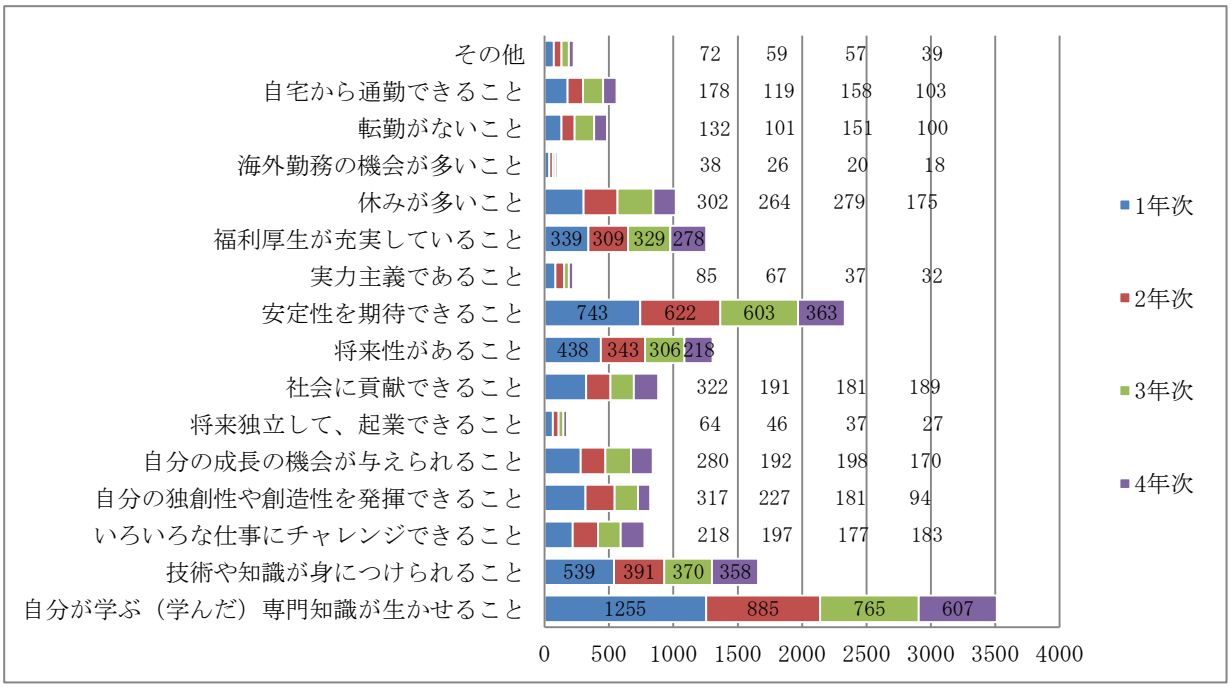


図 4.2　職業選択の重視度

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 自分が学ぶ（学んだ）専門知識が生かせること | 1255 | 885 | 765 | 607 | 3512 |
| 2. 技術や知識が身につけられること | 539 | 391 | 370 | 358 | 1658 |
| 3. いろいろな仕事にチャレンジできること | 218 | 197 | 177 | 183 | 775 |
| 4. 自分の独創性や創造性を発揮できること | 317 | 227 | 181 | 94 | 819 |
| 5. 自分の成長の機会が与えられること | 280 | 192 | 198 | 170 | 840 |
| 6. 将来独立して、起業できること | 64 | 46 | 37 | 27 | 174 |
| 7. 社会に貢献できること | 322 | 191 | 181 | 189 | 883 |
| 8. 将来性があること | 438 | 343 | 306 | 218 | 1305 |
| 9. 安定性を期待できること | 743 | 622 | 603 | 363 | 2331 |
| 10. 実力主義であること | 85 | 67 | 37 | 32 | 221 |
| 11. 福利厚生が充実していること | 339 | 309 | 329 | 278 | 1255 |
| 12. 休みが多いこと | 302 | 264 | 279 | 175 | 1020 |
| 13. 海外勤務の機会が多いこと | 38 | 26 | 20 | 18 | 102 |
| 14. 転勤がないこと | 132 | 101 | 151 | 100 | 484 |
| 15. 自宅から通勤できること | 178 | 119 | 158 | 103 | 558 |
| 16. その他 | 72 | 59 | 57 | 39 | 227 |

## Ⅳ-③　職業観教育（キャリア教育）科目の設置（進路を考えるきっかけとして）

職業観教育（キャリア教育）科目の設置については、47.7%の学生が「重要な科目なので、科目数を増やすなど、もっと充実させてほしい」、「大切な科目なので、各学年で開講してほしい」と回答している。1・2年次は全学生がキャリア教育科目を受講した経験があり、結果から見ても早期のキャリア教育の必要性がうかがえる。

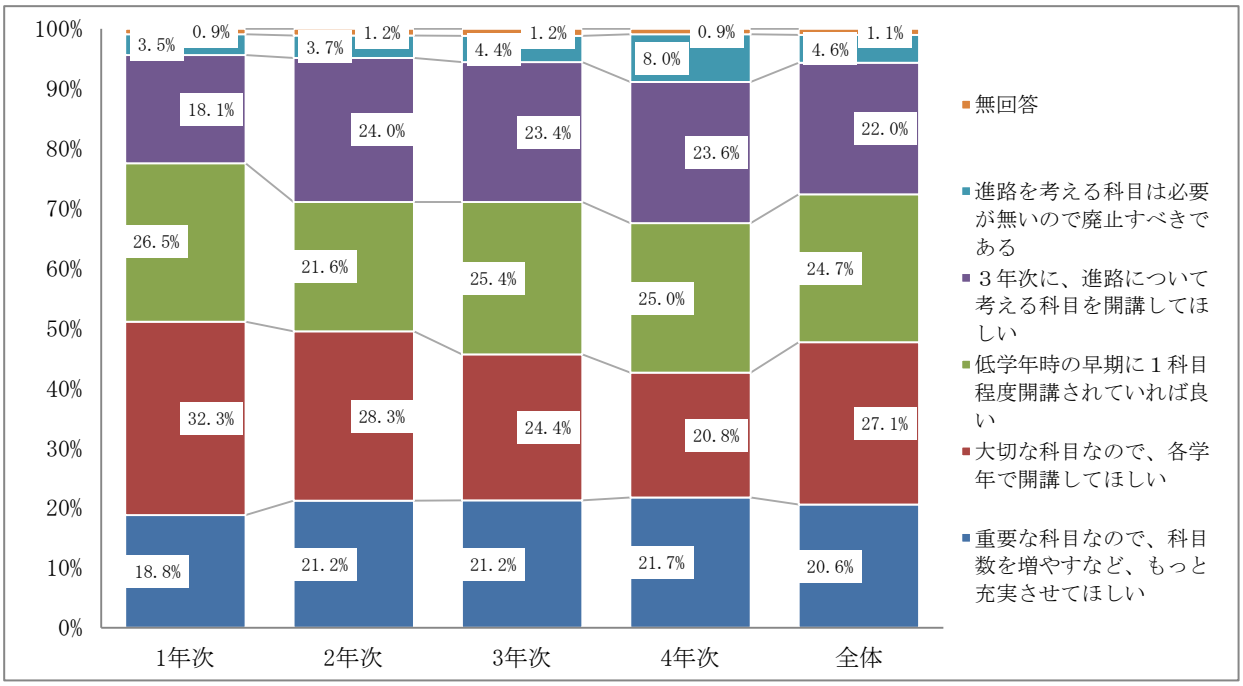


図 4.3 職業観教育（キャリア教育）科目の設置（進路を考えるきっかけとして）

（回答者数）

| | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 重要な科目なので、科目数を増やすなど、もっと充実させてほしい | 411 | 401 | 369 | 308 | 1489 |
| 2. 大切な科目なので、各学年で開講してほしい | 706 | 535 | 424 | 295 | 1960 |
| 3. 低学年時の早期に１科目程度開講されていれば良い | 579 | 409 | 442 | 354 | 1784 |
| 4. ３年次に、進路について考える科目を開講してほしい | 395 | 455 | 406 | 334 | 1590 |
| 5. 進路を考える科目は必要が無いので廃止すべきである | 76 | 70 | 76 | 113 | 335 |
| 無回答 | 20 | 22 | 21 | 13 | 76 |

## Ⅳ-④キャリア支援充実への希望　（複数回答可）

キャリア支援充実への希望は、全体で「進路ガイダンス」が最も高く、次いで「就職に関する資料（情報誌・企業ファイルなど）」、「インターンシップ制度」の順であり、昨年度と比べ「インターンシップ制度」と「業界･職種研究会」の順位が入れ替わり、「インターンシップ制度」の関心の高さがうかがえる結果となった。

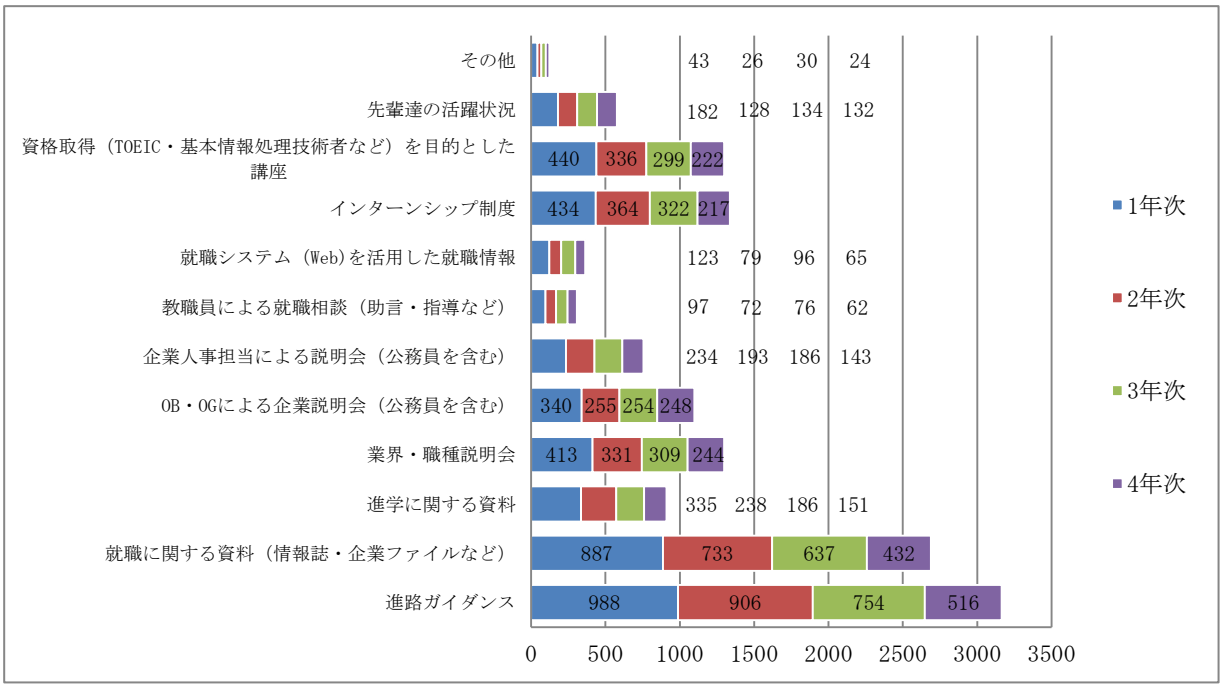


図 4.4 キャリア支援充実への希望

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 進路ガイダンス | 988 | 906 | 754 | 516 | 3164 |
| 2. 就職に関する資料（情報誌・企業ファイルなど） | 887 | 733 | 637 | 432 | 2689 |
| 3. 進学に関する資料 | 335 | 238 | 186 | 151 | 910 |
| 4. 業界・職種説明会 | 413 | 331 | 309 | 244 | 1297 |
| 5. OB・OG による企業説明会（公務員を含む） | 340 | 255 | 254 | 248 | 1097 |
| 6. 企業人事担当による説明会（公務員を含む） | 234 | 193 | 186 | 143 | 756 |
| 7. 教職員による就職相談（助言・指導など） | 97 | 72 | 76 | 62 | 307 |
| 8. 就職システム（Web)を活用した就職情報 | 123 | 79 | 96 | 65 | 363 |
| 9. インターンシップ制度 | 434 | 364 | 322 | 217 | 1337 |
| 10. 資格取得（TOEIC・基本情報処理技術者など）を目的とした講座 | 440 | 336 | 299 | 222 | 1297 |
| 11. 先輩達の活躍状況 | 182 | 128 | 134 | 132 | 576 |
| 12. その他 | 43 | 26 | 30 | 24 | 123 |

## Ⅳ-⑤　自分自身によるキャリアアップの実施状況　（複数回答可）

自分自身によるキャリアアップの実施状況については、「自分が目指す業界で必要となる資格の取得」が最も多い回答であった。昨年に比べ、「英会話等の語学力向上」に回答する学生が増え、グローバル化を意識する学生が多くなった影響であると考える。

初年度教育において、「特になし」を選択した学生の意識付けを行う必要があると思われる。

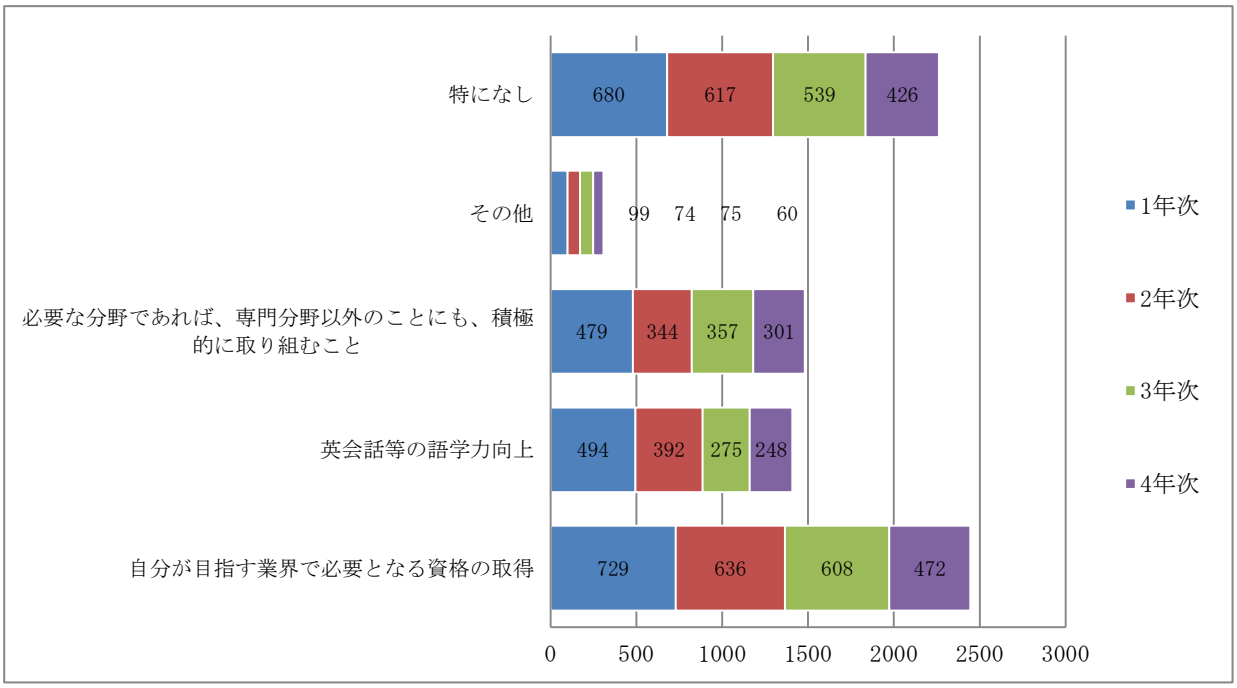


図 4.5　自分自身によるキャリアアップの実施状況

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 自分が目指す業界で必要となる資格の取得 | 729 | 636 | 608 | 472 | 2445 |
| 2. 英会話等の語学力向上 | 494 | 392 | 275 | 248 | 1409 |
| 3. 必要な分野であれば、専門分野以外のことにも、積極的に取り組むこと | 479 | 344 | 357 | 301 | 1481 |
| 4. その他 | 99 | 74 | 75 | 60 | 308 |
| 5. 特になし | 680 | 617 | 539 | 426 | 2262 |

## ＜Ⅴ＞アルバイトについて

**Ⅴ−① アルバイトをしていますか。**

1. はい　　2. いいえ

**設問Ⅴ−①で『1. はい』と回答した方は、次のイ～ハの設問にも回答してください。**

**イ. アルバイトをする最も大きな理由を選んでください。**

1. 学費を払うため
2. 生活費（家賃や食費など）を得るため
3. クラブ・サークル活動費を得るため
4. 欲しいものを購入したり、旅行、レジャー資金を得るため
5. 社会勉強のため
6. 貯金をするため
7. その他

**ロ. アルバイトを一週間のうち何日していますか。**

1. 週 1 日
2. 週 2 日
3. 週 3 日
4. 週 4 日
5. 週 5 日
6. 週 6 日
7. 毎日

**ハ. アルバイトを通じて得られたものは何ですか。**

1. 社会的経験を積むことができた
2. 仕事をとおして大切な友人、知人ができた
3. 会社組織が理解できたので、就職活動に役立つ
4. お金を得ることの大切さを知った
5. お金以外に何も得られなかった
6. 人間関係の難しさを知った
7. その他

## V-①　アルバイトの有無

全体で半数以上の学生がアルバイトに従事している。大学生活や講義に慣れてくる 2 年次になるとアルバイトに従事する割合が増加することがわかる。また、昨年度は 1 年次は 54.1%、2 年次は 70.3%、3 年次は 60.9%、4 年次は 62.1%であったことから、昨年度と比較して、3 年次では概ね 10%、全体では概ね 4%増加している。4 年次に進級して減少している理由としては就職活動のためとも考えられるが、今後は学業への影響を考えながら注意して見守る必要があると思われる。

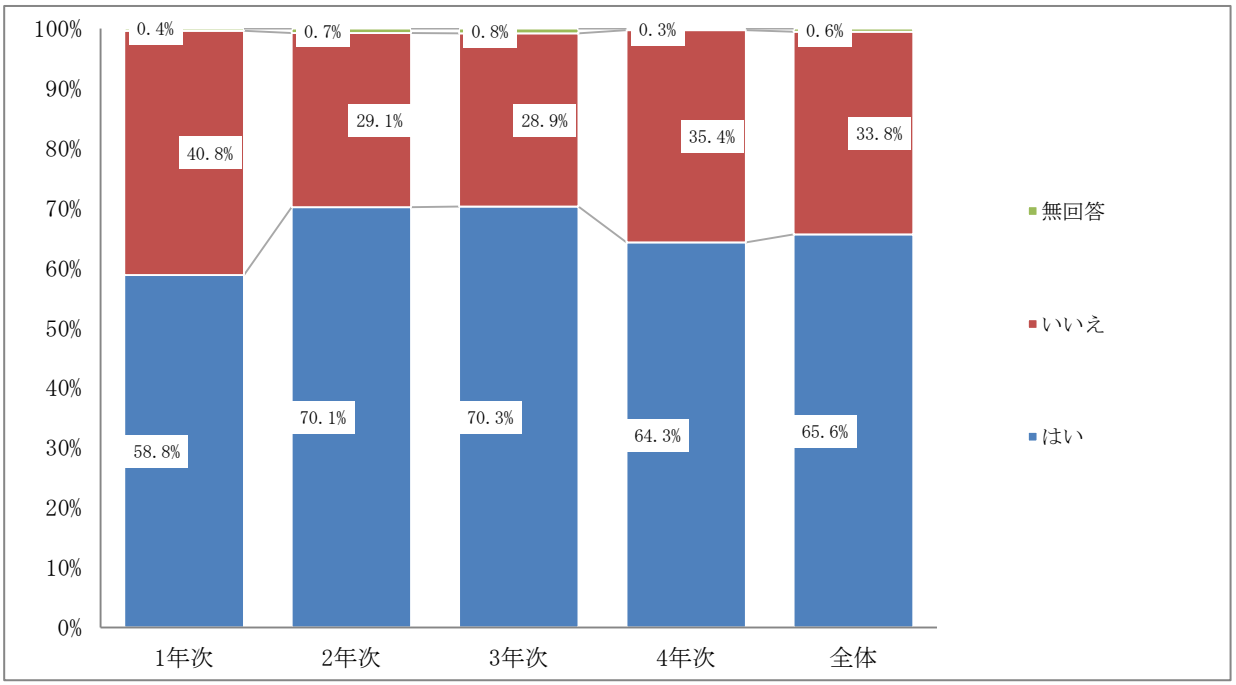


図 5.1　アルバイトの有無

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. はい | 1287 | 1327 | 1221 | 911 | 4746 |
| 2. いいえ | 892 | 551 | 503 | 502 | 2448 |
| 無回答 | 8 | 14 | 14 | 4 | 40 |

## Ⅴ-①-イ　アルバイトをする最も大きな理由

**（Ⅴ - ①で「１. はい」と回答した方のみ）**

学年によって多少の変動はあるが、全体では昨年度と比較して「学費を払うため」と「クラブ・サークル活動費を得るため」の割合が若干減少し、その分「欲しいものを購入したり、旅行、レジャー資金を得るため」と「貯金をするため」が若干増加している。しかし、「学費を払うため」と「生活費を得るため」の割合は高学年になるにつれて増加しており、このことが学業に影響を及ぼさないように注視していく必要がある。

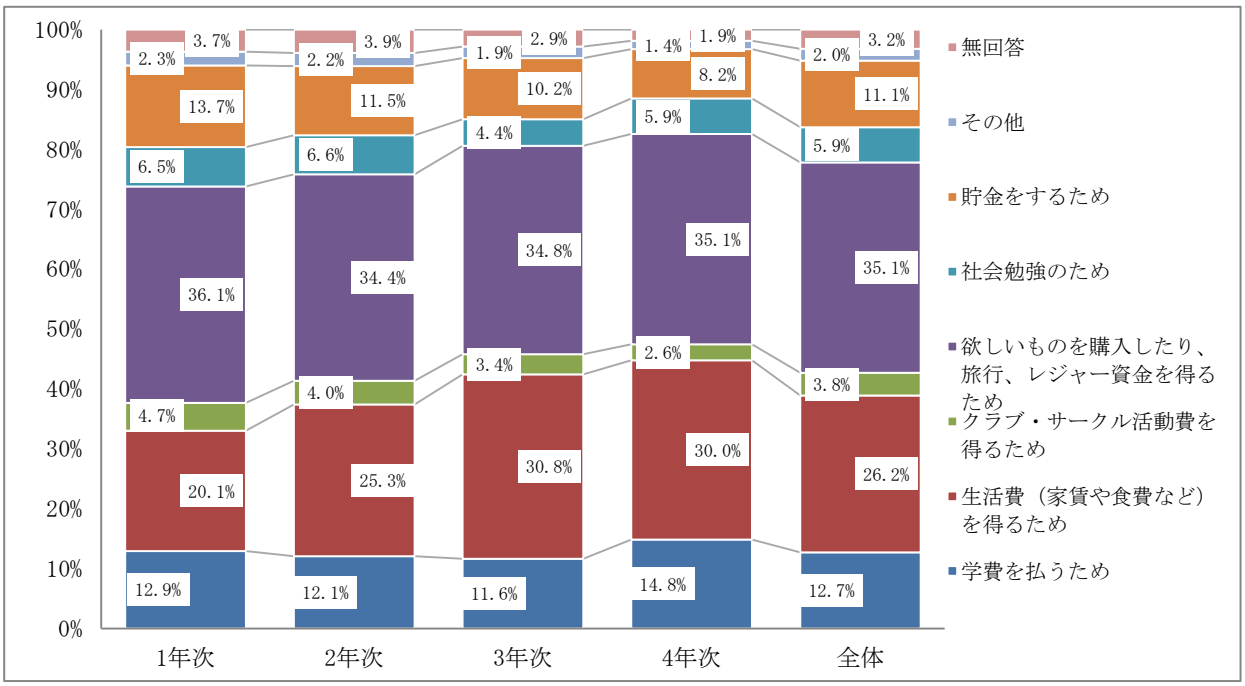


図 5.1.1　アルバイトをする最も大きな理由

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 学費を払うため | 166 | 160 | 142 | 135 | 603 |
| 2. 生活費（家賃や食費など）を得るため | 259 | 336 | 376 | 273 | 1244 |
| 3. クラブ・サークル活動費を得るため | 60 | 53 | 41 | 24 | 178 |
| 4. 欲しいものを購入したり、旅行、レジャー資金を得るため | 465 | 457 | 425 | 320 | 1667 |
| 5. 社会勉強のため | 84 | 87 | 54 | 54 | 279 |
| 6. 貯金をするため | 176 | 153 | 125 | 75 | 529 |
| 7. その他 | 29 | 29 | 23 | 13 | 94 |
| 無回答 | 48 | 52 | 35 | 17 | 152 |

## Ⅴ-①-ロ　アルバイトの１週間における日数

**（Ⅴ-①で「１．はい」と回答した方のみ）**

学年によって多少の変動はあるが、全体では週３日以上と答えた学生の割合が合計 1%増加し、その分「週１日」あるいは「週２日」と答えた学生の割合が合計 1%減少している。Ⅴ-①-イの数値と合わせて考えれば、高学年になるにつれて学生の生活が多少厳しくなっている可能性がある。この制限が学業に影響が無いよう、今後も指導していく必要があると思われる。

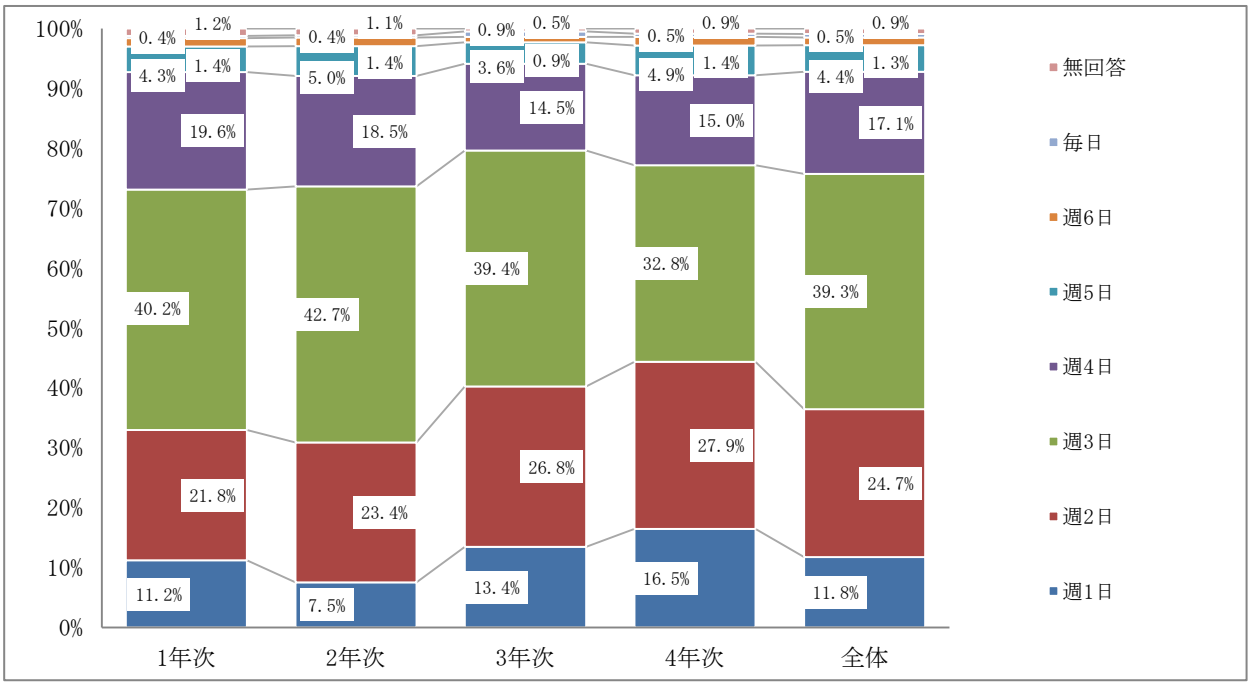


図 5.1.2　アルバイトの１週間における日数

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 週 1 日 | 144 | 100 | 164 | 150 | 558 |
| 2. 週 2 日 | 280 | 310 | 327 | 254 | 1171 |
| 3. 週 3 日 | 517 | 567 | 481 | 299 | 1864 |
| 4. 週 4 日 | 252 | 245 | 177 | 137 | 811 |
| 5. 週 5 日 | 55 | 66 | 44 | 45 | 210 |
| 6. 週 6 日 | 18 | 19 | 11 | 13 | 61 |
| 7. 毎日 | 5 | 5 | 11 | 5 | 26 |
| 無回答 | 16 | 15 | 6 | 8 | 45 |

## V-①-ハ　アルバイトを通じて得られたもの

**（V - ①で「1. はい」と回答した方のみ）**

学年によって多少の変動はあるが、昨年度と比較して全体では「会社組織が理解できたので、就職活動に役立つ」の割合が若干減少し、その分「お金以外に何も得られなかった」の割合が若干増加している。特に、2 年次と 3 年次では概ね 2～3%の変動があり、現在の学生の問題点としてよく挙げられる、人付きあいの希薄さに関係しているとも考えられる。「サークル活動」や「アルバイト」は学業に悪影響が及ばない範囲であれば学生が積極的に参加するのが望ましい活動ではないかと考えられるが、今後も継続して指導していく必要があると思われる。

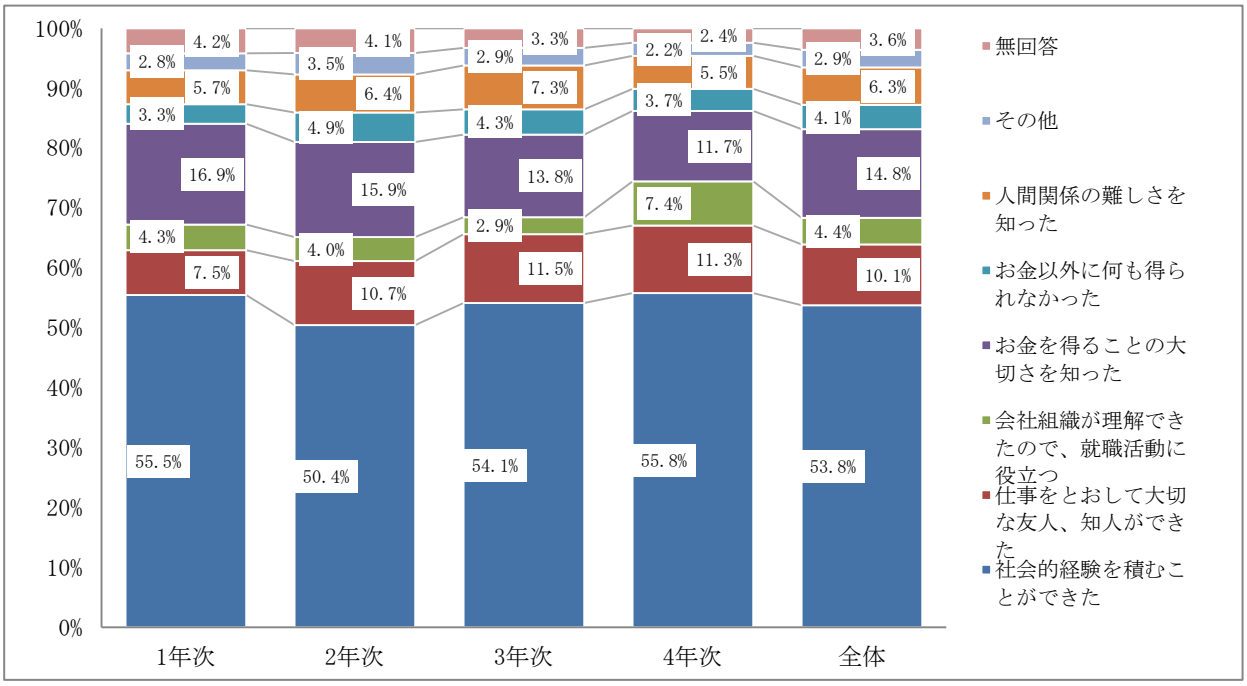


図 5.1.3　アルバイトを通じて得られたもの

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 社会的経験を積むことができた | 714 | 669 | 661 | 508 | 2552 |
| 2. 仕事をとおして大切な友人、知人ができた | 96 | 142 | 140 | 103 | 481 |
| 3. 会社組織が理解できたので、就職活動に役立つ | 55 | 53 | 35 | 67 | 210 |
| 4. お金を得ることの大切さを知った | 217 | 211 | 168 | 107 | 703 |
| 5. お金以外に何も得られなかった | 42 | 65 | 52 | 34 | 193 |
| 6. 人間関係の難しさを知った | 73 | 85 | 89 | 50 | 297 |
| 7. その他 | 36 | 47 | 36 | 20 | 139 |
| 無回答 | 54 | 55 | 40 | 22 | 171 |

## ＜Ⅵ＞図書館について

**Ⅵ-① 図書館の利用頻度はどのくらいですか。**

1. ほぼ毎日
2. 1ヶ月に数回程度
3. 1学期に数回程度
4. ほとんど利用しない

**Ⅵ-② 図書館を利用する目的は、何ですか（複数回答可）。**

複数回答

1. 一般図書（教養・娯楽図書等）の利用
2. 専門図書（学習図書・辞典・便覧等）の利用
3. 新聞・雑誌の閲覧
4. 視聴覚資料（CD, DVD, Blu-ray 等）の利用
5. 電子ジャーナルの利用
6. オンライン検索（オンライン DB 等）
7. 文献複写の利用
8. 貸出用パソコンの利用
9. 自学自習のため
10. グループ学習のため
11. 休憩のため
12. その他（具体的に：回答用紙の下段に記入ください）

**Ⅵ-③ 図書館資料のうち、どんな種類の資料の充実を希望しますか（複数回答可）。**

複数回答

1. 一般図書（教養・娯楽図書等）
2. 専門図書（学習図書・辞典・便覧等）
3. 新聞・雑誌
4. 視聴覚資料（CD, DVD, Blu-ray 等）
5. 電子書籍 ・電子ジャーナル
6. オンラインデータベース
7. その他（具体的に：回答用紙の下段に記入ください）
8. 特に希望は無い

**Ⅵ-④ 図書の貸出日数及び冊数についてどう思いますか （複数回答可）。【1～3年：30冊・2週間、4年生：30冊・1ヶ月】**

複数回答

1. 利用して特に不満は無い
2. 貸出日数を長くして欲しい
3. 貸出冊数を増やして欲しい
4. 関心が無い

**Ⅵ-⑤ シラバスに掲載されている参考書を配架していますが、どの程度利用していますか。**

1. よく利用している
2. 時々利用している
3. ほとんど利用しない
4. 知らなかった

**Ⅵ-⑥ 次の図書館サービスを利用したことがありますか。また感想は如何ですか。**

**A. レファレンスサービス（所在調査、情報検索、利用方法など）**

1. 利用して特に不満は無い
2. 利用して不満である
3. 知っているが利用したことがない
4. 知らなかった

**B. 習志野 3 大学（日大生産工学部・東邦大学・千葉工大）及び神田外語大学の図書館の利用**

1. 利用して特に不満は無い
2. 利用して不満である
3. 知っているが利用したことがない
4. 知らなかった

**C. 希望図書の購入申し込み制度**

1. 制度を知っていて、申し込んだことがある
2. 制度は知っているが、申し込んだことはない
3. 制度を知らなかったが、今後申し込みたい
4. 制度を知らず関心がない

**Ⅵ-⑦ 次の電子媒体を利用したことがありますか。また感想は如何ですか。**

**A. 電子ジャーナル（Science Direct, Springer Link 等）**

1. 利用して特に不満は無い
2. 利用して不満である
3. 知っているが利用したことがない
4. 知らなかった

**B. オンラインデータベース（CiNii, JDreamⅢ等）**

1. 利用して特に不満は無い
2. 利用して不満である
3. 知っているが利用したことがない
4. 知らなかった

**C. 電子ブック（EBSCO eBook Collection, ProQuest Ebook Central, 丸善 eBookLibrary）**

1. 利用して特に不満は無い
2. 利用して不満である
3. 知っているが利用したことがない
4. 知らなかった

**Ⅵ-⑧ 最近1年間に書籍(雑誌は除く)など，何冊読みましたか。**

1. 0 冊
2. 1～5 冊
3. 6～10 冊
4. 11～20 冊
5. 21 冊以上

**Ⅵ-⑨ 図書館のどのような点がどのように改善されれば、より利用したいと思いますか。**

（具体的に：回答用紙の下段に記入ください）

## VI-①　図書館の利用頻度

全体の 60%以上が図書館を利用している。しかし、今年度は 1 年次の学生の利用頻度が低下している。1 年生で「ほぼ毎日」と回答した学生は 7.2%に留まり、「1 か月に数回程度」と回答した学生も 34.0%、合計でも 41.2%である。一昨年度は「ほぼ毎日」と回答した学生が 23.1%いたことから、利用頻度が低下した状態が定着してしまっていることがわかる。食堂など、学生が利用できる施設が増加したことも影響していると思われるが、初年次ガイダンスでの更なる周知方法を考える必要がある。

一方、高学年の利用頻度は昨年同様低下しており、特に 4 年次では利用頻度が高い学生も 28.0%（＝5.6%＋22.4%）であり、利用頻度の高い 2、3 年次と比べると 2/3 以下になっている一方、「ほとんど利用しない」と回答した学生が 50%近い。4 年次（一部では 3 年次）になると、卒業研究等のため、研究室への配属となり、必要な図書が研究室に用意されていること、電子ジャーナルなどの利用が増えることの影響もあると考えられる。しかしながら、蔵書の量と質において図書館は重要であり、教養を高めるため、あるいはより広い範囲の専門知識を得るために利用してもらえるようアピールしていく必要がある。

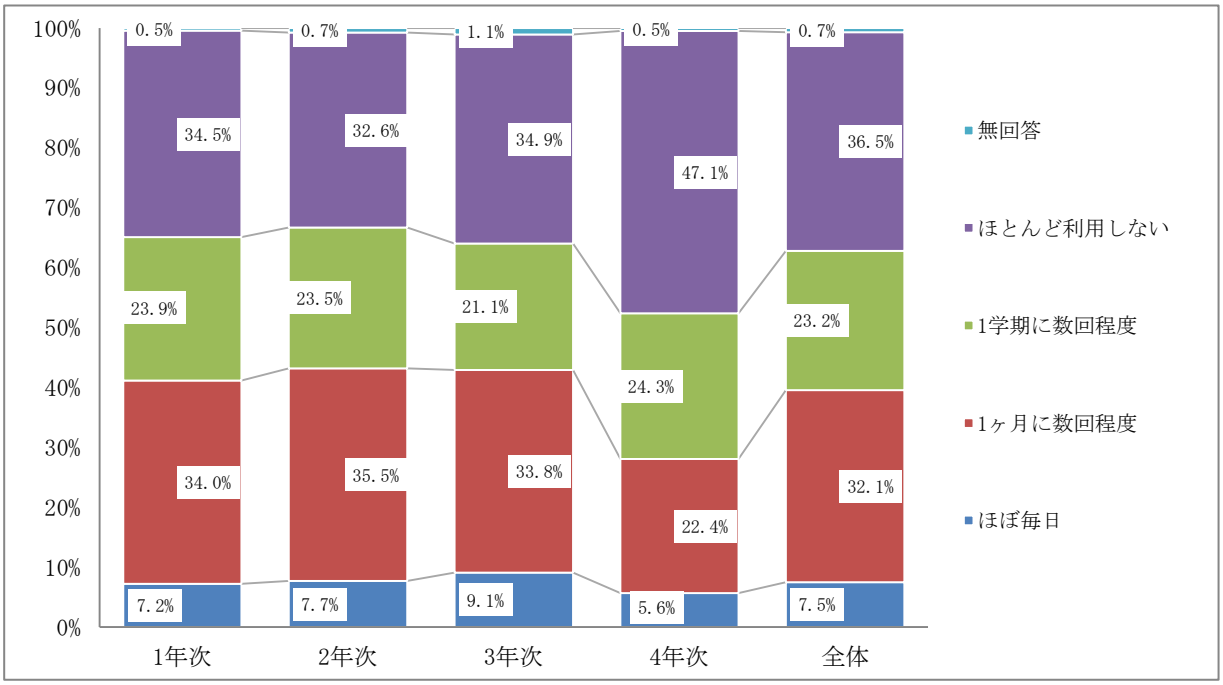


図 6.1　図書館の利用頻度

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. ほぼ毎日 | 157 | 145 | 158 | 80 | 540 |
| 2. 1 ヶ月に数回程度 | 743 | 672 | 588 | 317 | 2320 |
| 3. 1 学期に数回程度 | 523 | 445 | 367 | 345 | 1680 |
| 4. ほとんど利用しない | 754 | 616 | 606 | 668 | 2644 |
| 無回答 | 10 | 14 | 19 | 7 | 50 |

## VI-②　図書館の利用目的　（複数回答可）

全体の傾向は昨年とほぼ同様であると言える。図書館の利用目的としては「自学自習のため」が最も多く、3,102 名いる。昨年度は 3,348 名であり、学習意欲の高い学生の割合が定着している。「専門図書（学習図書・辞典・便覧等）の利用」と「一般図書（教養・娯楽図書等）の利用」も多く、蔵書を利活用している学生が多いこともわかる。また、「休憩のため」という学生も 1,226 名と多く、図書館が学内における居場所の一つとして機能しているのがわかる。今年度から新たに「グループ学習のため」という項目を追加したが、合計で 359 名であり、これは今後とも周知が必要であろう。一方、「オンライン検索（オンライン DB 等）」や「電子ジャーナルの利用」、「文献複写の利用」の利用者は、それぞれ 66 名、34 名、211 名と昨年同様少ないが、これらのサービスは図書館に来館しなくてもオンラインで享受できるためであり、今後も充実させていく必要があると考えられる。

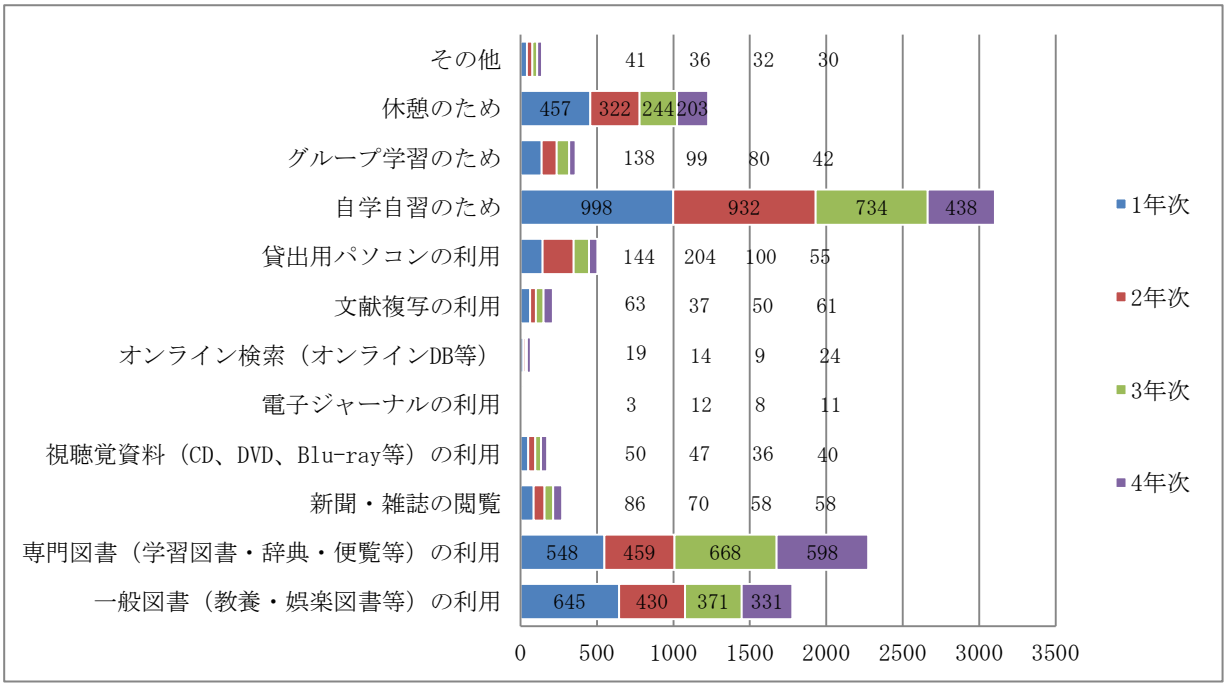


図 6.2　図書館の利用目的

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 一般図書（教養・娯楽図書等）の利用 | 645 | 430 | 371 | 331 | 1777 |
| 2. 専門図書（学習図書・辞典・便覧等）の利用 | 548 | 459 | 668 | 598 | 2273 |
| 3. 新聞・雑誌の閲覧 | 86 | 70 | 58 | 58 | 272 |
| 4. 視聴覚資料（CD、DVD、Blu-ray 等）の利用 | 50 | 47 | 36 | 40 | 173 |
| 5. 電子ジャーナルの利用 | 3 | 12 | 8 | 11 | 34 |
| 6. オンライン検索（オンライン DB 等） | 19 | 14 | 9 | 24 | 66 |
| 7. 文献複写の利用 | 63 | 37 | 50 | 61 | 211 |
| 8. 貸出用パソコンの利用 | 144 | 204 | 100 | 55 | 503 |
| 9. 自学自習のため | 998 | 932 | 734 | 438 | 3102 |
| 10. グループ学習のため | 138 | 99 | 80 | 42 | 359 |
| 11. 休憩のため | 457 | 322 | 244 | 203 | 1226 |
| 12. その他 | 41 | 36 | 32 | 30 | 139 |

## VI-③　充実を希望する資料　（複数回答可）

希望のあった文献資料は合計 6,197 件である。その内訳は、希望の多い順に、「専門図書」2,709 件、「一般図書」2,252 件、「新聞・雑誌」477 件、「視聴覚資料」328 件、「オンラインデータベース」255 件、「電子書籍・電子ジャーナル」133 件、「その他」43 件である。全合計で昨年度比 136 件の増加、図書全体（一般・専門）で 260 件増加、新聞・雑誌で 31 件増加、視聴覚資料で 79 件減少、オンラインデータベースで 8 件増加、電子書籍・電子ジャーナルで 77 件減少であった。活字・紙媒体資料の希望が増加したものの、電子書籍・電子ジャーナルの希望が大きく減少した。

今後の蔵書構成については、希望件数の多い専門・一般図書の充実を中心にし、電子情報資料については電子書籍・電子ジャーナルの充実を図るなど、学生のニーズに応える計画的な購入を行う必要があると考えられる。

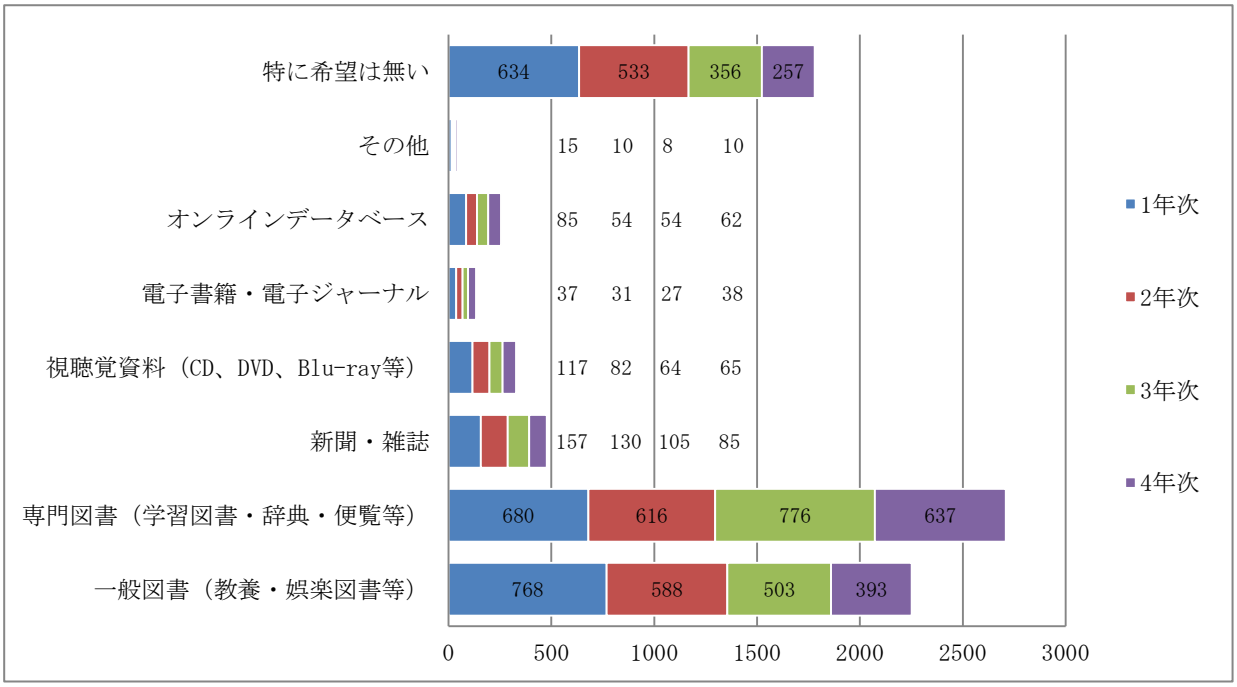


図 6.3　充実を希望する資料

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 一般図書（教養・娯楽図書等） | 768 | 588 | 503 | 393 | 2252 |
| 2. 専門図書（学習図書・辞典・便覧等） | 680 | 616 | 776 | 637 | 2709 |
| 3. 新聞・雑誌 | 157 | 130 | 105 | 85 | 477 |
| 4. 視聴覚資料（CD、DVD、Blu-ray 等） | 117 | 82 | 64 | 65 | 328 |
| 5. 電子書籍・電子ジャーナル | 37 | 31 | 27 | 38 | 133 |
| 6. オンラインデータベース | 85 | 54 | 54 | 62 | 255 |
| 7. その他 | 15 | 10 | 8 | 10 | 43 |
| 8. 特に希望は無い | 634 | 533 | 356 | 257 | 1780 |

## VI-④　図書の貸出日数及び冊数　（複数回答可）

最も多い回答は「利用して特に不満は無い」であるが、次に多いのが「関心がない」である。貸出冊数を 2015 年に増やしたことから、冊数を増やして欲しいという要望は減少している。一方で、貸出日数を長くする要望は依然根強いことも分かる。図書館をより多くの学生に、身近な存在として利用してもらうことを引き続き目指すとともに、図書の貸出日数を長くすることも視野に入れた今後の改善が必要である。

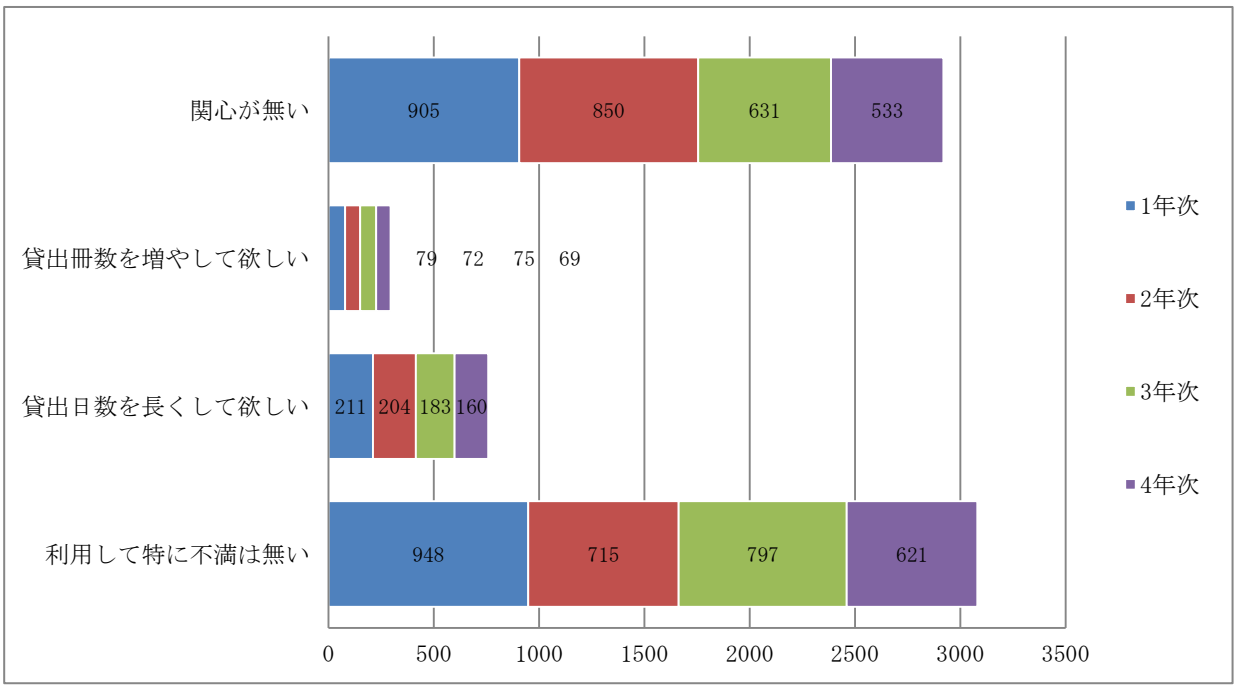


図 6.4　図書の貸出日数及び冊数

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 利用して特に不満は無い | 948 | 715 | 797 | 621 | 3081 |
| 2. 貸出日数を長くして欲しい | 211 | 204 | 183 | 160 | 758 |
| 3. 貸出冊数を増やして欲しい | 79 | 72 | 75 | 69 | 295 |
| 4. 関心が無い | 905 | 850 | 631 | 533 | 2919 |

## VI-⑤　シラバスに掲載されている参考書の利用頻度

図書館ではシラバスに掲載されている参考書を蔵書として購入している。そのような図書の利用頻度は、全体で約 35%の学生が「よく利用している」あるいは「時々利用している」と回答している。昨年度の約 36%から若干減少している。

しかしながら、「ほとんど利用しない」と「知らなかった」が合わせて約 65%であることから、シラバスに掲載されている参考書が蔵書としてあることの周知や利用方法の説明などに改善の余地があると思われる。たとえば、参考書が図書館に蔵書されているということをシラバスに明記することなどが考えられる。

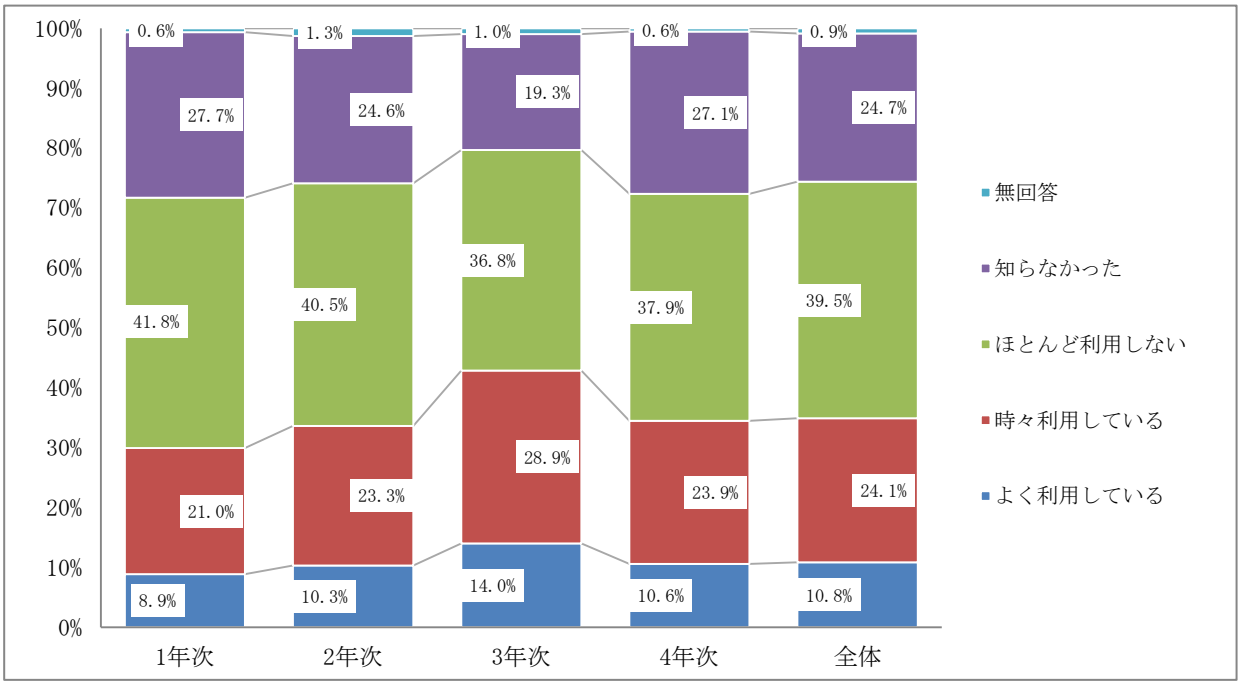


図 6.5　シラバスに掲載されている参考書の利用頻度

(回答者数)

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. よく利用している | 194 | 195 | 243 | 150 | 782 |
| 2. 時々利用している | 460 | 441 | 502 | 338 | 1741 |
| 3. ほとんど利用しない | 914 | 766 | 640 | 537 | 2857 |
| 4. 知らなかった | 605 | 465 | 336 | 384 | 1790 |
| 無回答 | 14 | 25 | 17 | 8 | 64 |

## VI-⑥-A　レファレンスサービスの利用経験

図書館に来館しながら必要な資料を探し出せない学生もいるため、情報を求める学生に対する適切な支援が必要となる。本学図書館では、図書館員が利用者に蔵書資料の探し方と図書館の活用方法を助言するサービス（リファレンスサービス）を提供している。リファレンスサービスの利用経験について、学年毎の調査結果の推移をみると、学年が上がるに従って「知っているが利用したことがない」割合が概ね減少しており、このサービスを利用して図書館員に図書館の利用方法について助言を得ることができた学生が増えている。合わせて、学年が上がるにつれてリファレンスサービスを利用した学生の割合は増加傾向であり、このサービスが有効活用されていると考えられる。しかし 40%強の学生はこのサービスを「知らなかった」と回答しており、図書館員の役割を十分に理解していない学生も多い。図書館利用ガイダンスなどの機会には「図書館員は探している文献資料・情報を調べる手伝いができる」ということをより一層周知する必要がある。

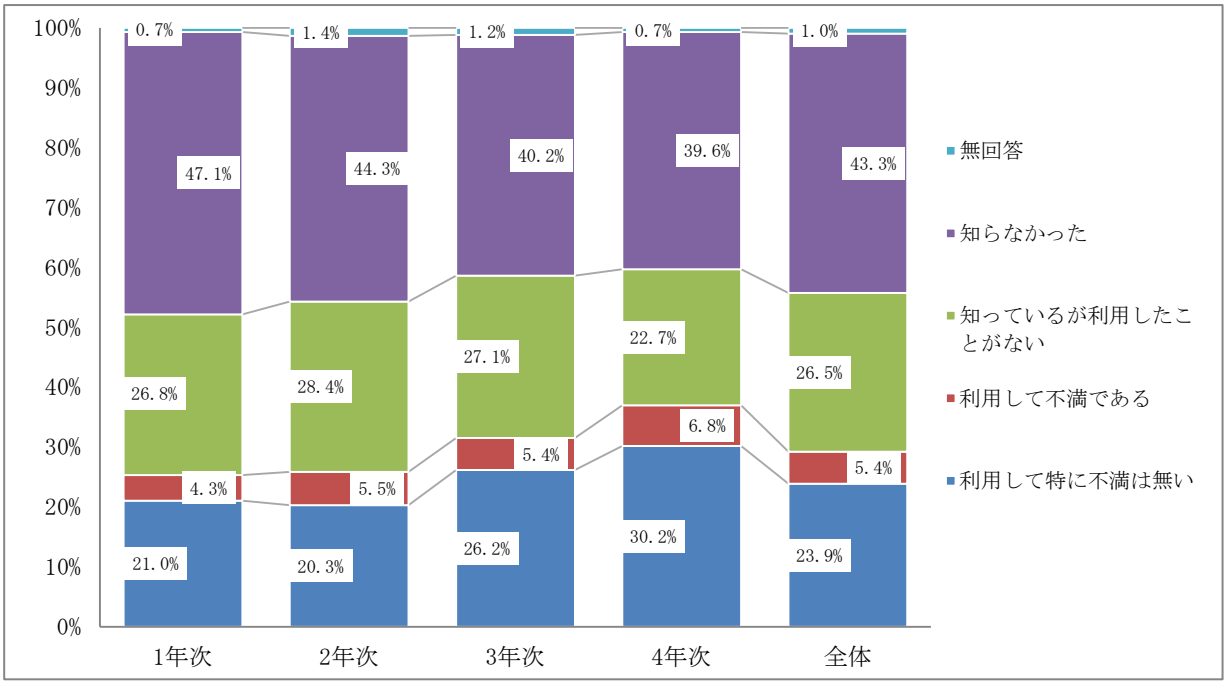


図 6.6.1　レファレンスサービスの利用経験

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 利用して特に不満は無い | 460 | 384 | 455 | 428 | 1727 |
| 2. 利用して不満である | 94 | 105 | 93 | 96 | 388 |
| 3. 知っているが利用したことがない | 587 | 538 | 471 | 322 | 1918 |
| 4. 知らなかった | 1031 | 839 | 698 | 561 | 3129 |
| 無回答 | 15 | 26 | 21 | 10 | 72 |

## Ⅵ-⑥-Ｂ　日本大学生産工学部・東邦大学及び神田外語大学の図書館の利用

習志野三大学図書館連絡会の協定により、本学の学生は日本大学生産工学部と東邦大学の図書館を利用でき、また、包括連携協定を締結したことに伴い、神田外語大学の図書館も利用できる。この制度を知らない学生の割合は 37%で、昨年からほとんど変化していない。この制度の利用経験のある学生は全体の 16%で、「知っているが利用したことがない」学生が 46%となっている。制度の利用理由を解明することが、本学図書館の改善に役立つかもしれない。利用して不満を感じた学生が全体の約 5%いることについては改善方法を検討する必要がある。

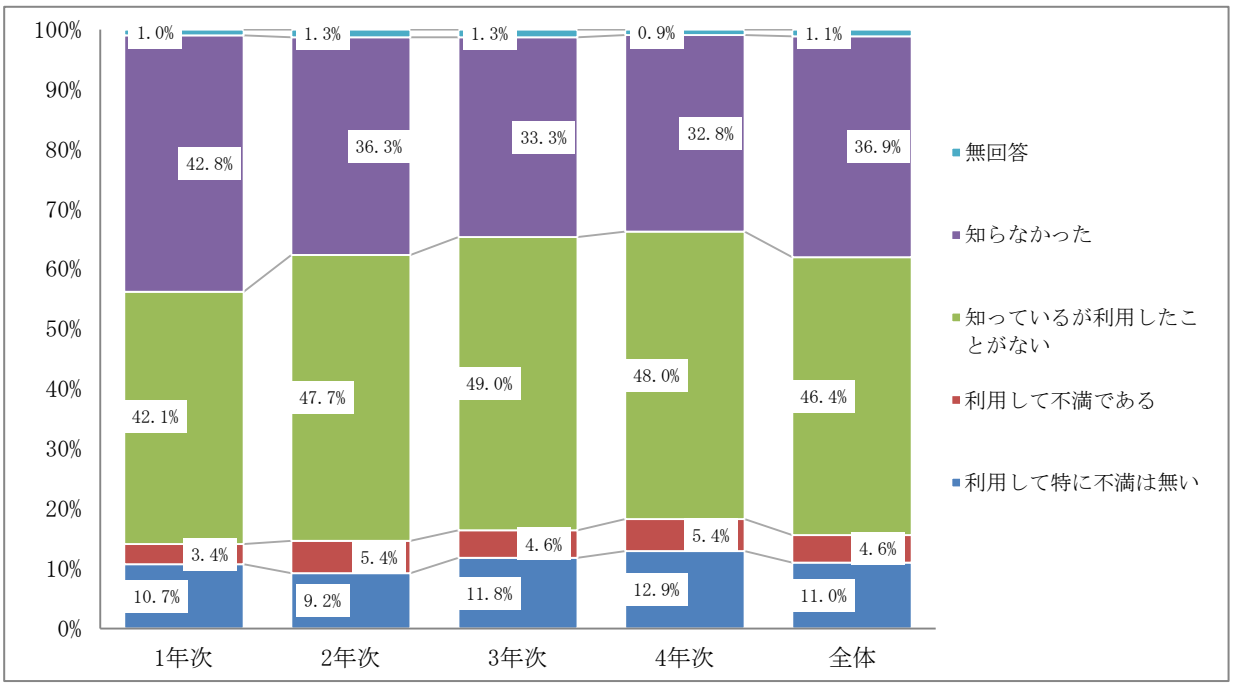


図 6.6.2　日本大学生産工学部・東邦大学及び神田外語大学の図書館の利用

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 利用して特に不満は無い | 234 | 175 | 205 | 183 | 797 |
| 2. 利用して不満である | 74 | 102 | 80 | 76 | 332 |
| 3. 知っているが利用したことがない | 921 | 903 | 851 | 680 | 3355 |
| 4. 知らなかった | 937 | 687 | 579 | 465 | 2668 |
| 無回答 | 21 | 25 | 23 | 13 | 82 |

## VI-⑥-C　希望図書の購入申し込み制度

図書館に置いてもらいたい図書の購入を希望（申請）する制度を知っている学生が全体の約 42%となっており、昨年度の約 44%からやや減少傾向にある。また「申し込んだことがある」学生の割合も昨年度の約 9%から約 7%へと減少している。その一方でまだ半分以上の学生には本制度が認知されていなかった。「今後申し込みたい」と回答した学生等の潜在的利用者を含めて一定の利用者がいることから、今後も制度を存続すべきであると考えられ、その利便性や有用性の改善の検討を今後も進めていく必要がある。認知度はまだ不十分であり、本制度に関する周知を強化していくことも求められる。

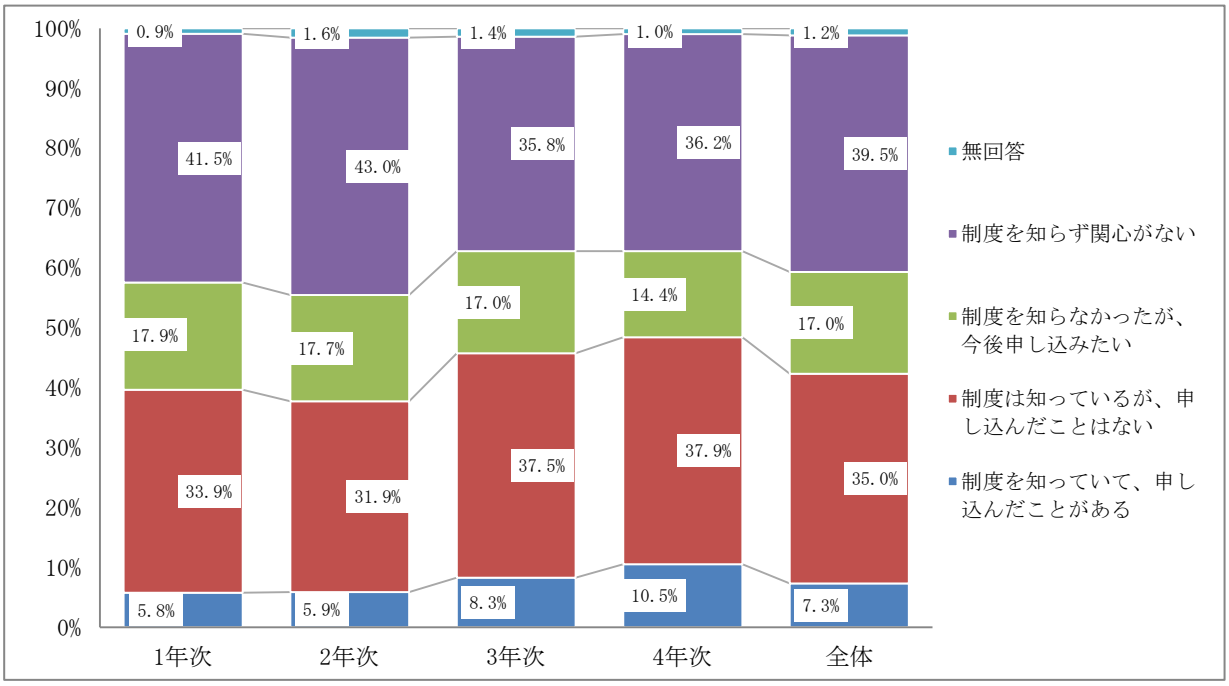


図 6.6.3　希望図書の購入申し込み制度

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 制度を知っていて、申し込んだことがある | 126 | 111 | 144 | 149 | 530 |
| 2. 制度は知っているが、申し込んだことはない | 741 | 603 | 651 | 537 | 2532 |
| 3. 制度を知らなかったが、今後申し込みたい | 392 | 335 | 296 | 204 | 1227 |
| 4. 制度を知らず関心がない | 908 | 813 | 623 | 513 | 2857 |
| 無回答 | 20 | 30 | 24 | 14 | 88 |

## VI-⑦-A　電子ジャーナルの利用経験

電子ジャーナルのことを「知らなかった」学生は約半数おり、昨年とほぼ同数である。「知っているが利用したことがない」層は、昨年から変化していない。約半数いる「知っている」層の中でも利用した経験があるのは約３人に１人である。これらの割合は研究室に配属され、卒業論文等で論文検索が必要とされる４年生ではやや増加するものの、まだ全体の 1/4 であり、十分とは言えない状況である。電子ジャーナルの内容および利用方法について、新入生ガイダンス等で早い時期から積極的に周知を図ると共に、４年次に再度周知する必要があると考えられる。

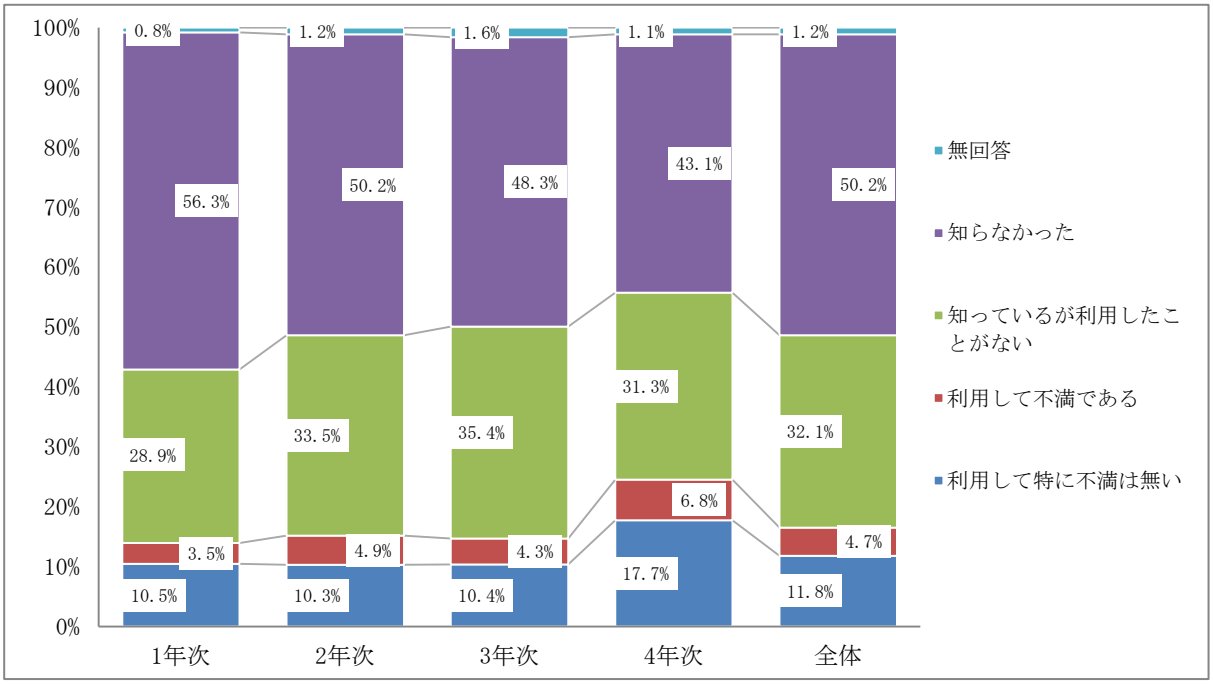


図 6.7.1　電子ジャーナルの利用経験

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 利用して特に不満は無い | 229 | 195 | 180 | 251 | 855 |
| 2. 利用して不満である | 76 | 92 | 75 | 96 | 339 |
| 3. 知っているが利用したことがない | 633 | 633 | 615 | 443 | 2324 |
| 4. 知らなかった | 1231 | 950 | 840 | 611 | 3632 |
| 無回答 | 18 | 22 | 28 | 16 | 84 |

## VI-⑦-B　オンラインデータベースの利用経験

オンラインデータベースのことを「知っているが利用したことがない」学生の割合が昨年の 30.0%から 30.6%とわずかながら増加しており、利用経験のある学生の割合(22.6%・昨年 23.0%)がやや減少している。また、「利用して特に不満は無い」学生は 16.9%となり、昨年の 17.6%から若干減少している。4 年次の利用者が多く，不満を持っている人も多いことがわかる。

一方、オンラインデータベースのことを「知らなかった」学生は 45.8%であり、昨年の 45.0%から減少していない。初年次ガイダンス後、利用する機会がないことが原因であると思われる。今後、図書館で提供しているオンラインデータベースについての利用指導および PR 等をより積極的に行うと共に、その内容の検討も必要であると考えられる。

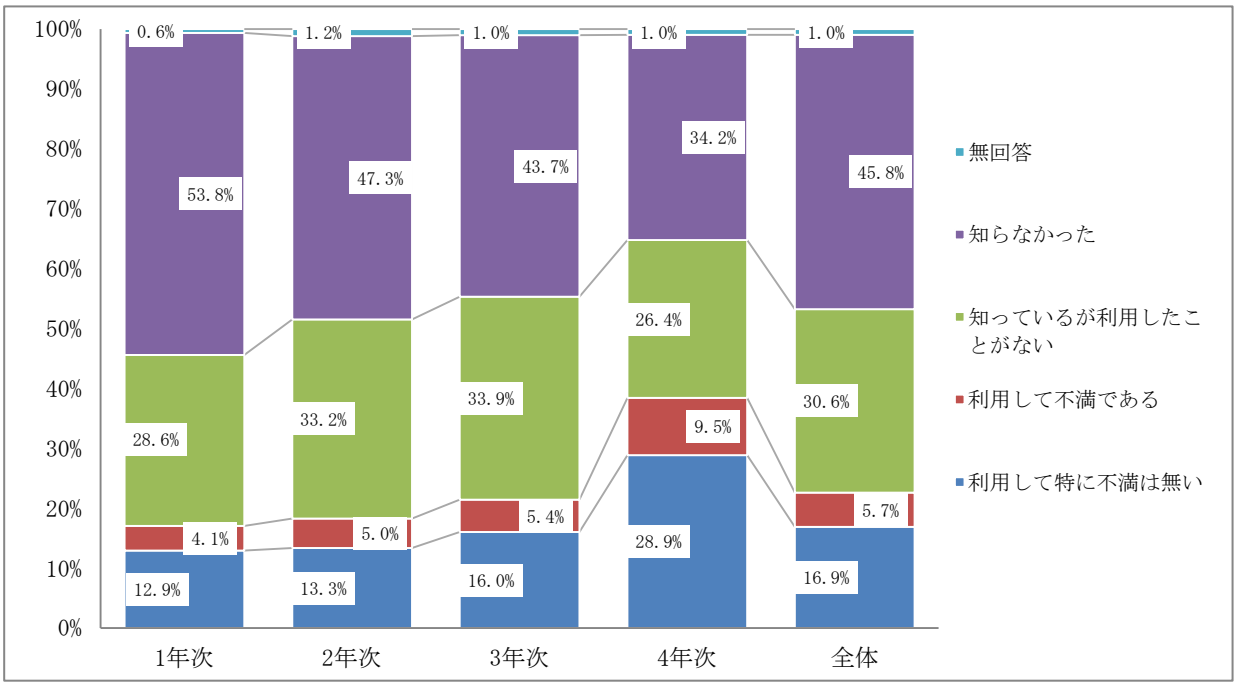


図 6.7.2　オンラインデータベースの利用経験

(回答者数)

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 利用して特に不満は無い | 282 | 252 | 278 | 409 | 1221 |
| 2. 利用して不満である | 90 | 94 | 94 | 135 | 413 |
| 3. 知っているが利用したことがない | 625 | 629 | 589 | 374 | 2217 |
| 4. 知らなかった | 1176 | 894 | 759 | 485 | 3314 |
| 無回答 | 14 | 23 | 18 | 14 | 69 |

## VI-⑦-C　電子ブックの利用経験

これは本年度からの新しい設問である。図書館が提供している電子ブック（EBSCO eBook Collection，ProQuest Ebook Central，丸善 eBookLibrary）サービスについてであるが、「知らなかった」という学生が 51%と過半数に達している。また、「知っているが利用したことがない」(33%)を加えると、８割強になる。また、利用した人の 1/3 弱が不満を持っている。

今後は、図書館ガイダンスなどを通して、本サービスの周知を積極的に行う必要があると共に、不満を減少させるための方策を検討する必要がある。

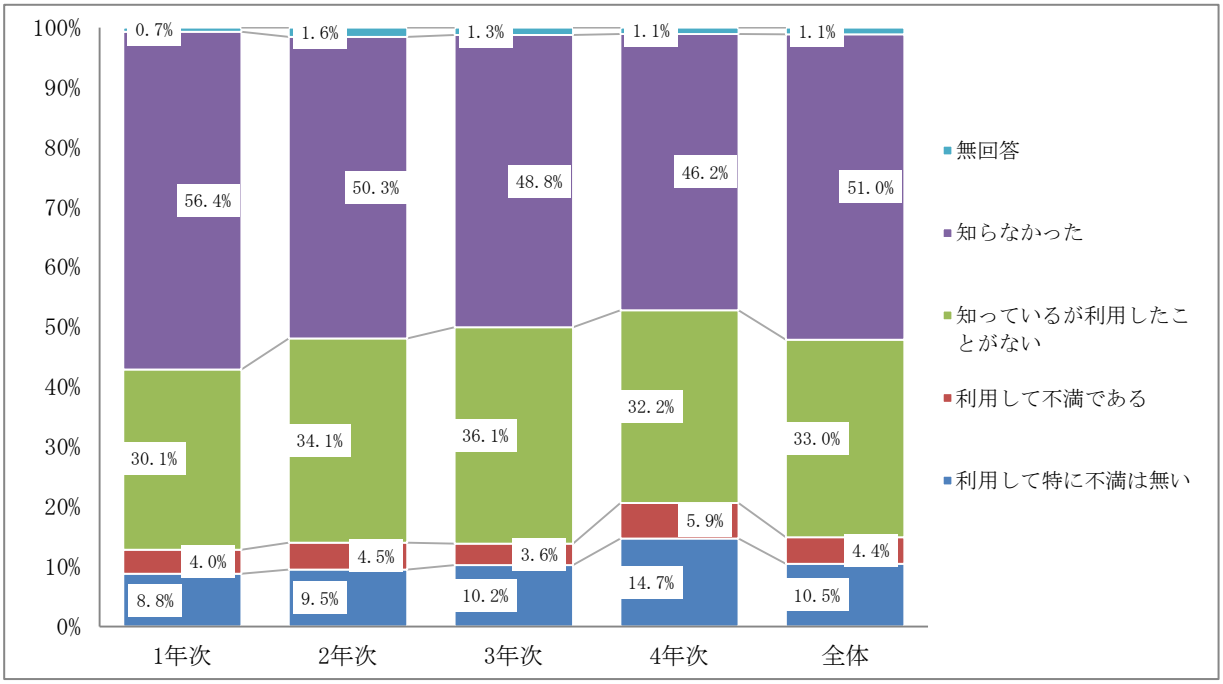


図 6.7.3　電子ブックの利用経験

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 利用して特に不満は無い | 192 | 180 | 178 | 208 | 758 |
| 2. 利用して不満である | 88 | 85 | 62 | 84 | 319 |
| 3. 知っているが利用したことがない | 658 | 645 | 628 | 456 | 2387 |
| 4. 知らなかった | 1234 | 952 | 848 | 654 | 3688 |
| 無回答 | 15 | 30 | 22 | 15 | 82 |

## VI-⑧　1 年間に読んだ書籍の冊数

「1 年間に読んだ書籍の冊数」について、最も多い回答は学年によらず「1～5 冊」となった。しかし、「0 冊」という学生が昨年度よりは減少したものの、それでも 1/5 以上いるという驚くべき結果である。一方で、「11 冊以上」という学生も 17.6%おり、本を読む学生とそうでない学生の二極化（読まない方が多い）が読み取れる。

今後は、図書館を学生の居場所として積極的に活用してもらうことを目指すと共に、本を読むことの重要性、専門知識と情報収集の必要性について、学生に周知徹底していく必要がある。

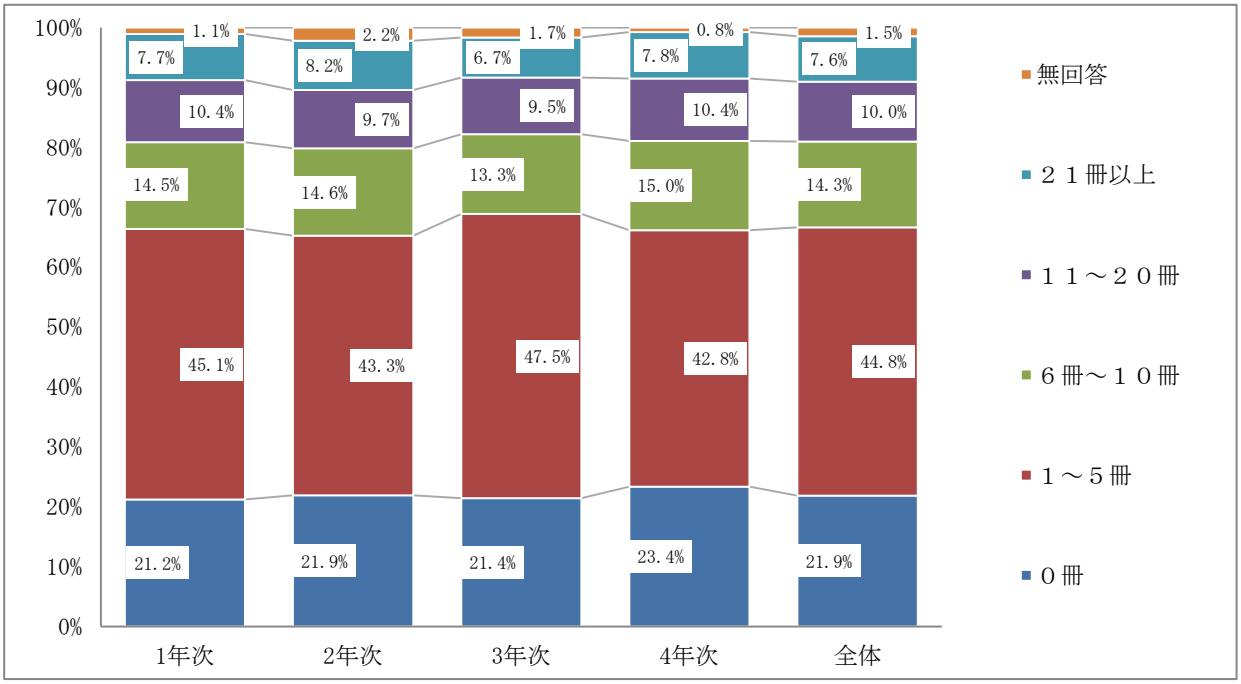


図 6.8　1 年間に読んだ書籍の冊数

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1.　０冊 | 464 | 414 | 372 | 331 | 1581 |
| 2.　１～５冊 | 987 | 820 | 825 | 606 | 3238 |
| 3.　６冊～１０冊 | 317 | 276 | 231 | 212 | 1036 |
| 4.　１１～２０冊 | 227 | 184 | 165 | 147 | 723 |
| 5.　２１冊以上 | 168 | 156 | 116 | 110 | 550 |
| 無回答 | 24 | 42 | 29 | 11 | 106 |

## ＜Ⅶ＞学生食堂・購買部について

**Ⅶ-① 学生食堂をどの程度利用していますか。**

1. ほぼ毎日
2. 1 週間に 2～3 回程度
3. 1 週間に 1 回程度
4. 1ヶ月に数回程度
5. ほとんど利用しない

**Ⅶ-② 学生食堂の満足度は、どれに該当しますか。**

1. とても満足している
2. やや満足している
3. 普通
4. やや不満である
5. 大いに不満である

**Ⅶ-③ Ⅶ-②における回答の理由は何ですか。**

（具体的に：回答用紙の下段に記入ください）

**Ⅶ-④ 購買部をどの程度利用していますか。**

1. ほぼ毎日
2. 1 週間に 2～3 回程度
3. 1 週間に 1 回程度
4. 1ヶ月に数回程度
5. ほとんど利用しない

**Ⅶ-⑤ 購買部の満足度は、どれに該当しますか。**

1. とても満足している
2. やや満足している
3. 普通
4. やや不満である
5. 大いに不満である

**Ⅶ-⑥ Ⅶ-⑤における回答の理由は何ですか。**

（具体的に：回答用紙の下段に記入ください）

**Ⅶ-⑦ 学生食堂・購買部への要望がありましたら記載してください。**

（具体的に：回答用紙の下段に記入ください）

## Ⅶ-①　学生食堂の利用頻度

学生食堂を恒常的に利用していると思われる「ほぼ毎日」及び「1 週間に 2～3 回程度」と回答した学部生の割合は 73.1%（昨年度比 3.1%増）であり、新習志野校舎に通学する 1 年次 86.1%・2 年次 80.8%、津田沼校舎に通学する 3 年次 66.9%・4 年次 50.0%という結果となった。

履修科目数が比較的多い 1・2 年次については、通学日数が多く長時間大学にいることが多いことと、新食堂棟完成による席数増加と新メニューによる集客効果が見込まれたことが高利用率に繋がったと考えられる。3 年次は 2 年次以前に比べ履修科目数及び通学日数が減少する傾向にあり、4 年次は通学時間に制約が少なくなると予想される。その他、津田沼校舎周辺には飲食店が多数あるため、3・4 年次は食堂の利用率が下がっていると思われる。

食堂利用率の向上には、混雑解消が課題である。特に、新習志野校舎は昼休みの 1 時間に利用者が集中するので、食堂では現在対策を検討中である。

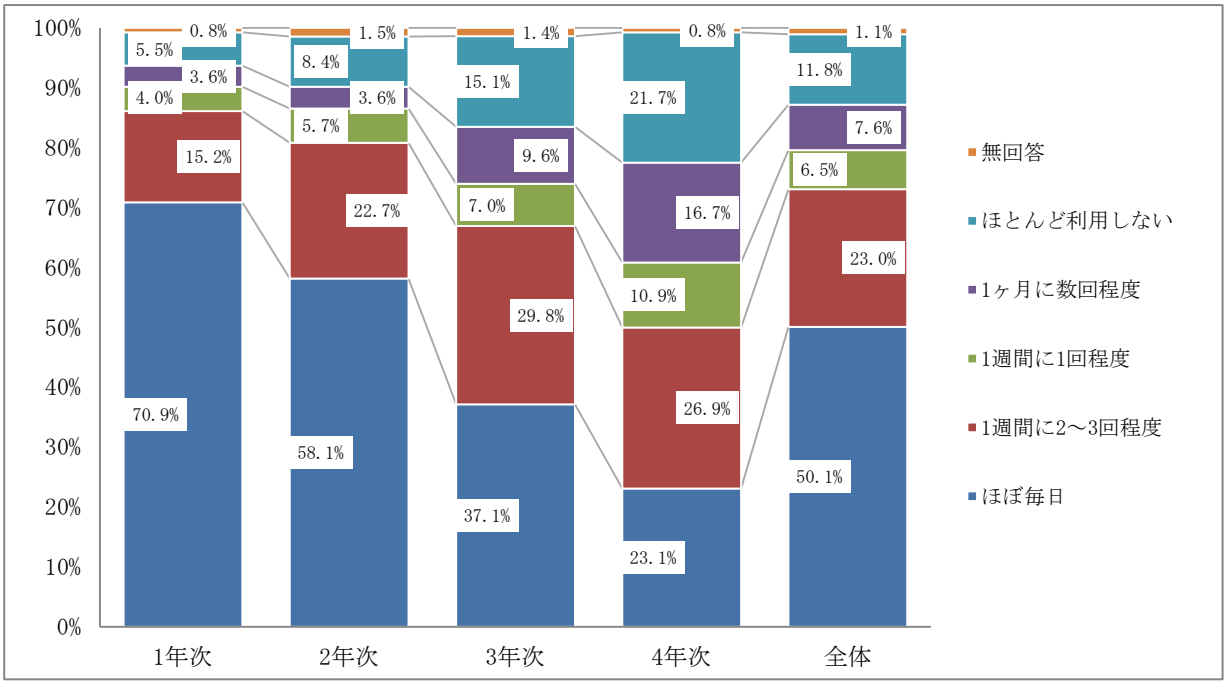


図 7.1　学生食堂の利用頻度

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. ほぼ毎日 | 1550 | 1100 | 645 | 327 | 3622 |
| 2. 1 週間に 2～3 回程度 | 333 | 429 | 518 | 381 | 1661 |
| 3. 1 週間に 1 回程度 | 88 | 108 | 122 | 154 | 472 |
| 4. 1 ヶ月に数回程度 | 78 | 69 | 166 | 236 | 549 |
| 5. ほとんど利用しない | 121 | 158 | 263 | 308 | 850 |
| 無回答 | 17 | 28 | 24 | 11 | 80 |

## Ⅶ-②　学生食堂の満足度

今年度から集計方法を変更したため、満足度の過年度比較はできないが、学部生の 61.3%が「とても満足している」あるいは「やや満足している」と回答しており、「普通」の回答を合わせると、約 80%を占めるに至った。自由記述欄を見ると、「安い」、「おいしい」などの低価格・良質でコストパフォーマンスの高い食事を提供していることを理由とする学生が多く見られた。反対に、不満と回答した学生からは、特に混雑のため席に座れないことを理由に挙げる例が多数見られた。このことに関しては、引き続き対応を検討していきたい。

その他、メニューに関する要望が多数寄せられており、今後のメニュー検討の参考としたい。また、「価格が高い」と回答した学生もいるが、本学の学生食堂が提供するメニューの価格はこれ以上下げられないレベルであり、これよりも安い値段で提供している飲食店は大学周辺では皆無のため、了承していただきたい。

なお、従来から要望の多かった津田沼食堂における Suica・パスモ対応の食券販売機設置は、平成 30 年 4 月中旬に導入される予定である。

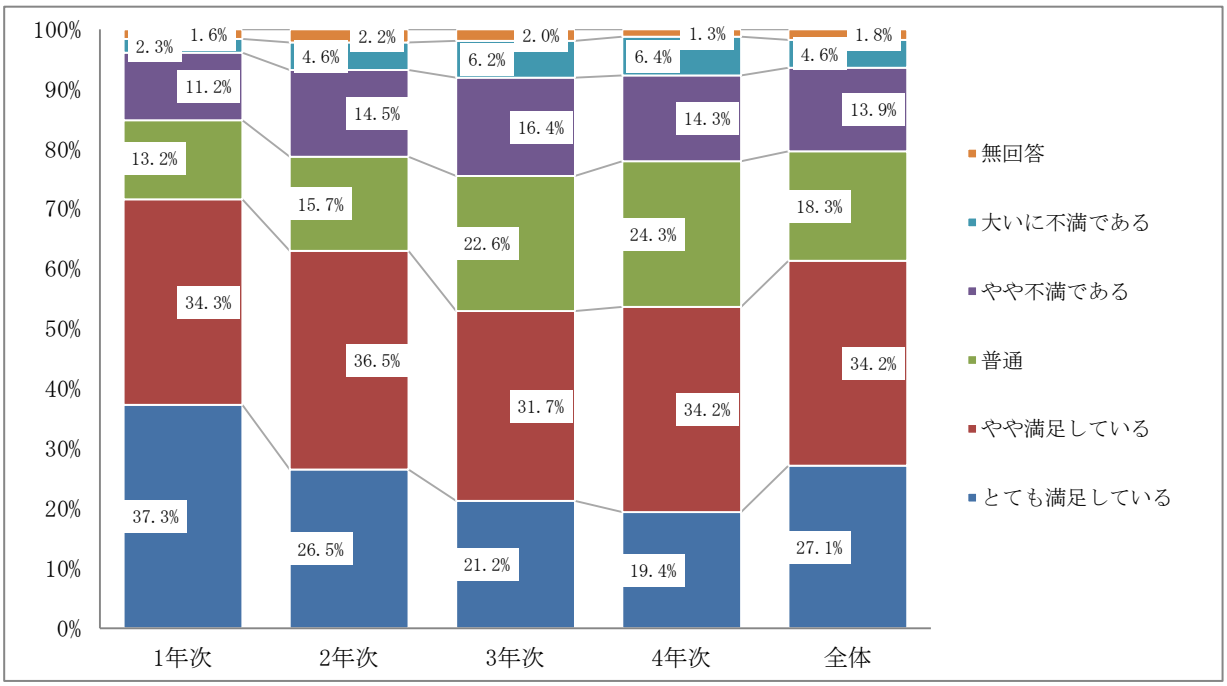


図 7.2　学生食堂の満足度

(回答者数)

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. とても満足している | 816 | 501 | 369 | 275 | 1961 |
| 2. やや満足している | 750 | 691 | 551 | 485 | 2477 |
| 3. 普通 | 289 | 297 | 392 | 345 | 1323 |
| 4. やや不満である | 246 | 274 | 285 | 203 | 1008 |
| 5. 大いに不満である | 51 | 87 | 107 | 91 | 336 |
| 無回答 | 35 | 42 | 34 | 18 | 129 |

## Ⅶ-④　購買部の利用頻度

購買部の利用頻度を「ほぼ毎日」または「1 週間に 2～3 回」と回答した学部生の割合は 50.4%（昨年度比 0.6%増）という結果であった。新習志野校舎における新食堂棟前の工事が終了し、それまで不便であった購買部へのアクセスが良くなったこともあり、1 年次の利用が好調である他、昨年度は低調だった 2 年次の利用が回復した。それに対し、津田沼では利用者が伸び悩んでおり、利用率が昨年比で微減である。食堂も同様であるが、津田沼周辺には多数の様々な店舗が立ち並んでおり、特に購買部と競合するコンビニやスーパーの存在が大きい。より多くの学生に利用してもらうため、更なる努力が必要である。

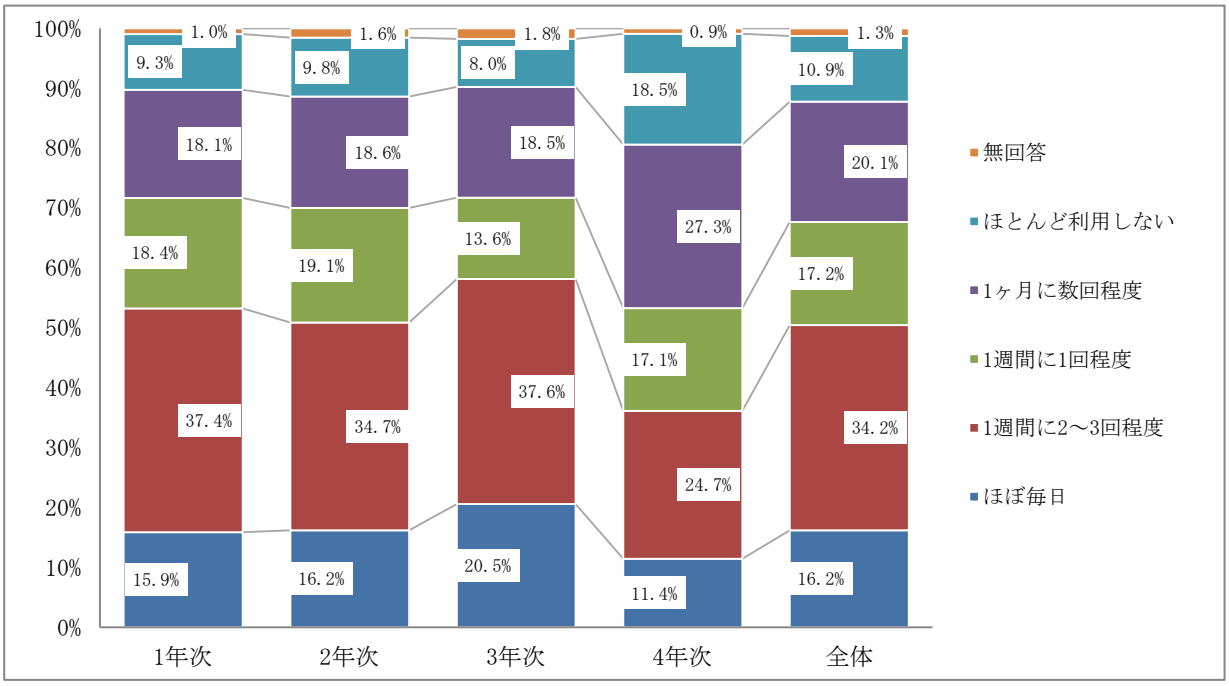


図 7.4　購買部の利用頻度

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. ほぼ毎日 | 347 | 306 | 357 | 162 | 1172 |
| 2. 1 週間に 2～3 回程度 | 817 | 656 | 653 | 350 | 2476 |
| 3. 1 週間に 1 回程度 | 403 | 362 | 236 | 243 | 1244 |
| 4. 1 ヶ月に数回程度 | 395 | 352 | 322 | 387 | 1456 |
| 5. ほとんど利用しない | 204 | 186 | 139 | 262 | 791 |
| 無回答 | 21 | 30 | 31 | 13 | 95 |

## Ⅶ-⑤　購買部の満足度

こちらも食堂と同様に集計方法を変更したために過年度比較はできないが、学部生の 62.0%が「とても満足している」あるいは「やや満足している」と回答しており、「普通」の回答を合わせると、約 90%を占めるに至った。大手コンビニチェーンのシステムを導入しているので、街中のコンビニに行く感覚で購買部を利用していると回答した学生も多く、授業で使用する教材等も市価より安く販売していることも要因であると思われる。その反面、弁当や菓子などの食品類はコンビニ価格のために周辺のスーパーやディスカウントストアと比較すると割高であり、昼休みには店内が混雑するのでレジに長い列ができること等が不満要素として存在する。これらに関しては、引き続き対応を検討していきたい。

その他、品揃えに関する要望が多数寄せられているが、具体的に商品名を伝えてもらえれば仕入れを検討すると共に、取り置きも可能である。また、通常の書店では実施していない書籍の割引販売を行っているので、本を購入する際には是非とも購買部の書籍コーナーを訪れてほしい。

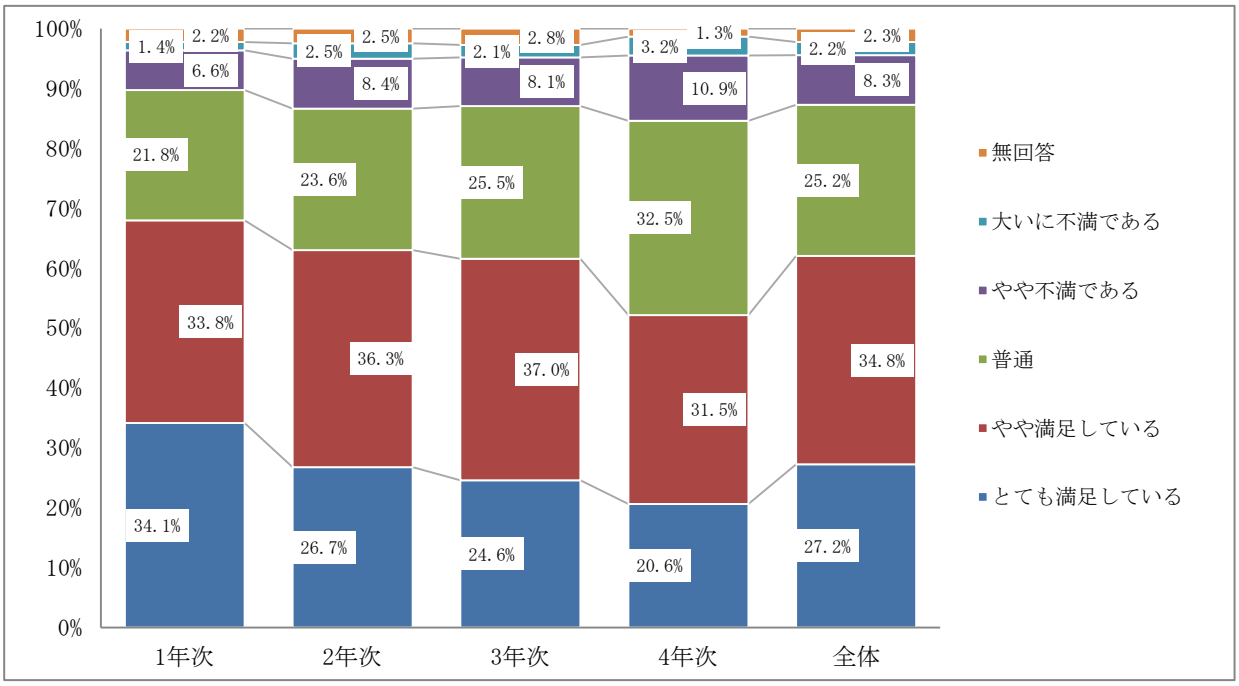


図 7.5　購買部の満足度

(回答者数)

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. とても満足している | 746 | 506 | 427 | 292 | 1971 |
| 2. やや満足している | 740 | 686 | 643 | 447 | 2516 |
| 3. 普通 | 476 | 447 | 443 | 460 | 1826 |
| 4. やや不満である | 145 | 158 | 141 | 154 | 598 |
| 5. 大いに不満である | 31 | 48 | 36 | 45 | 160 |
| 無回答 | 49 | 47 | 48 | 19 | 163 |

## ＜Ⅷ＞施設・設備について

**Ⅷ–① 次の施設・設備をどう思いますか。**

**A. 新習志野校舎・津田沼校舎の駐輪場**

1. 満足している
2. ある程度満足している
3. どちらとも言えない
4. やや不満がある
5. 不満である
6. 利用したことがない

**B. 新習志野校舎・津田沼校舎の談話室**

1. 満足している
2. ある程度満足している
3. どちらとも言えない
4. やや不満がある
5. 不満である
6. 利用したことがない

**Ⅷ–② 改善を希望する施設・設備は、どこですか。**

（具体的に：回答用紙の下段に記入ください）

## Ⅷ-①-A　新習志野校舎・津田沼校舎の駐輪場

駐輪場を利用した学生の概ね半分が満足しており、ある程度満足している学生と合わせて多くが問題なく使っている。本学学生の通学形態により、4 割強が駐輪場の利用がない。駐輪場はよく整備され、清掃が行き届き、環境保全も十全である。ただ、昨年度の結果と比較すると、満足度の減少が見られる。利用者の社会性の醸成を課題とし、利用者相互の配慮、入出庫時、駐輪時のマナー向上に取り組んでいるので、引き続き利用者相互の配慮がある駐輪場利用が望まれる。

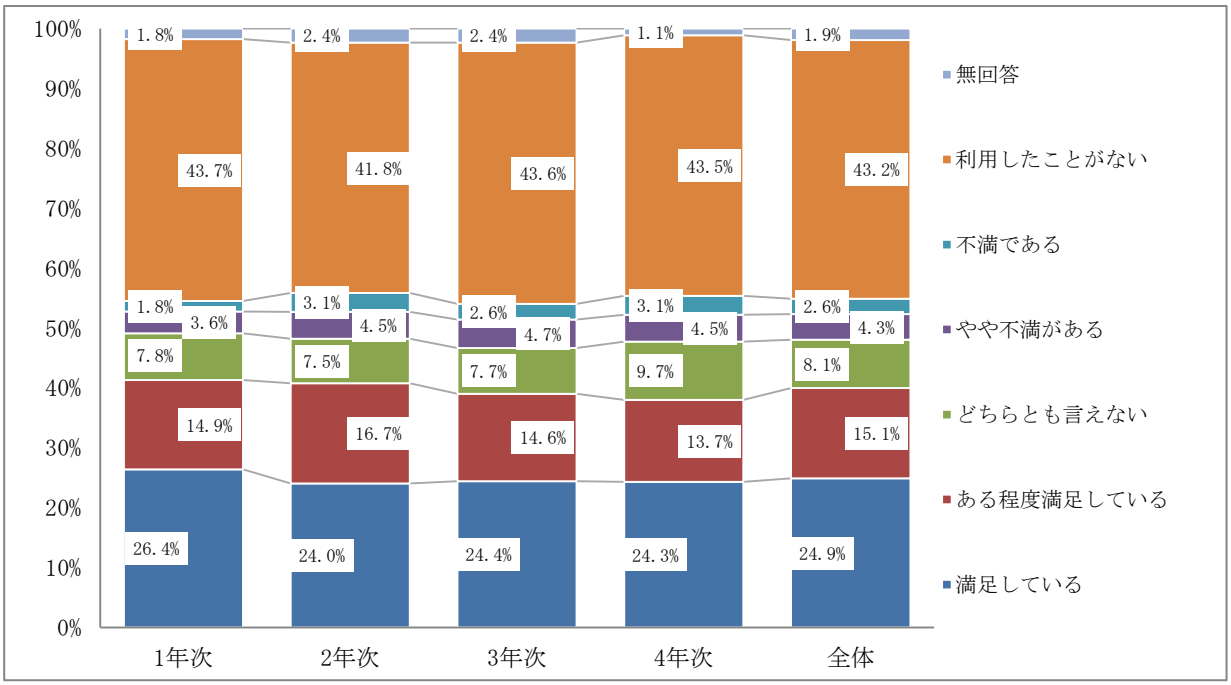


図 8.1.1　新習志野校舎・津田沼校舎の駐輪場

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 満足している | 577 | 455 | 424 | 344 | 1800 |
| 2. ある程度満足している | 326 | 316 | 254 | 194 | 1090 |
| 3. どちらとも言えない | 171 | 141 | 133 | 138 | 583 |
| 4. やや不満がある | 79 | 85 | 82 | 64 | 310 |
| 5. 不満である | 39 | 59 | 46 | 44 | 188 |
| 6. 利用したことがない | 956 | 791 | 758 | 617 | 3122 |
| 無回答 | 39 | 45 | 41 | 16 | 141 |

## Ⅷ-①-Ｂ　新習志野校舎・津田沼校舎の談話室

今年度、特筆すべき点は、談話室利用がない 1 年次学生の割合が半数近くにぼることである。現在、新習志野校舎の談話室(スペース)は 12 号館 2 階のみである。学生食堂棟が昨年 4 月から供用され、食事だけでなく、談話、休憩に利用されるようになったためである。このことから、新習志野校舎での談話スペースは充分確保されていると言える。なお、混雑時間帯の学生食堂利用法は引き続き対策が求められている。

津田沼校舎では、学生食堂と談話室の機能の住み分けができており、利用者の満足度は良いと言える。4 号館 1 階の談話室は常に利用され、盛況と言える。盛況ゆえ、周囲への配慮が肝心となる。

談話室は学生生活の場、憩いの場、自習の場、談話の場として賑わっているべきだが、供用スペースであることに留意すべきだろう。譲り合いと寛容の心を持って、大いに活用して欲しい。

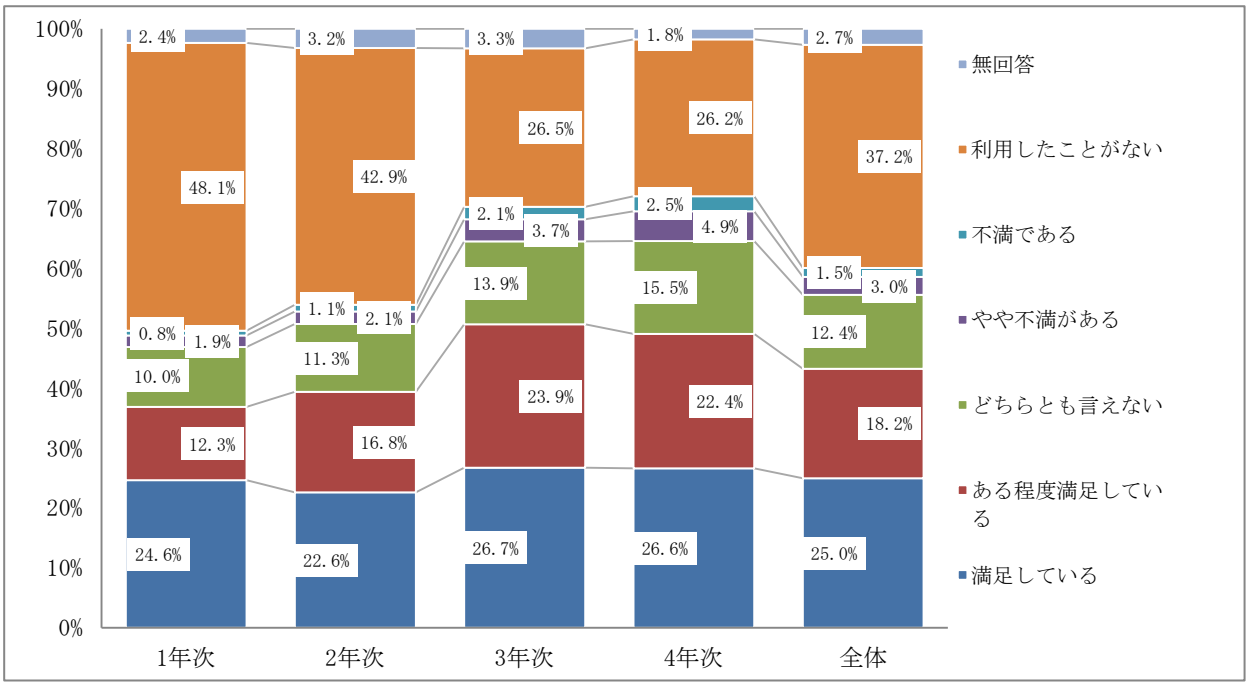


図 8.1.2　新習志野校舎・津田沼校舎の談話室

(回答者数)

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 満足している | 538 | 427 | 464 | 377 | 1806 |
| 2. ある程度満足している | 268 | 318 | 416 | 318 | 1320 |
| 3. どちらとも言えない | 219 | 214 | 241 | 220 | 894 |
| 4. やや不満がある | 42 | 40 | 64 | 70 | 216 |
| 5. 不満である | 17 | 21 | 36 | 36 | 110 |
| 6. 利用したことがない | 1051 | 811 | 460 | 371 | 2693 |
| 無回答 | 52 | 61 | 57 | 25 | 195 |

**Ⅷ－② 改善を希望する施設・設備（自由記述欄）**

**【両校舎共通】**

**トイレ**
1号館及び6号館の各階に男女トイレを設置して欲しい（津田沼）
和式トイレは撤去して欲しい。使用したことがない
節電時もハンドドライヤーが使用できるようにして欲しい

**食堂**
座席数を増やして欲しい
メニュー（品数）を増やして欲しい
食堂の混雑を解消して欲しい

**喫煙関係**
学内に喫煙所を復活させて欲しい
大学周辺に喫煙所がない
学内全面禁煙は本当に有り難い

**駐輪場**
駐輪場に屋根（雨よけ）を設置して欲しい
駐輪場が狭い（新習志野校舎）
ヘルメットロッカー設置して欲しい（津田沼）

**【新習志野校舎】**

**８号館**
椅子の座面が硬く、おしりが痛い

**12号館**
自由に使用できるＣＮＣ旋盤が欲しい
アスレチックジムの運動器具の充実及び利用時間延長

**その他**
車いす利用者の作業動線を考えて、建物施設にスロープを設置して欲しい
もっとsuicaが使える自販機を増やして欲しい
ウォータークーラーの増設
ATMの設置
スクールバスの増便を希望

**【津田沼校舎】**

**１号館**
エレベーターの増設
研究室が狭い
アスレチックジムの運動器具の充実及び利用時間延長

**2号館**
シャワー室を無料で使用できるようにして欲しい（研究追い込みの際、宿泊する為）
シャワー室の増設
20階ラウンジの開放時間延長

**4号館（談話室・工作センター・部室エリア）**
食べ物系の自販機を設置して欲しい
空調管理が不十分
机及び座席の数を増やして欲しい
工作センターの設備の充実及び利用時間延長
部室が狭い

**5号館図書館**
狭い
座席数を増やしてほしい

**7号館**
1・2号館同様、鍵管理BOXを導入して欲しい
研究室が狭い

**その他**
学食にマヨネーズを置いてほしい
ウォータークーラーの増設
ATMの設置

# ＜Ⅸ＞大学への要望について

**Ⅸ-① 大学に要望したいことや期待することは、何ですか。**

**A. 教育関係**

1. カリキュラムの改革
2. 講義室の充実
3. 実験室や実習室の充実
4. 教育スタッフの充実
5. 授業方法の工夫、改善
6. 単位認定や試験を緩やかに
7. 単位認定や試験を厳しく
8. 新習志野図書館の充実
9. 津田沼図書館の充実
10. 特になし

**B. 福利厚生・施設関係**

1. 本学学生共済会の充実
2. 本学奨学金制度の充実
3. キャンパスの統合
4. 茜浜運動施設の充実
5. 茜浜運動施設の部室棟の充実
6. 津田沼校舎の部室棟の充実
7. 特になし

## Ⅸ-①-A　教育関係への要望

全体のグラフを見ると、「特になし」と回答した学生が約 27%と最も多く、次いで「単位認定や試験を緩やかに」が約 14%、「カリキュラムの改革」が約 15%、「授業方法の工夫、改善」が約 13%と続く点は昨年度と同様の傾向であるが、「特になし」が昨年度の約 22%から増加しており、要望が減少している、つまり不満が解消されていると思われる。

要望の項目別では、もともと要望の多かった「単位認定や試験を緩やかに」や「授業方法の工夫、改善」が他と比べて大きく減少しており、教育方法の面では満足度が向上していると考えられる。一方、唯一「講義室の充実」の回答率が昨年度より増加しており、3、4 年次では共に 10%を超える結果となっている。また、回答率は減少しているものの、昨年度同様 3、4 年次で回答率の多い「実験室や実習室の充実」も併せて、特に津田沼校舎の教育施設の面では検討が必要と思われる。

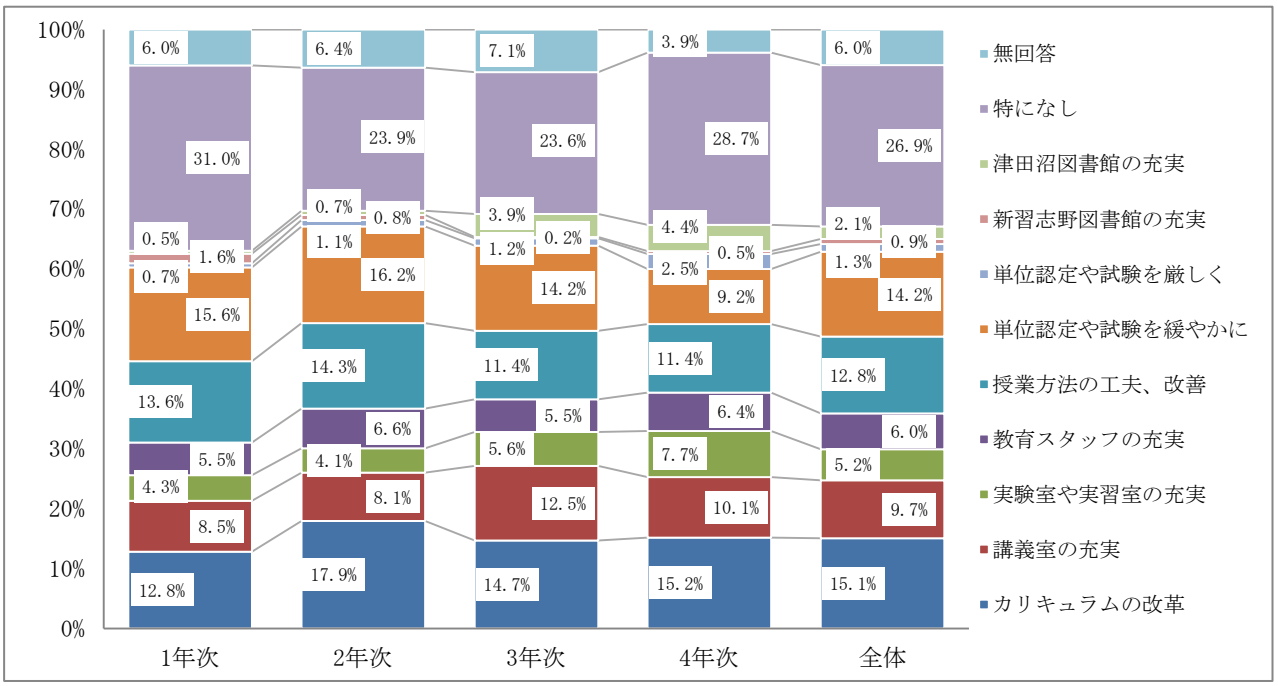


図 9.1.1　教育関係への要望

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. カリキュラムの改革 | 280 | 339 | 255 | 215 | 1089 |
| 2. 講義室の充実 | 186 | 153 | 217 | 143 | 699 |
| 3. 実験室や実習室の充実 | 93 | 77 | 98 | 109 | 377 |
| 4. 教育スタッフの充実 | 120 | 125 | 95 | 91 | 431 |
| 5. 授業方法の工夫、改善 | 297 | 270 | 199 | 162 | 928 |
| 6. 単位認定や試験を緩やかに | 342 | 306 | 247 | 130 | 1025 |
| 7. 単位認定や試験を厳しく | 15 | 20 | 21 | 36 | 92 |
| 8. 新習志野図書館の充実 | 35 | 16 | 4 | 7 | 62 |
| 9. 津田沼図書館の充実 | 11 | 13 | 67 | 62 | 153 |
| 10. 特になし | 677 | 452 | 411 | 407 | 1947 |
| 無回答 | 131 | 121 | 124 | 55 | 431 |

## Ⅸ-①-Ｂ　福利厚生・施設への要望

全体のグラフを見ると、「特になし」と回答した学生が約 48%と最も多く、「無回答」の結果と合わせると 5 割を超えており、本アンケート項目に関しては概ね満足していると思われる。しかしながら、「本学奨学金制度の充実」が約 16%、「本学学生共済会の充実」が約 11%と続き、回答率は昨年度より減少しているものの、福利厚生面への要望は依然として多い。学年別の「本学奨学金制度の充実」の回答率では、4 年生からの要望が最も多かった。昨年度も同様であり、昨年度の報告においても一昨年度と同様の傾向が指摘されていることから、今後注視が必要と思われる。また、全体の結果より「キャンパスの統合」の回答率が約 10%であり、昨年度に引き続き施設面に関する要望で最も多かった。よりスムーズなキャンパス間移動の検討が必要であると思われる。

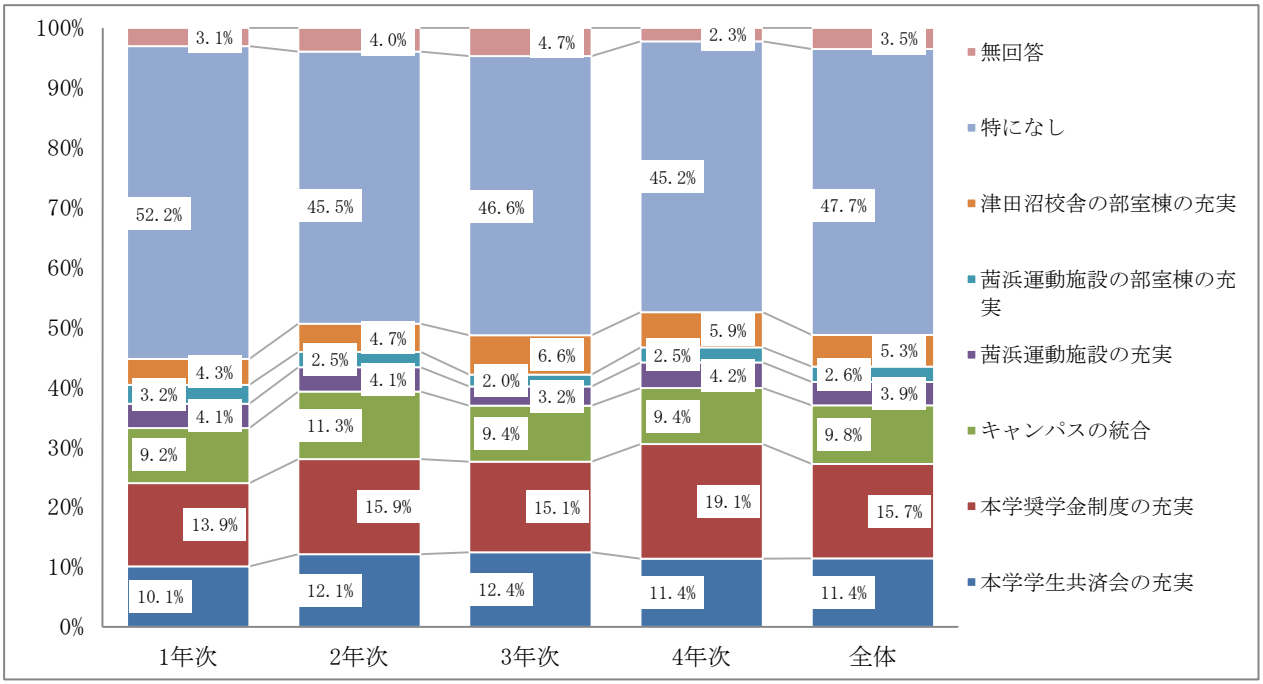


図 9.1.2　福利厚生・施設への要望

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 本学学生共済会の充実 | 221 | 229 | 216 | 161 | 827 |
| 2. 本学奨学金制度の充実 | 303 | 301 | 263 | 271 | 1138 |
| 3. キャンパスの統合 | 201 | 213 | 163 | 133 | 710 |
| 4. 茜浜運動施設の充実 | 89 | 77 | 55 | 60 | 281 |
| 5. 茜浜運動施設の部室棟の充実 | 69 | 48 | 35 | 36 | 188 |
| 6. 津田沼校舎の部室棟の充実 | 95 | 89 | 114 | 83 | 381 |
| 7. 特になし | 1142 | 860 | 810 | 641 | 3453 |
| 無回答 | 67 | 75 | 82 | 32 | 256 |

## ＜X＞試験種別について

**X-① どの試験を利用しましたか。**

1. AO創造入試
2. 推薦入試(指定校制度)
3. 自己推薦・公募制推薦・専門高校推薦入試
4. 特別入試(外国人留学生・帰国生徒・社会人)
5. 編入学試験
6. 大学入試センター利用入試(前・中・後期)
7. 一般入試

## X-①　利用した試験種別

年度によって小幅な変動はあるものの、近年は一般入試と大学入試センター利用入試で半分、推薦系で半分の構成となっている。推薦系では、推薦入試（指定校制度）がやや増加傾向にあり、AO創造入試が減少している。入学試験種別によって、勉学意欲や授業への取り組みの傾向が異なる傾向にあり、これを踏まえた対応が必要になることも考えられる。

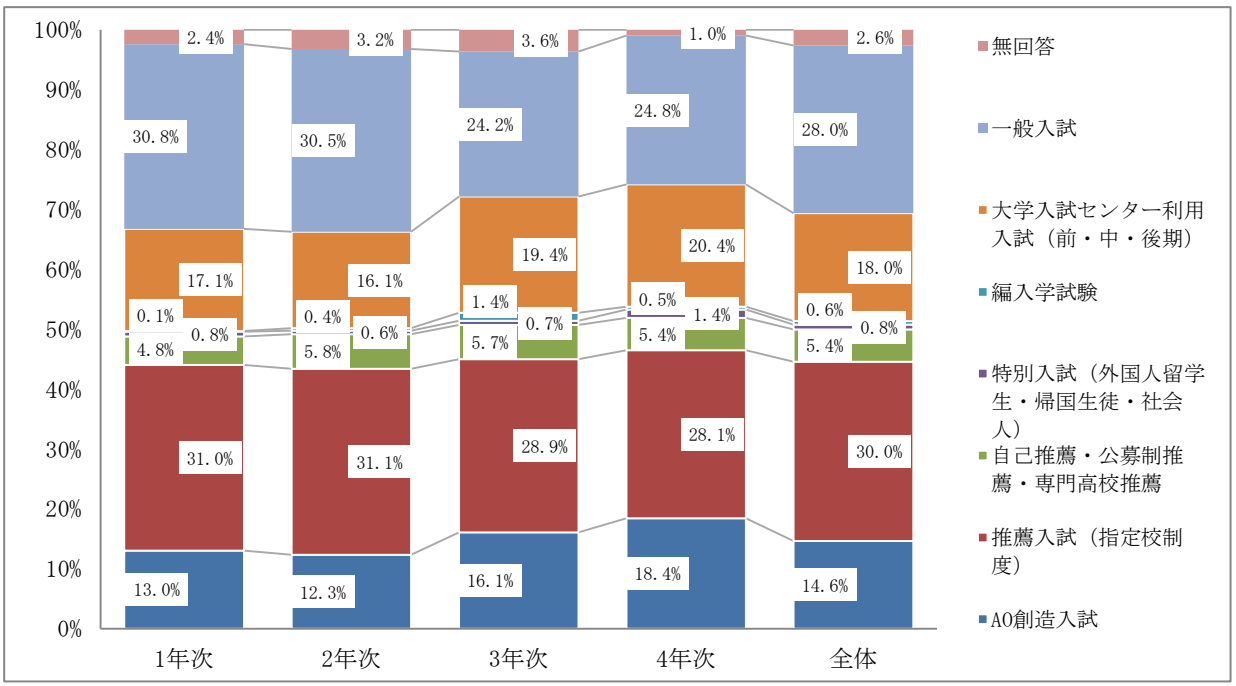


図 10.1　利用した試験種別

（回答者数）

| | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. AO創造入試 | 285 | 233 | 279 | 261 | 1058 |
| 2. 推薦入試（指定校制度） | 678 | 588 | 503 | 398 | 2167 |
| 3. 自己推薦・公募制推薦・専門高校推薦 | 104 | 109 | 99 | 76 | 388 |
| 4. 特別入試（外国人留学生・帰国生徒・社会人） | 17 | 11 | 12 | 20 | 60 |
| 5. 編入学試験 | 3 | 8 | 24 | 7 | 42 |
| 6. 大学入試センター利用入試（前・中・後期） | 373 | 305 | 337 | 289 | 1304 |
| 7. 一般入試 | 674 | 577 | 421 | 352 | 2024 |
| 無回答 | 53 | 61 | 63 | 14 | 191 |

## ＜Ⅺ＞受講者数・教員との信頼について

**Ⅺ-① 総合的に判断して、各授業における受講者の人数についてどう思いますか。**

1. 十分に適正である
2. ほぼ適正である
3. 一部に受講者が多すぎる科目もある
4. ほとんどの科目において受講者数が多すぎる

**Ⅺ-② 総合的に判断して、教員と学生との間に信頼関係が成立していると思いますか。**

1. 十分に成立している
2. ある程度成立している
3. どちらとも言えない
4. あまり成立していない
5. まったく成立していない

## XI-①　授業における受講者の人数

2 年次の「十分に適正」と「ほぼ適正」合計は 60.0%で、昨年度の 47.9%から大幅に改善している。新カリキュラムで少人数教育を進めた成果が出ている可能性が考えられる。一方で、3 年次は 39.8%となっており、こちらは昨年度の 44.0%からむしろ悪化している。学生が受講しやすいクラスサイズの設定に努めると共に、大人数のクラスでは授業の進め方などに工夫が求められる。

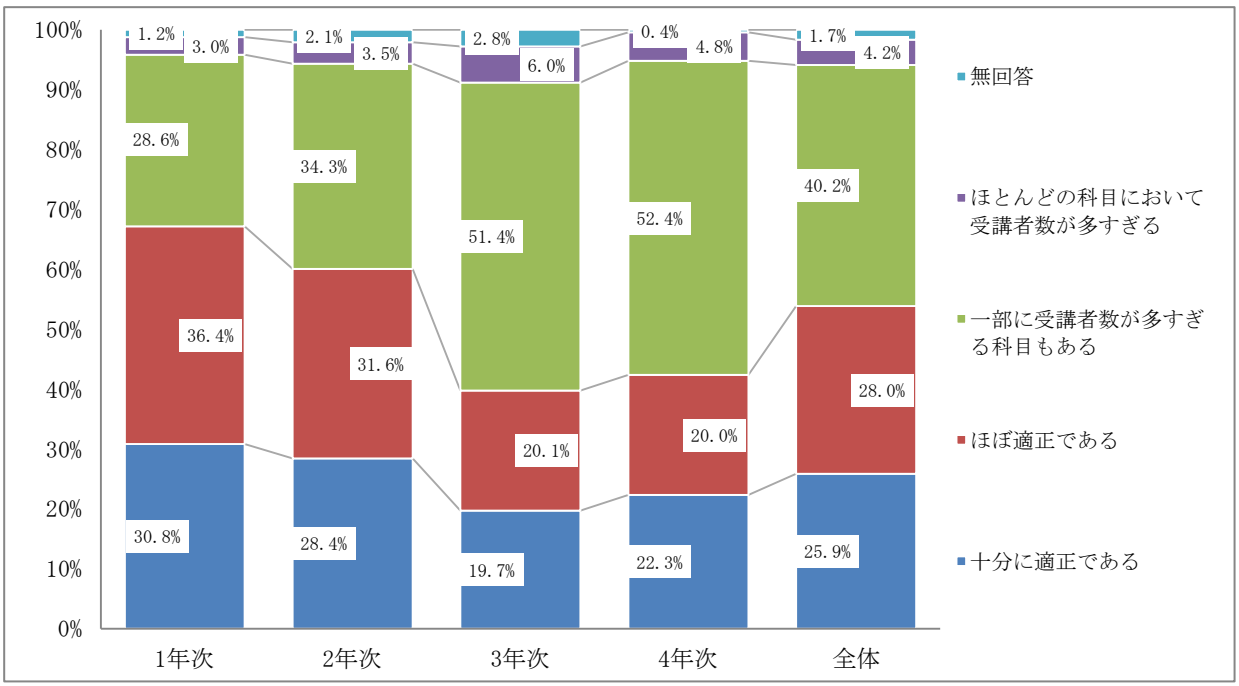


図 11.1　授業における受講者の人数

(回答者数)

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 十分に適正である | 674 | 538 | 342 | 316 | 1870 |
| 2. ほぼ適正である | 795 | 598 | 349 | 284 | 2026 |
| 3. 一部に受講者数が多すぎる科目もある | 626 | 649 | 893 | 743 | 2911 |
| 4. ほとんどの科目において受講者数が多すぎる | 65 | 67 | 105 | 68 | 305 |
| 無回答 | 27 | 40 | 49 | 6 | 122 |

## XI-② 教員と学生との間の信頼関係

1年次の「十分に成立」と「ある程度成立」は51.5%で、昨年度の50.0%からやや上昇している。2年次になると低下し、3年次から4年次にかけて上昇するのは昨年度と同じ傾向である。一方で「あまり成立していない」と「まったく成立していない」が20%を超えているのは気になるところである。学生がなぜ教員との信頼関係が成立していないと考えるのかを知る努力も必要だろう。

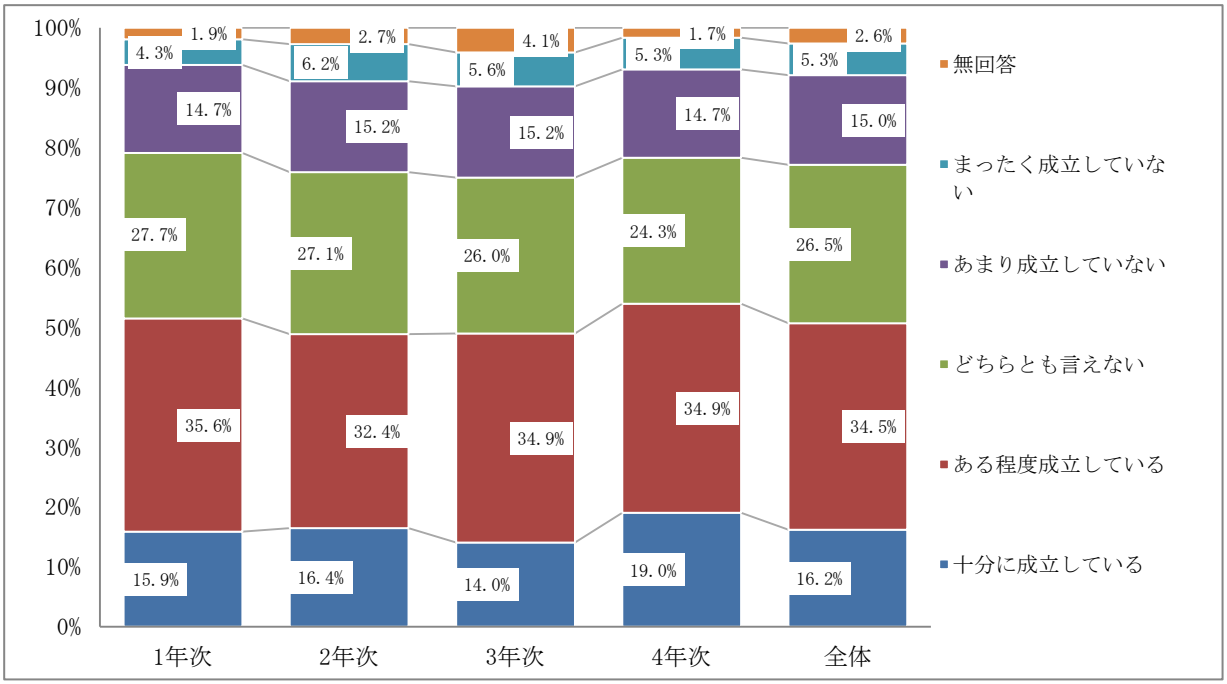


図 11.2 教員と学生との間の信頼関係

(回答者数)

| | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 十分に成立している | 347 | 311 | 244 | 269 | 1171 |
| 2. ある程度成立している | 778 | 613 | 607 | 495 | 2493 |
| 3. どちらとも言えない | 605 | 512 | 452 | 345 | 1914 |
| 4. あまり成立していない | 321 | 287 | 265 | 209 | 1082 |
| 5. まったく成立していない | 94 | 117 | 98 | 75 | 384 |
| 無回答 | 42 | 52 | 72 | 24 | 190 |

## ＜Ⅻ＞学生諸君の学習意欲・達成度について

**Ⅻ-① あなたが希望する将来の職種において必要とされる専門的知識を学べていると思いますか。**

1. 十分に学べている
2. ある程度学べている
3. 学びつつある
4. 学べていない
5. まったく学べておらず不安である

**Ⅻ-② 豊かで知性に満ちた人生を歩むうえで必要と考えられる教養を学べていると思いますか。**

1. 十分に学べている
2. ある程度学べている
3. 学びつつある
4. 学べていない
5. まったく学べておらず不安である

**Ⅻ-③ 自ら学ぶ習慣の大切さや主体的に行動することの大切さを学べていると思いますか。**

1. 十分に学べている
2. ある程度学べている
3. 学びつつある
4. 学べていない
5. まったく学べておらず不安である

**Ⅻ-④ 正確な日本語によるコミュニケーション力や英語による簡単なコミュニケーション力について学べていると思いますか。**

1. 十分に学べている
2. ある程度学べている
3. 学びつつある
4. 学べていない
5. まったく学べておらず不安である

## XII-①　希望する将来の職種において必要な専門的知識

「十分に学べている」「ある程度学べている」「学びつつある」などの肯定的な回答が 90%近い。ただ、1 年次の「十分に学べている」は 20%程度だが、2016 年度に改組する前は 25%近い水準だった。カリキュラムの変更が回答に影響を与えている可能性はあるが、低学年では専門的知識よりも教養を重視するという方針の下での変化であれば、問題はないと考える。

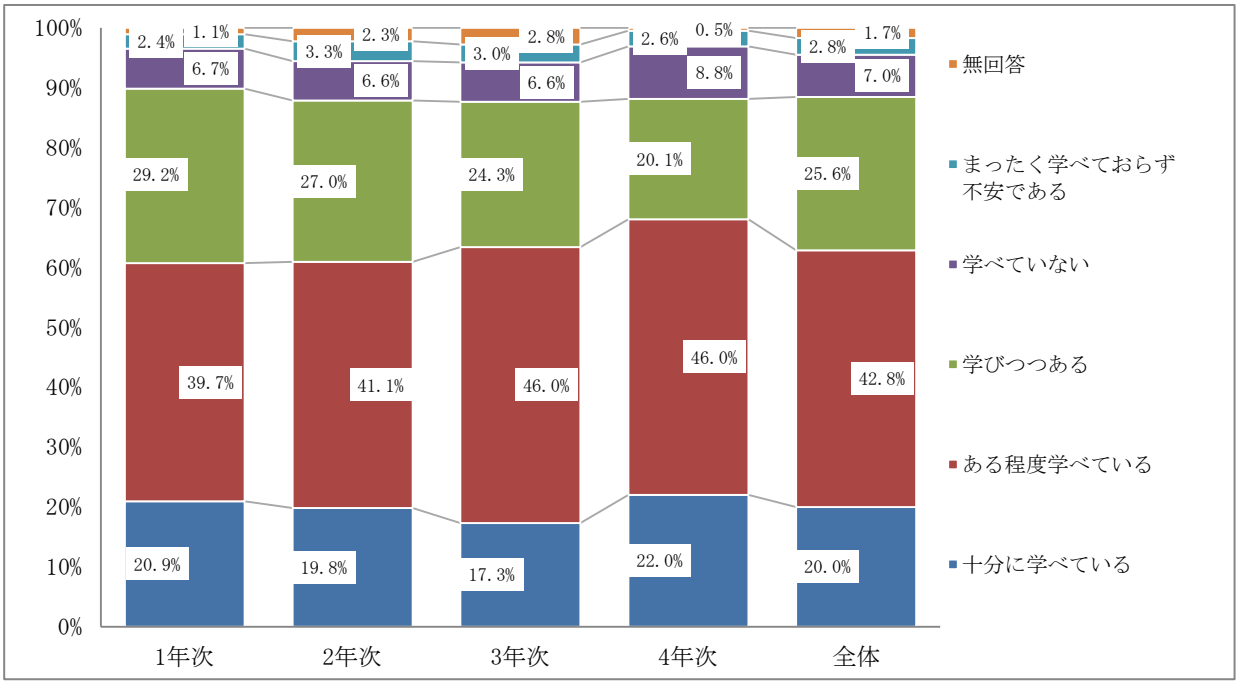


図 12.1　希望する将来の職種において必要な専門的知識

(回答者数)

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 十分に学べている | 458 | 375 | 301 | 312 | 1446 |
| 2. ある程度学べている | 869 | 777 | 800 | 652 | 3098 |
| 3. 学びつつある | 638 | 510 | 422 | 285 | 1855 |
| 4. 学べていない | 146 | 125 | 114 | 124 | 509 |
| 5. まったく学べておらず不安である | 52 | 62 | 52 | 37 | 203 |
| 無回答 | 24 | 43 | 49 | 7 | 123 |

## XII-②　豊かで知性に満ちた人生を歩むうえで必要な教養

「十分に学べている」「ある程度学べている」「学びつつある」などの肯定的な回答が 90%近い。学年が上がるにつれて「学べていない」など否定的な回答がやや増加するが、「十分に学べている」「ある程度学べている」割合も高まっていることから、教養が身についていると感じる学生が増えていることがうかがえる。

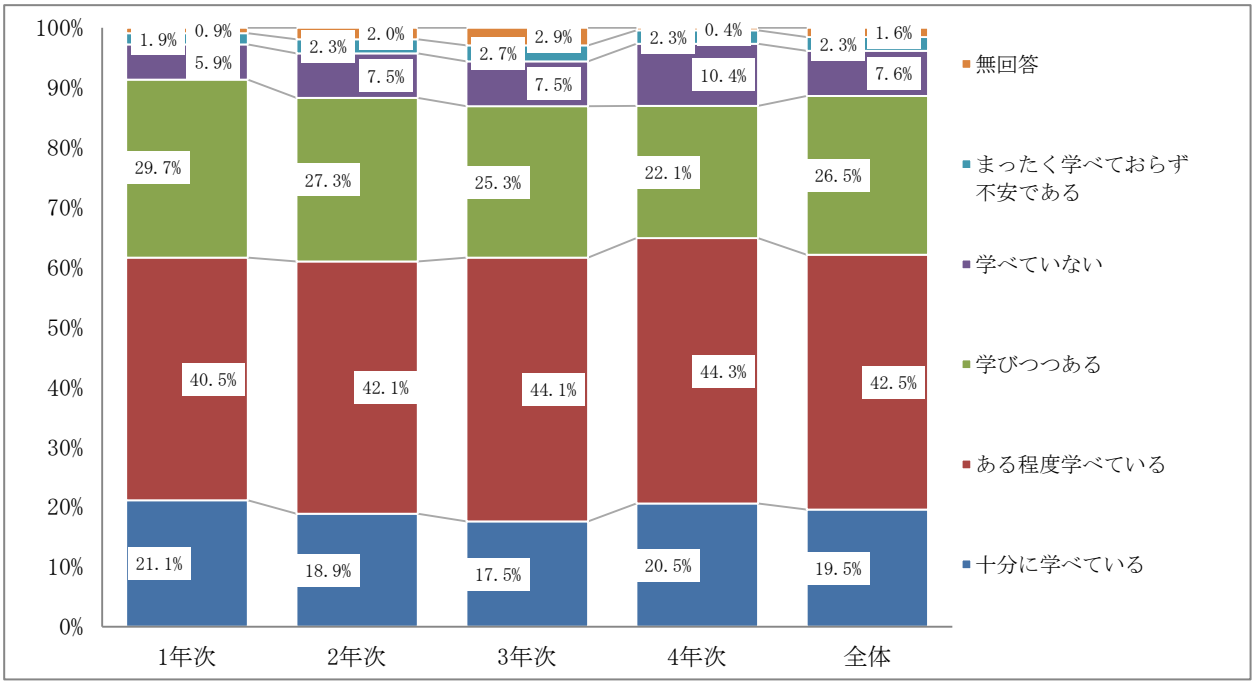


図 12.2　豊かで知性に満ちた人生を歩むうえで必要な教養

(回答者数)

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 十分に学べている | 461 | 357 | 305 | 291 | 1414 |
| 2. ある程度学べている | 886 | 796 | 766 | 628 | 3076 |
| 3. 学びつつある | 650 | 517 | 439 | 313 | 1919 |
| 4. 学べていない | 129 | 141 | 130 | 147 | 547 |
| 5. まったく学べておらず不安である | 41 | 44 | 47 | 32 | 164 |
| 無回答 | 20 | 37 | 51 | 6 | 114 |

## XII-③　自ら学ぶ習慣や主体的に行動することの大切さ

「十分に学べている」「ある程度学べている」「学びつつある」などの肯定的な回答が 90%近い。また、「十分に学べている」「ある程度学べている」の回答は、Ⅻ - ①から⑤のなかで最も多く 60%を超えている。本学に入学することで「自ら学ぶ習慣や主体的に行動することの大切さ」を学べたのだとしたら、喜ばしいことである。

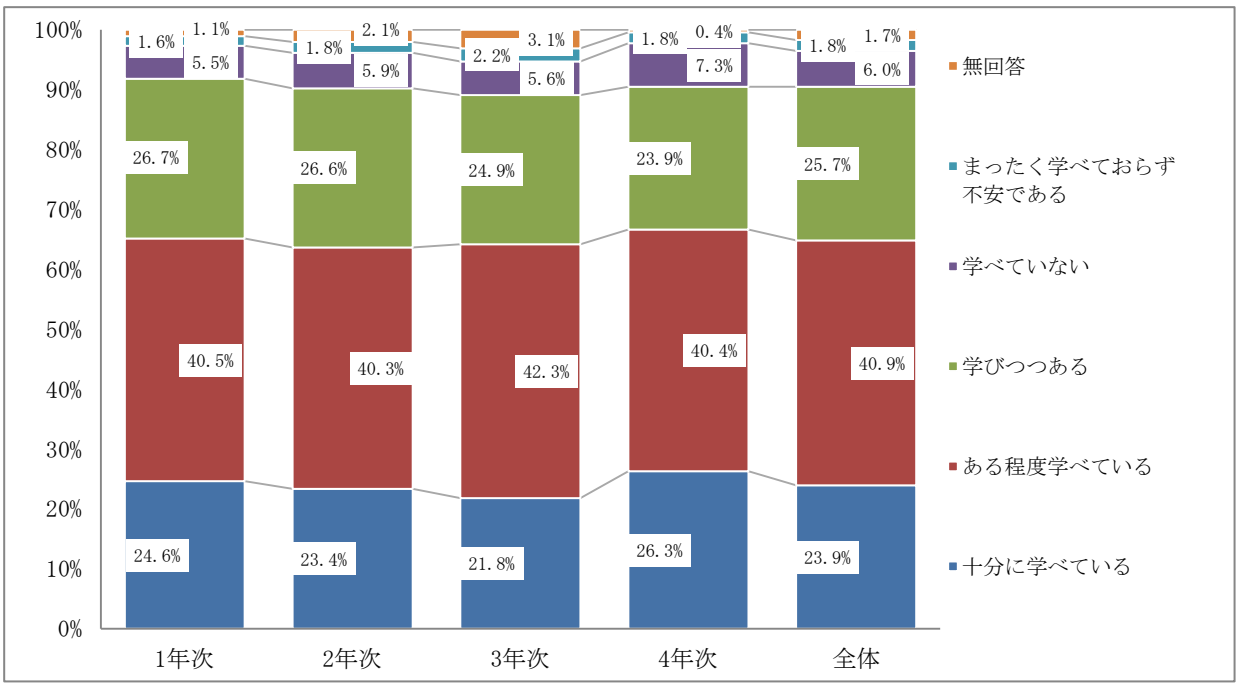


図 12.3　自ら学ぶ習慣や主体的に行動することの大切さ

(回答者数)

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 十分に学べている | 538 | 442 | 379 | 372 | 1731 |
| 2. ある程度学べている | 886 | 762 | 736 | 572 | 2956 |
| 3. 学びつつある | 584 | 503 | 433 | 338 | 1858 |
| 4. 学べていない | 120 | 112 | 98 | 103 | 433 |
| 5. まったく学べておらず不安である | 35 | 34 | 38 | 26 | 133 |
| 無回答 | 24 | 39 | 54 | 6 | 123 |

## XII-④　正確な日本語や簡単な英語によるコミュニケーション力

「十分に学べている」「ある程度学べている」「学びつつある」などの肯定的な回答が 80%を超えているものの、「学べていない」の割合は学年が進むにつれて高まっている。英語については本アンケートを実施した 2016 年度から学部の 1 年次、3 年次と大学院の 1 年次全員が TOEIC を受験することになった。自分の客観的な語学力を知ることが、成長を実感したり学習の必要性を感じたりする機会になることが望まれる。

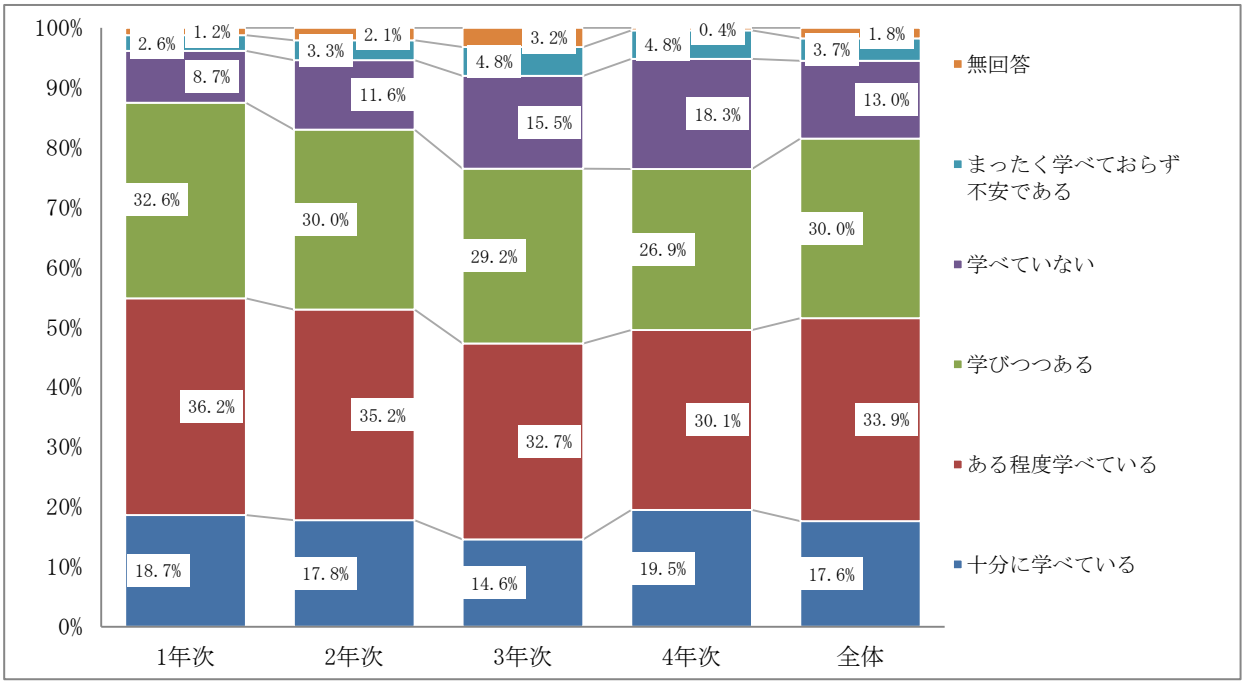


図 12.4　正確な日本語や簡単な英語によるコミュニケーション力

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 十分に学べている | 408 | 336 | 253 | 276 | 1273 |
| 2. ある程度学べている | 791 | 666 | 569 | 426 | 2452 |
| 3. 学びつつある | 714 | 568 | 507 | 381 | 2170 |
| 4. 学べていない | 190 | 220 | 269 | 260 | 939 |
| 5. まったく学べておらず不安である | 57 | 62 | 84 | 68 | 271 |
| 無回答 | 27 | 40 | 56 | 6 | 129 |

## XII-⑤　社会で実際に役に立つ応用力

「十分に学べている」「ある程度学べている」の回答は、過去数年のなかでは最も高い水準となっている。ただ、「学べていない」など否定的な回答が、学年の上がるにつれて高まっていく傾向は例年通りである。卒業が近づくと不安になる学生が一定数いるのだとしたら、研究室での指導の際に一定の工夫が必要なのかもしれない。

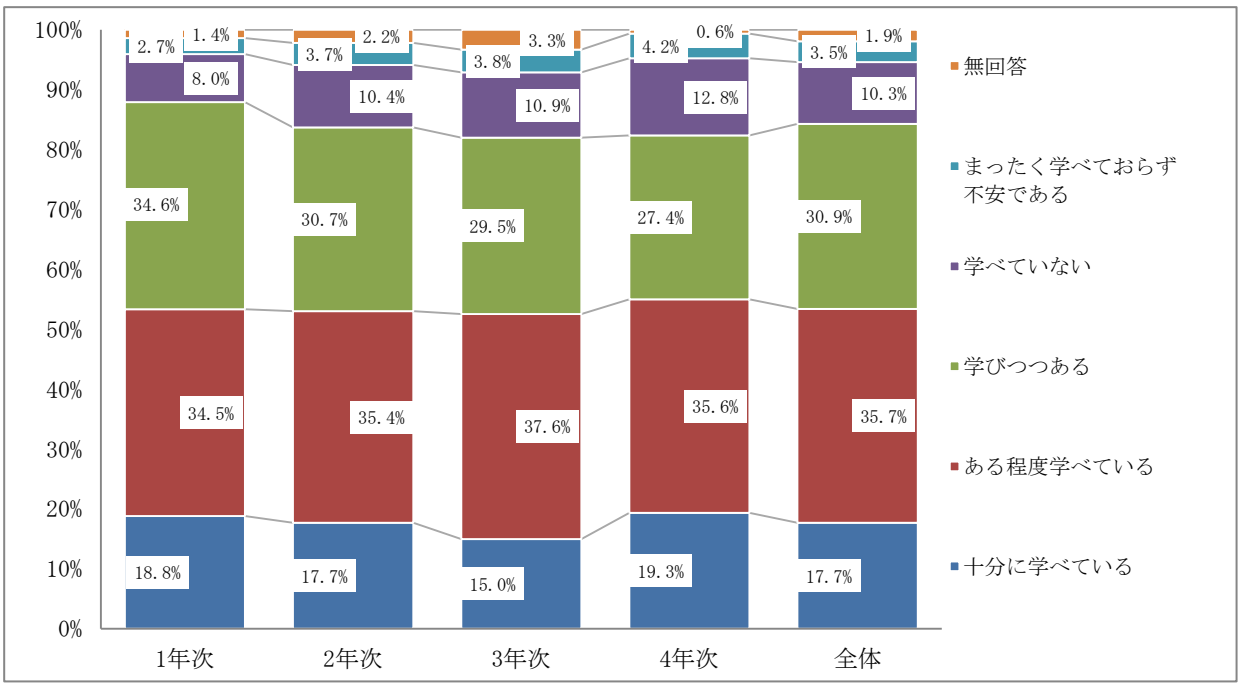


図 12.5　社会で実際に役に立つ応用力

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 十分に学べている | 411 | 334 | 260 | 274 | 1279 |
| 2. ある程度学べている | 755 | 669 | 653 | 505 | 2582 |
| 3. 学びつつある | 757 | 580 | 512 | 388 | 2237 |
| 4. 学べていない | 175 | 197 | 189 | 182 | 743 |
| 5. まったく学べておらず不安である | 58 | 70 | 66 | 59 | 253 |
| 無回答 | 31 | 42 | 58 | 9 | 140 |

## ＜XIII＞進級や卒業について

**XIII –① あなたは進級や卒業に不安を感じていますか。**

1. 全く問題ない
2. 若干ではあるが不安である
3. 不安がある
4. 極めて不安である
5. 既に留年を経験している

**設問 XIII –① で「5. 既に留年を経験している」と回答した方は次のイ～ロの設問にも回答してください。**

**イ. 留年の原因は何だと思いますか。**

1. 経済的理由で学業に専念できなかった
2. 努力はしたが授業が難しすぎてついていけなかった
3. 修学する意欲が湧かなかった
4. 進級要件やカリキュラムを理解していなかった
5. 大学での修学に必要な科目を高校で学んでいなかった

**ロ. 留年の原因のうち最も深く関連する履修の要件は何だと思いますか。**

1. 教養科目における数学・物理・化学の必修要件
2. 教養科目における外国語に関わる要件
3. 微分・積分等の基礎科目に関わる要件
4. 学科が指定する基幹科目に関わる要件
5. 学科が指定する展開科目に関わる要件
6. 各学年に設定されている進級のための総単位数に関する要件

## XIII-①　進級や卒業に関する不安

「不安である」と回答する割合は 60%を超えており、過去数年のアンケートも変化はない。しかし、この間に全学を挙げた取り組みによって、科目合格率が上昇し、留年生は減少している。本問の回答は、実際に卒業や進級できない学生の多寡ではなく、潜在的な不安が反映されていると受け止めるべきであろう。

「不安である」と回答した学生は、必ずしも学習支援センターを活用するなど実際に何らかの行動を起こしているわけではない。取得単位数が少ない学生には、学習支援センターがアプローチしているが、それとは別に潜在的な不安を抱えている学生への対応も今後の課題である。

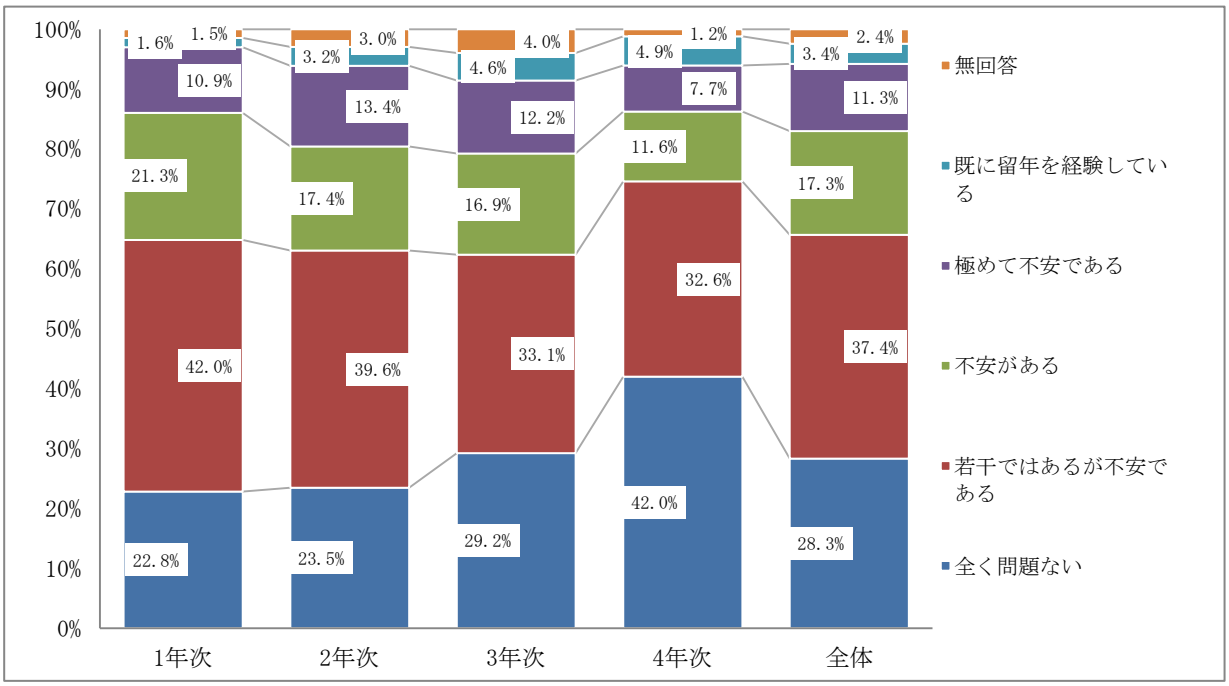


図 13.1　進級や卒業に関する不安

(回答者数)

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 全く問題ない | 499 | 444 | 508 | 595 | 2046 |
| 2. 若干ではあるが不安である | 918 | 749 | 576 | 462 | 2705 |
| 3. 不安がある | 465 | 329 | 293 | 165 | 1252 |
| 4. 極めて不安である | 239 | 254 | 212 | 109 | 814 |
| 5. 既に留年を経験している | 34 | 60 | 80 | 69 | 243 |
| 無回答 | 32 | 56 | 69 | 17 | 174 |

## XIII -①-イ　留年の原因

**（XIII -①で「既に留年を経験している」と回答した方のみ）**

2 年次で「修学する意欲が湧かなかった」が 50%と、例年になく多い。この傾向が続くのか、一過性のものなのかには注意を要する。「経済的理由で学業に専念できなかった」回答者はⅤ-①-ロのアルバイトをする日数が多いわけではなく、経済的理由が具体的にどのように学業に影響を及ぼしているのかは更なる調査が待たれる。

留年生の減少に伴って、この質問の回答者数は減り続けている。その過程で傾向に変化が出ている可能性があり、また少ない人数の変化でも回答の構成比が大きく変わりうることには留意したい。

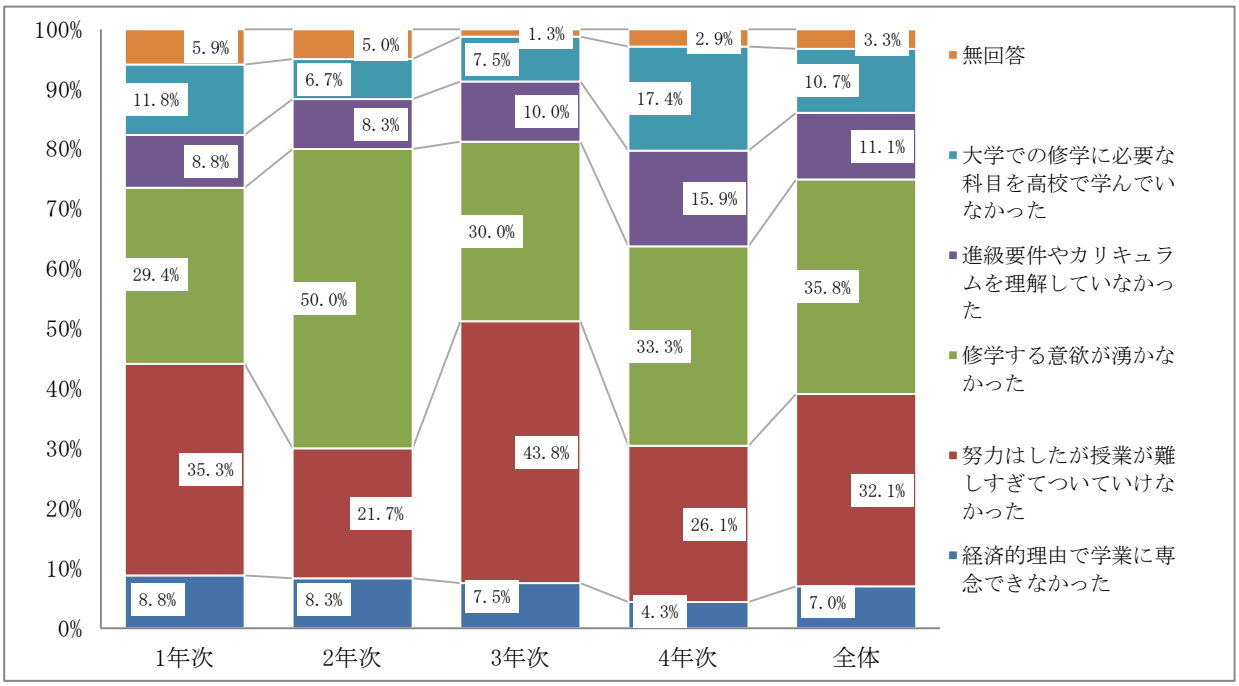


図 13.1.1　留年の原因

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 経済的理由で学業に専念できなかった | 3 | 5 | 6 | 3 | 17 |
| 2. 努力はしたが授業が難しすぎてついていけなかった | 12 | 13 | 35 | 18 | 78 |
| 3. 修学する意欲が湧かなかった | 10 | 30 | 24 | 23 | 87 |
| 4. 進級要件やカリキュラムを理解していなかった | 3 | 5 | 8 | 11 | 27 |
| 5. 大学での修学に必要な科目を高校で学んでいなかった | 4 | 4 | 6 | 12 | 26 |
| 無回答 | 2 | 3 | 1 | 2 | 8 |

## XIII -①-ロ　留年の原因のうち最も深く関連する履修の要件

**（XIII -①で「既に留年を経験している」と回答した方のみ）**

1 年次では「進級のための総単位数」、2 年次では「基幹科目」、4 年次では「展開科目」が留年の主な原因となっている。どの学年にあっても、取得単位の少ない学生への履修指導は重要である。この質問も回答者数は減少傾向にあり、今後の推移を見守りたい。

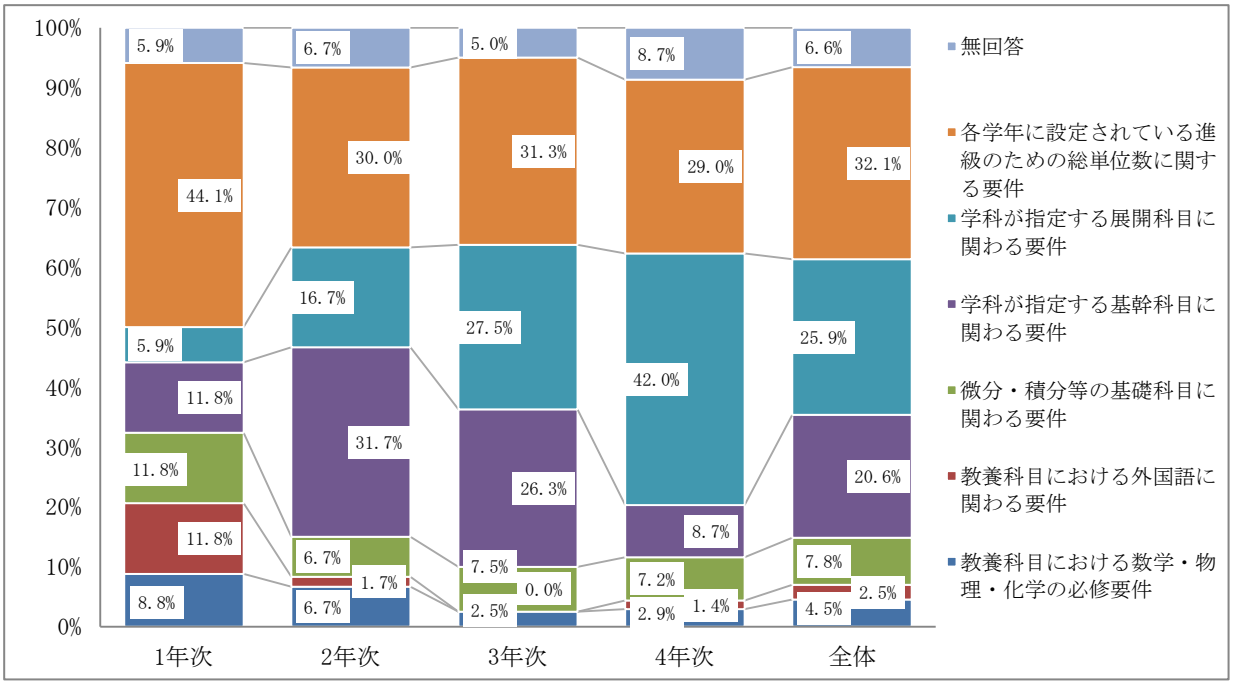


図 13.1.2　留年の原因のうち最も深く関連する履修の要件

（回答者数）

| | 1 年次 | 2 年次 | 3 年次 | 4 年次 | 全体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 教養科目における数学・物理・化学の必修要件 | 3 | 4 | 2 | 2 | 11 |
| 2. 教養科目における外国語に関わる要件 | 4 | 1 | 0 | 1 | 6 |
| 3. 微分・積分等の基礎科目に関わる要件 | 4 | 4 | 6 | 5 | 19 |
| 4. 学科が指定する基幹科目に関わる要件 | 4 | 19 | 21 | 6 | 50 |
| 5. 学科が指定する展開科目に関わる要件 | 2 | 10 | 22 | 29 | 63 |
| 6. 各学年に設定されている進級のための総単位数に関する要件 | 15 | 18 | 25 | 20 | 78 |
| 無回答 | 2 | 4 | 4 | 6 | 16 |

学生生活アンケート調査 2017
発行日　平成 30 年 3 月 31 日

学生生活調査アンケート結果取りまとめ担当者

| | | | |
|---|---|---|---|
| ◇全般・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 鈴木　　進 | 教授 | （学生委員会委員長） |
| | 小川　靖夫 | 局次長 | （学生センター） |
| | 森下　進一 | 部長 | （学生センター） |
| | 金井　久美子 | 課長 | （津田沼学生課） |
| ◇プロフィールについて・・・・・・・・・・ | 安藤　雅和 | 教授 | （学生委員会委員） |
| ◇入学、授業等について・・・・・・・・・・ | 下田　　篤 | 教授 | （教務委員会委員） |
| | 柴田　裕史 | 准教授 | （教務委員会委員） |
| ◇学生生活について・・・・・・・・・・・・ | 杉山　和成 | 准教授 | （学生委員会委員） |
| ◇進路について・・・・・・・・・・・・・・ | 坂本　幸弘 | 教授 | （就職委員会委員長） |
| ◇アルバイトについて・・・・・・・・・・・ | 滝　　聖子 | 准教授 | （学生委員会委員） |
| ◇図書館について・・・・・・・・・・・・・ | 屋代　智之 | 教授 | （図書館・情報メディア委員長委員長） |
| ◇学生食堂・購買部について・・・・・・・・ | 土手内　徹 | 次長 | （CIT サービス） |
| ◇施設・設備について・・・・・・・・・・・ | 半沢　洋子 | 教授 | （学生委員会委員） |
| ◇大学への要望について・・・・・・・・・・ | 糸井　清晃 | 助手 | （学生委員会委員） |
| ◇試験種別について・・・・・・・・・・・・ | 鴻巣　　努 | 教授 | （自己点検評価委員会委員長） |
| ◇受講者数・教員との信頼について・・・・ | 〃 | | |
| ◇学生諸君の学習意欲・達成度について・・ | 〃 | | |
| ◇進級や卒業について・・・・・・・・・・・ | 〃 | | |